

昭和三年税關長會議議事要録

本會議ハ六月四日開會セラレ劈頭三土大藏大臣ノ訓示アリ、引續キ主税局長司會ノ下ニ諮問事項ニ對スル答申並各關提出ニ係ル協議事項ノ審議及他省關係事務ノ打合ヲ了シ同月七日閉會セリ、其ノ開出席シタル高等官左ノ如シ

横濱税關長	井上徳太郎
神戸税關長	篠崎昇
大阪税關長	中島鐵平
長崎税關長	金光秀文
門司税關長	泉至剛
函館税關長	西森猷太郎
朝鮮總督府事務官	内海幹一
仁川税關長	渡邊秀雄
釜山税關長	宮崎又治郎
臺灣總督府税關長	大竹勇
本省高等官	
主税局長	藤井真信

關稅課長	飯田九州雄
大藏事務官	入間野武雄
同	谷口恒二
大藏技師	矢部規矩治
同	栗山正雄
關係省高等官	
農林技師	間部彰
同	横堀善四郎
同	藤卷雪生
農林事務官	橋本實斐
商工事務官	宮木廣大
逓信技師	鈴木七郎

大藏大臣ノ訓示

茲ニ稅關長會議ノ開催ニ當リ、諸君ト會同シテ所見ヲ述ブルノ機會ヲ得タルコトハ、私ノ欣幸トスル所デアリマス。

御承知ノ如ク、我邦ノ經濟界ハ多年不況ノ域ヲ脱セズ、殊ニ昨春ノ金融恐慌ニ依リ更ニ多大ノ打撃ヲ蒙ツタノデアリマスルガ、政府ニ於テモ之ガ對策ニ付大ニ努力シタルコトハ勿論又國民一致ノ協力ニ依リ、幸ニシテ其ノ整理モ順潮ニ進捗シ、財界ノ情勢ハ漸次良好ニ向ヒツツアルノデアリマス。就中外國貿易ニ於テハ、昨年來著シク入超額ヲ減少シ、本年ニ入ツテハ一層其ノ趨勢ヲ強メ、五月末迄ノ實績ニ依リマスレバ、前年同期ニ比シ實ニ八千餘萬圓ノ入超減ヲ示シ、此ノ狀況ヲ以テ進メバ今後一層國際貸借ノ改善ヲ期待シ得ルコトト思ハレマス。併シナガラ尙我經濟界ノ前途ハ遽ニ樂觀ヲ容サザルモノガアリマス。今ヤ國際間ノ經濟競争ハ日ニ益熾烈ヲ加ヘ來ツテ居リマスルガ故ニ、我國運ノ進展ヲ期スルガ爲ニハ、特ニ産業貿易ノ振興ヲ圖ルコトガ緊要デアリマシテ、政府ニ於テモ、此ノ點ニ付テハ最モ意ヲ用ヒテ居ル所デアリマス。

抑稅關ノ職務ハ、關稅ノ徵收、稅關設備ノ管理、防疫、交通警察等頗ル多岐廣汎ニ涉リ、主要開港ニ於ケル港灣行政事務ノ大半ヲ占ムル關係上、其ノ執務方ノ如何ハ、當該開港ノ盛衰ニ係ハルノミナラズ、我國産業貿易ノ消長ニ影響スル所ガ決シテ少クナイノデアリマス。諸君ハ課

稅事務又ハ關稅警察事務ノ如キ、常ニ執行ノ嚴正公平ヲ旨トスベキモノニ付テモ、當該行政ノ目的ヲ害セザル限リ、深ク一般ノ利便ヲモ考慮シ、且執務ノ敏捷簡捷ヲ期セネバナラヌノデアリマスガ、港灣設備ノ管理並戻免稅及保稅地域制度ノ如キハ、主トシテ産業貿易ノ助長ヲ趣旨トスルモノデアリマスルカラ、之ガ運用ニ當ツテハ、常ニ一般ノ利便ヲ主眼トシ、以テ適實ナル執行ヲ講ズルノ要アルノミナラズ、設備及制度ノ改善方ニ付テモ、平素克ク攻究ヲ遂ゲ、進ンデ適當ノ施設ヲナシ、或ハ當局ニ獻策スル等、積極的措置ニ出デラレムコトヲ望ミマス。尙近來國際間ニ通商貿易ノ障除除去等ニ關シ、論議セラレル所多ク、種々國際條約モ締結セラレル情況デアリマスルカラ、諸君ニ於カレテモ、宏ク内外ノ事情ヲ研究シテ常ニ執務ノ刷新改善ヲ圖リ、時代ノ要求ニ適應シテ以テ國運ノ發展ニ貢獻セラレムコトヲ冀望スル次第デアリマス。官紀ノ振肅ニ付テハ、機會アル毎ニ申述ベテ居ル次第デアリマスルガ、動モスレバ面白カラザル思想ノ瀰漫スルガ如キ傾向ノ觀取セラルル今日ノ社會狀態ニ於テハ、特ニ此ノ點ニ付注意ヲ要スルノデアリマス。諸君ハ常ニ實踐躬行、自ラ範ヲ示シテ黨督ノ任ニ膺リ、部下ヲシテ質實剛健ノ氣風ヲ養ハシムルト共ニ、能率ノ増進ヲ圖リ而モ一旦非違ノ所行アル者ニ對シテハ、斷乎タル處置ヲ講ジ、以テ嚴正ナル綱紀ノ維持ニ努メラレムコトヲ切ニ希望致シマス。會議ノ諮問事項ニ關シテハ、別ニ主稅局長ヨリ説明ヲ致サセマスガ、諸君ニ於カレテハ剴切適實ナル意見ヲ披瀝セヲレ、以テ稅關行政ノ改善ニ資セラレンコトヲ望ム次第デアリマス。

神戸稅關長答辭

稅關長一同ヲ代表シテ一言御挨拶ヲ申上ゲマス。本日大臣閣下ニハ吾々一同ヲ御召集ノ上親シク御懇篤ナル御訓示ヲ賜リマシテ、一同洵ニ感激ニ堪ヘザル次第デアリマス。惟フニ昨春ニ於ケル我國財界未曾有ノ混亂モ、閣下ノ非常ナル御苦心ト御努力トニ依リマシテ、漸ク安定ノ域ニ達シマシタコトハ國家ノ爲慶賀ニ堪ヘザル所デアリマス。又我が外國貿易モ昨年來著シク好調ニ向ヒ、國際貸借關係モ年ヲ逐フテ改善セラレツツアルコトハ是又國家ノ爲洵ニ御同慶ニ存ズル次第デアリマス。

吾々ノ職責ハ只今御訓示アリマシタ如ク、我が産業貿易ノ消長ニ重大ナル關係ヲ有シマスガ爲、稅關行政ニ付テ嚴正公平ナル執行ヲ爲スベキハ勿論、港灣利用者ノ利便、事務ノ簡捷及港灣ノ設備等ニ就テハ平素ヨリ深甚ノ注意研究ヲ怠ラヌノデアリマスルガ、今後ハ更ニ政府ノ産業立國ノ大方針ニ則リ、積極的ニ一層適切ナル方法ヲ講ズル爲努力センコトヲ期スル覺悟デアリマス。尙吾々ノ職務ハ海外ノ事情ニ精通スルノ必要アルハ言ヲ俟タザル所デアリマスルカラ、將來ハ稅關ノ職員ヲ海外ニ派遣シ視察セシムルコトニ御考慮ヲ煩ハシ度イノデアリマス。又港灣行政ノ統一ハ尙未ダ不徹底ナルモノアリ、港灣利用上不便尠クナイノデアリマスカラ、此ノ點ニ付テモ十分御考慮ヲ仰ギ度イノデアリマス。

官紀ノ振肅ニ就キマシテハ御趣旨ノ存スル所ヲ十分ニ體得シ、實踐躬行範ヲ下僚ニ示シ、其

ノ弛廢ヲ未前ニ防止シ、仍テ以テ綱紀ノ維持伸張ヲ圖ランコトヲ期スル次第デアリマス。
終ニ本會議ノ諮問事項ニ對シテハ、腹藏ナキ卑見ヲ開陳致シマシテ折角御召集ノ趣旨ニ副ヒ
度イ所存デアリマス。之ヲ以テ御挨拶ト致シマス。

六

主税局長挨拶

税關長會議ハ毎年四月若クハ五月ノ初メ開クヲ例トシテ居リマシタガ、今年ハ特別議會其
ノ他事務上種々支障ガアリマシテ、少シク後レタ次第デアリマス。諮問事項ニ付キマシテハ既
ニ夫々御研究ヲ願ツテアリマスルガ、簡單ニ其ノ要旨ヲ申シマス。第一ノ開港ノ利用増進ニ
就キマシテハ經濟上、産業上慎重ニ攻究スベキ問題デアリマシテ、貿易ノ改善ト國際交通ノ發
達ヲ圖ランガ爲ニハ斯ノ開港ノ利用ニ埃タネバナラヌノデアリマシテ、先年港灣行政ノ一部
ヲ統一スル爲、官制ノ改正ガ行ハレマシテ、港務部及植物検査所ノ事務ヲ税關ニ合一致シレマ
シタノモ、事務ノ簡捷ト當業者ノ利便ヲ圖リ、以テ港灣ノ利用ヲ増進スルトイフ趣旨ニ外ナラ
ナカツタノデアリマス。其ノ後諸君ノ御努力ニ依リマシテ、關係事務ガ圓滿ニ遂行セラレ、官制
改正ノ趣旨ノ達成セラレツツアリマスルコトハ、御同慶ニ存ズル次第デアリマス。併シナガラ
港灣行政ノ統一ニ付キマシテハ尙殘サレタ問題モアリ、統一スベキ方面モアリマシテ、官廳方
面ニ於キマシテモ、又民間ニ於テモ港灣協會其ノ他種々ノ方面ニ於テ論議サレテ居リマスガ、
要スルニ制度ハ其ノ運用ヲ人ニ埃ツノデアリマシテ、其ノ運用宜シキヲ得ナケレバナラヌノ
デアリマス。ト共ニ物的方面ニ於キマシテモ、出來得ル限り各種ノ施設ヲ充實スルトイフコト
ガ肝要デアルト思フノデアリマス。即チ今日ノ狀態カラ見マシテ此ノ制度ノ方面ニ於キマシ
テモ又人的物的ノ例カラ見マシテモ、幾多改善ヲ要スベキ方面ガアリマシヨウ、其ノ他取扱上

七

ニ就キマシテモ、諸君ノ事實上ノ御經驗ニ基キマシテ御意見ガアリマシヨウカラ腹藏ナク伺ヒ度イト思ヒマス。

次ニ贅澤品關稅ノ問題デアリマスガ、此ノ關稅ハ實施後既ニ數年ヲ經過シテ居リ、制定當時ト今日トハ各般ノ事情モ異ツテ居リマスルノデ、其ノ改廢トカ或ハ内容ニ就キマシテ改正ヲ加フル等相當考慮スル必要ガアリマスノデ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒ度イト思ヒマス。第三ノ貿易豫想ニ就キマシテハ諸君ガ實際貿易ノ衝ニ當ツテ居ラレル關係上、又各關特殊ノ事情ガアリマスルノデ、此ノ際御意見ヲ伺ツテ豫算編成上ノ參考ニ資シ度イト存ジマス。

尙今回ノ會議ハ三日ノ豫定デアリマスルガ、大藏省以外ニ打合ヲ要スルコトモアリマシヨウシ、切リ詰メタル時日ヲ以テ會議ヲ進メテ行キタイト思ヒマス、折角御精勵アラシコトヲ希望致シマス。

諮問事項

- 一、開港ノ利用増進方ニ關スル意見如何
- 二、贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律實施ノ狀況竝之ニ對スル意見如何
- 三、各關ニ於ケル本年ノ貿易豫想如何

答申要領

諮問第一

横濱税關長答申

本諮問事項ハ之ヲ一般的ニ各開港ヲ通シテ觀レハ根本問題トシテ論スヘキモノノ渺カラズ
港灣行政ノ組織系統問題ノ如キ其ノ最タルモノタリ其ノ他群小港灣ノ建設主義ト重要港灣
ノ改良主義何レヲ採ルヘキヤノ問題ノ如キハ政治上財政上重要ナル事項ト思惟ス
然レトモ斯ノ如キ一般的事項ハ別トシ以下少シク横濱港及管内諸港ニ付キ設備ト運用ト
ニ分チテ述フル所アラムトス

第一海上設備

港灣ノ利用ヲ増進スル爲ニハ海上設備トシテハ船舶ノ航行、碇泊ノ安全ヲ保障シ得ルモ
ノカラサルヘカラス今横濱港船舶出入ノ狀況ヲ觀ルニ第二期築港ノ完成シタル大正六年入
港ノ外國貿易船ハ千貳百八拾參隻登簿噸數參百四拾五萬五千七百貳拾四噸ニシテ昭和二年
ノ隻數貳千四百五拾八、噸數九百六拾五萬九千八百六ニ對シ隻數ニ於テ二倍、噸數ニ於テ二
倍七ニ達シタルカ海上設備ニ於テハ其ノ當時ト今日トハ殆ト何等ノ差異ナシ元來横濱ハ最

終港ニシテ碇泊期間ノ長キモノ多數ヲ占メ在港船割合ニ多キニ拘ハラズ收容力ハ之ニ伴ハ
ス屢々港外ニ假泊スルノ已ムヲ得サルコトアリ少シク風波アルトキハ荷役不可能ニシテ又
天候平穩ノトキト雖港外荷役ハ費用概シテ三割高トス船舶ノ修理ノ如キモ工費徒ニ嵩ムヲ
以テ已ムヲ得ス他港ニ持越スコトアリ船主、貨主側ニ不便ヲ與フル而已ナラス繫船ノ指定
其ノ他港内整理困難ヲ極ム

(1) 有効水面ノ擴張

依テ横濱港ノ利用ヲ増進スル爲ニハ先ツ港内ノ有効面積ヲ擴張スルコト必要ニシテ目
下計劃中ノ大防波堤ヲ速ニ完成スルヲ要ス

(2) 水深ノ維持

港ノ生命ハ水深ニ關係スルコト勿論ニシテ其ノ深キ程理想的ナルモ之ヲ浚渫スルニハ
巨額ノ經費ヲ要ス而シテ我國ニ來往スル我國内外船舶ハスエズ運河、パナマ運河及揚子
江ノ水深ニ左右セララルルニ依リ必要ナル水深ニハ自ラ限度アルモ横濱港ハ岸壁拾壹ヶ所
ノ内第壹號ハ拾六呎、六號、七號ハ貳拾五呎、八號ハ貳拾七呎、拾壹號ハ貳拾參呎、拾貳號ハ
貳拾呎ニシテ明治三十八年既定水深ヨリモ貳呎乃至參呎餘ヲ減シ時代ノ要求ニ逆行シ居
ル現状ナリ貳拾參個ノ浮標中水深參拾呎ノモノ一、五個ハ貳拾四呎以下ニシテ錨地拾六
（鶴見ヲ含ム）モ概シテ貳拾呎乃至貳拾四呎ナリ之カ爲著シク運用ヲ阻害シ官民共ニ苦痛
トスル所ニシテ浚渫ハ急務トスル所ナルカ少クモ其ノ維持ハ絶エス之ヲ爲ス必要アリ港

内浮流ノ材木其ノ他ノ障害物ハ船舶ノ安全ヲ害シ又市内水路ヨリ吐出ス塵芥ハ港内ノ衛生状態ヲ脅カスモノナルヲ以テ開港ノ利用増進上絶エス掃海除却ヲ爲ス必要アリ而シテ之レカ爲ニ少ナカラサル經費ヲ要スルヲ以テ特ニ御考慮ヲ煩ハシタシ

(3) 安全ナル繫船浮標ノ必要

岸壁ヲ築造シテ船車連絡ノ設備ヲ完備スルコトハ時代ノ要求ニ應スル施設トシテ勿論必要ナレトモ我國ノ開港ニ於ケル貨物集散ハ今猶舢舨役ヲ要スルコト多キヲ以テ浮標ノ完備ハ益々其ノ必要ヲ増加スル傾向アリ横濱港ニ出入スル航洋船ハ概シテ七千噸以上トス然ルニ貳拾參個ノ浮標中之等ノ船舶ヲ拾五米突ノ風ニ對シ安全ニ繫留シ得ルモノハ僅ニ七個ニ過キス其ノ他ハ何レモ錨ハ輕ク錨鎖ハ製造年月不詳ノ古物ニシテ支持力非常ニ弱ク船舶繫留中屢々危険ニ陥リシコトアリ依テ港ノ安全ト便益トヲ圖ル爲之レヲ修繕スルノ必要アリ尠クモ五個ハ事實取換ノ必要ニ迫ル

(4) 舢舨及木材筏ノ整理

舢舨ノ溜場ハ何レノ港ニ於テモ閉却セラル傾向アリ舢舨沖荷役ヲ主トスル我國ニ於テハ當初ヨリ之レニ對スル設備ヲ忽ニスルヲ得サルカ殊ニ狹隘、繁劇ナル港ニ於テ然リトス横濱港ニ於テハ先年來問題トナリテ大岡川河口ニ之ヲ設ケタルモ完全ナル状態トハ言ヒ難シ材木大物ノ取扱ハ水面ヲ利用スルヲ便宜トスルハ勿論ナルカ横濱港ノ實況ニ依レハ大正五年ニ水卸シタル木材ノ量ハ百八拾萬石ニ過キサリシカ震災後俄ニ激増シ拾五年ニ

ハ四百萬石昨年ハ少シク下リテ參百八拾萬石今後ノ推定ハ四百萬石ヲ下ラサルヘシ然ルニ從來之ヲ收容スヘキ設備ナキ爲己ムヲ得ス港内ノ一部約五萬坪ヲ之ニ使用シ居ルカニ朝風波ノトキハ港内ニ散亂シテ船舶ノ航行碇泊ニ多大ノ障害ヲ來タセリ大正拾五年以來朝野之レカ設備ノ實現ニ努力中ナリ

(5) 航路標識ヲ完備スルコト

東京灣内ニ於ケル濃霧又ハ暗夜ノ爲展望ヲ妨ケラレ航海遲延又ハ海難ニ遭遇スル船舶尠カラス帝都ノ玄關タル横濱港ニ安全ニ出入シ得ル様東京灣口第一、第三海堡荒洲及本牧挂燈浮標ニ完全ナル霧笛ヲ設ケ子安浮標鶴見防波堤南方入口ノ浮標ニ完全ナル點燈裝置ノ必要アリ

(6) 曳船ノ修繕

第二陸上設備

(1) 陸上設備ノ現状

横濱港海陸連絡設備ニシテ震災復舊ニ係ルモノノ工事ハ既ニ豫定ノ八割方竣功ヲ告ケ即チ建物トシテ拾貳號上屋壹棟ノ改築煉瓦倉庫貳棟ノ補修工事及西波止場旅具検査場ヲ剩スノミ其ノ他ニ於テ今後施工スヘキモノハ主トシテ道路及鐵道工事ノ一部トス廳舎ノ新築及物揚場(上屋)ノ工事ハ至急著手スルニ至ラムコトヲ希望ス

(2) 物揚場ノ經營ニ付テ

物揚場ハ震災後(イ)號及(ハ)號ヲ除キ私設上屋ヲ經營セシメ居レルカ之ニ對スル今後ノ處置如何ハ考慮ヲ要スヘキ問題タリ之ト同時ニ稅關構内工作物建設ノ制限カ今日橫濱ノ實狀ニ適スルヤ否ヤモ慎重ニ考察スルヲ要ス

(3) 旅客設備

多數外人客ヲ招致スルコトハ國家經濟ノ消長ニ重大ナル關係ヲ有ス而シテ之ヲ爲スニハ入國第一歩ニ好印象ヲ與フル様爲ササルヘカラス幸ヒ橫濱港ニ於テハ適當ナル設備ヲ有スルモ之ヲ十分ニ利用スルニハ尠カラサル經費ヲ要スルヲ以テ遺憾ノ點ナシトセス此點ニ關シテハ御考慮煩ハシ度シ

(4) 各種海陸連絡設備ノ維持

設備ノ大部分ハ既ニ竣工シ之ヲ利用シ居ルモ今後其ノ運用及維持ニ多額ノ經費ヲ要スルコトヲ覺悟セサルヘカラス運用費ハ勿論修繕費ノ如キモ年々一定ノ計劃ノ下ニ漸次全般ニ及ホス様致シタキモノナリ今其ノ重ナルモノヲ擧レハ

- (イ) 岸壁及棧橋ノ「ガーダー」ノ修繕 三年毎ニ塗替ヲ要スルコトハ施工者タル内務省土木出張所ヨリ屢々注意アリ
- (ロ) 防舷材ノ修繕 浸蝕甚タシク其ノ用ニ堪ヘサルモノ尠カラス猶將來ノ施設ニ付テハ經驗上防舷材ノ取付ニ付キ研究ヲ要スル點アリ
- (ハ) 上屋ノ修繕 鐵造上屋ハ三年毎ニ塗替ヲ必要トス上屋雨漏ニ付テハ遺憾ノ次第ナ

ルカ目下技術者ヲシテ防止方法ヲ講セシメ居レリ

- (ニ) 自動起重機ノ運用費 使用上便利ナルト共ニ其ノ運用修繕ニ尠カラサル經費ヲ要ス

(5) 第三期擴張工事

内務省ニ於テ施工ニ係ル該埋立地ハ略ホ完成セリ引續キ相當陸上設備ヲ爲ス必要アリ其ノ利用開始セラルル曉混雜セル橫濱港内ノ整理及隔地發送貨物ハ多大ノ便宜ヲ得ルニ至ラン

第三設備ノ運用

- (1) 海陸運送業者ステヴェ、船業者等ノ取締方法ヲ講スルコト

本件ハ何レノ港ニ於テモ必要ト考ヘラルルモ殊ニ橫濱港ニ於テハ群小多數ノ海陸運送業者等アリ運賃ハ概シテ高ク又競争ニ依リ安キ場合ニモ薄資、不信用ノ者多ク又信用アル「ランデングエーゼント」間ノ協定ノ如キモ不當ナルモノナキニアラス

就中岸壁荷役員ト沖荷役員ト同一ナル如キハ岸壁ノ効用ヲ一沒却スルモノナリ又多數ノ船本船ニ密集シ貨物ノ奪合ヲ爲スカ如キハ關稅取締上及港内整理上不都合トスル所ナリ之等ヲ特許業トシテ稅關ニ監督權ヲ有スルコトトナレハ自ラ淘汰セラレテ少數ノ信用アル組織ノモノト爲シ得ヘク從來開港場ニ於テ最モ不統制ナリシ此種業體ノ情弊除去セラレ合理化セラルルコトト信ス

(2) 港灣利用調査會ヲ設クルコト

事實上税關ハ開港ノ管理經營者ニシテ其施設ノ適否ハ關係スル所大ナルノミナラス内務省ノ所管タル港灣工事ニ付テモ税關當局ノ意見ハ重キヲ爲ササルヘカラス之ヲ以テ税關ハ常ニ細密ノ調査研究ヲ爲スト雖船舶貨物ノ取扱及之ニ對スル施設ノ適否ハ實際的智識ニ依タサルヘカラスアルヲ以テ實際家ノ意見ヲ聽取シ之ヲ參考トスルノ便宜ヲ得ムトスル所以ナリ

(3) 支署長ニ高等官ヲ増置スルコト

比較的大ナル開港又ハ發達ノ著シキ開港ニ於テハ高等官ヲ以テ支署長ニ充テ地方開發設備ノ利用、増進ニ資セラルル様致シタシ管内ニ於テハ清水ハ貿易參千萬圓ヲ超ユルノミナラス現ニ將來ノ發達ニ應スル爲其ノ設備ヲ擴張シツツアリ又新潟港ハ貿易額ニ於テハ巨額ト言フヲ得サルモ港灣修築工事竝海陸連絡設備完成シ其ノ利用ニ對シ相當計劃ヲ有スルモノアリ且ツ五港ノ一トモ數ヘラルル處ナルヲ以テ其ノ地位ヲ向上セシムルノ必要アリト信ス支署廳舍モ近ク移築計劃アリ

尙鶴見ニ於テハ近來入港船多キヲ以テ税關出張所ヲ設クルノ要アリ御考慮ヲ乞フ

(4) 内國貨物集散狀況ノ調査

開港ニ於テハ内國貿易ヲ閉却スルノ傾アルモ開港ノ利用上竝産業狀態調査上此ノ種貨物ノ集散狀況ヲ知ルノ必要アリト思惟ス仍テ内國貨物ノ統計ヲトリタシ

横濱税關長

税關構内取締ノ爲入場券ヲ發行シテハ如何

主税局長

無用者ノ出入ヲ禁スルカ爲ニハ一方法ナランモ料金ヲ成ルヘク小額ニスル等實行上考慮ヲ要スル點アルヘシ

神戸税關長答申

由來領土狹少ニシテ天然資源ニ乏シク而モ四面環テスニ海ヲ以テスル我邦ニ於テ産業貿易ノ振興發展ヲ圖ラントセハ一ニ海陸交通ノ關門タル開港ノ利用ヲ増進シ其ノ機能ヲ發揮シ開港本來ノ任務ヲ達成セシムルノ方途ヲ講センコト實ニ刻下ノ一大急務ナリト謂ハサルヘカラス

宜ナル哉近時朝野ヲ擧ケテ港灣政策ノ確立及港灣利用ノ増進ニ銳意努力シ今ヤ到ル所著著設備ノ充實ヲ見能ク白熱的世界商業戰ノ前線ニ伍シテ雄飛シ得ルノ良港灣ヲ加ヘツツアルコトハ實ニ幸慶ニ堪エサル所ナリ

然レトモ具ニ開港利用ノ現況ヲ顧ルトキ開港ヲシテ能ク其ノ本然ノ機能ヲ發顯シ之カ利用上間然スルナキノ域ニ到達セシメンニハ猶積極的施設改善ヲ要スト認ムヘキモノ多々伏

在スルヲ惟ハサルヘカリス唯等シク開港ト稱スルモ各自夫々特異ノ事情ヲ存シ從テ其ノ之ニ對スル利用ノ方法ヲ求メンカ固ヨリ各様各體ニシテ頗ル多岐ニ渉ルヘシト雖茲ニハ主トシテ廣ク開港利用上ノ共通問題ニシテ特ニ考慮ヲ要スト認ムル諸事項ヲ便宜左ノ項目ニ大別シ卑見ヲ開陳セント欲ス

- 一、開港設備ニ關スル事項
- 二、開港諸費ニ關スル事項
- 三、開港行政ニ關スル事項
- 四、貿易助長ニ關スル事項

(一) 開港設備ニ關スル事項

開港設備ニ關シテハ昨午稅關長事務打合會ニ於テ相當論議セラレタル所ナリト雖設備ノ充實完備カ開港利用ノ第一義ノ要件ナル以上其ノ攻究ハ須臾モ之ヲ忽緒ニ附スヘカラサルヲ以テ茲ニ重ネテ其ノ概說ヲ贅スル所アラントス即チ

- イ、船舶ニ關スル設備
- ロ、貨物ニ關スル設備
- ハ、旅客ニ關スル設備

ニ區分考察スルニ

イ、船舶ニ關スル設備

港灣ノ第一要素カハ即チ港内ノ安全ニ存スル以上其ノ設備ハ先ツ船舶ニ關スルモノヲ完備スルヲ以テ出

發點トスヘク而シテ現在我國大多數ノ開港ニ於テ此ノ種設備上重ナル共通缺陷ト目セラルル點ハ

1. 船用炭船用油其ノ他船用品ノ貯藏及供給設備ノ不備ナルコト
(例ヘハ重油貯藏船又ハ冷藏船ノ如キ保稅船ノ設ケナキコト)
2. 給水設備ノ完備セサルコト
3. 船陸通信設備ノ不完全ナルコト
4. 岸壁又ハ浮標ノ設備不充分ナルコト
5. 危險品搭載船舶ニ對シ安全ナル荷役場所ナキコト
6. 全ク曳船ヲ缺クカ又ハ其ノ數不足ナルコト
7. 防波堤設備ノ不完全ナルコト
8. 水路投錨區域等港内水深維持上ノ浚渫設備整ハサヌコト
9. 舢舨船其ノ他舢舨及小蒸汽船ニ對スル設備ノ輕視セラレ居ルコト
10. 塵船ノ供給圓滑ナラサルコト
11. 船員ノ慰安娛樂設備例ヘハ海員寄宿所、海員俱樂部、海員病院、旅館、料理店、劇場等ノ見ルニ足ルモノナキコト

右ハ神戸港ノ如キ第一流ノ開港ニ於テスラ屢々當業者ヨリ其ノ不便苦痛ヲ懇フル所ナリカ此等ハ關係各方面ト協議レ適當ノ方法ヲ以テ速ニ之カ解決ヲ講スヘキ喫緊事ナリト信ス

ロ、貨物ニ關スル設備

貨物ハ實ニ港灣ノ血液ニシテ其ノ生命ハ之カ吞吐ニ依リテ維持セラルト謂フモ敢テ過言ニアラサルヘク畢竟港灣設備ハ貨物ニ關スル設備ヲ以テ主位ト爲スヘシ從テ開港ニ於ケル各種貨物ノ荷役、荷捌及保管ニ必要且適

當ナル設備ヲ有スルコトハ開港利用増進上ノ根本條件ニシテ此ノ點ニ於テハ我邦開港中其ノ設備比較的完備セ
タリト目セラルル神戸港ニ於テスラ改善ヲ要スヘキ幾多ノ缺陷ヲ有スルモノニシテ今右ニ關シ考慮ヲ用フヘキ
主要事項ヲ例示セハ

1. 特殊倉庫即チ危險品倉庫、冷蔵庫、散積品倉庫ノ設備極メテ不充分ナルコト
2. 重量貨物ノ積卸設備殆ト備ハラサルコト
3. 官設上屋及倉庫ニ於テハ防火及消防設備著シク不完全ナルコト
4. 官設上屋及倉庫内ニ於ケル機械設備全ク備ハラサルコト
5. 突堤及物揚場起重機ノ能率貧弱ナルコト
6. 竹木筏收容ニ適當ナル設備ヲ有セサルコト
7. 簡單ナル加工作業上必要ナル動力及機械設備ヲ備フニ保税工場ナキコト
8. 陸揚貨物ノ解積設備等ノ等閑視セラレ居ルコト
9. 收容倉庫ノ設備不完全ナルコト
10. 鐵道小口扱貨物ノ取扱設備不便ナルコト

等ト爲スヘク而シテ開港ノ貨物設備ハ其ノ管理經營ノ主體或ハ國ナルアリ地方自治團體ナキアリ會社又ハ個人
ナキアリ而モ其ノ築營ハ相當巨額ノ經費ヲ要スルコト以テ貨物設備充實ノ事固ヨリ容易ナラズトスルモ尠クモ
各開港ノ特殊相ニ適應シ的確ナル計劃ノ下ニ將來設備ノ新設改造ヲ行フヲ以テ肝要ト爲スヘク神戸港ノ如ク既
ニ相當大規模ナル官設貨物設備ヲ有シ而モ其ノ利用カ今日殆ト飽和點ニ達セル一方之カ維持修繕ニ尠カラサル
經費ヲ支出シテツアラハ狀況ニ在リ開港ニ於テハ向後貨物設備ノ一部ハ專ラ之ヲ民間會社ニ委レテ適當ナル施設
ヲ爲サシムルヲ以テ却テ利用上ノ圓滑ヲ期スルヲ得ヘシト見解ヲ生スルニ至ルモ怪ムニ足ラサルヘク貨物

設備ノ經營方針ニ關シテハ開港ノ實勢ニ照シ慎重決定ヲ要スヘキコト言フ俟タサル所ナルヘシ

ハ、旅客ニ關スル設備

旅客ニ關スル設備ハ一二開港ヲ除キ殆ト閉却セラレ居ルノ觀アリ開港カ外國往來旅客ノ發著所タル點ヨリ見
特ニ近時大規模ノ觀光團ノ寄港スルモノ連リニシテ今後愈々國際交通ノ繁劇ヲ加ヘ來ルノ傾向ニ鑑ミ適當ナル
旅客設備ヲ爲サンコトハ開港利用増進上ノ一要諦タルヲ失ハス

1. 旅客ノ本船乗降及船車連絡ヲ完全ナラシムルコト
2. 旅具検査設備ヲ完備スルコト
3. 旅客案内ノ諸設備ヲ便利ナラシムルコト
4. 旅客携帶品及旅具ノ保管設備ヲ完全ナラシムルコト
5. 旅客及送迎客ノ待合設備ヲ完備スルコト
6. 信用アレ兩替機關ヲ稅關構内ニ設クルコト
7. 稅關構内ニ於ケル公衆電信電話設備ヲ増加スルコト
8. 稅關構内ニ郵便電信局ヲ設クルコト
9. 通船設備ヲ充分ナラシムルコト
10. 旅館設備ヲ完備スルコト

(二) 開港諸費ニ關スル事項

開港利用者ノ負擔ヲ輕減シ之カ合理的統制ヲ爲サンコトハ開港利用促進上最モ喫緊事タルコト固ヨリ多言ヲ須
セス

港灣諸費ノ問題ハ之ヲ港灣利用者タル船舶貨物及旅客ノ二者ニ關スルモノニ區分觀察スルヲ便トスヘク而テ諸費ノ中(1)法規ニ基キ所定額ノ納付ヲ強制セラルルモノト(2)設備若ハ勞務提供者ニ於テ料率ニツキ當該官廳ノ認可ヲ要スヘキモノト(3)全ク當事者間ノ自由協定ニ基クモノトノ別アルヲ以テ此ノ點ニ於テモ統制ノ方法ヲ異ニスルヲ要スヘシト雖差當リ右ノ中(2)及(3)ニ就テハ左記ニ依リ可成諸費ノ低減ヲ圖リ以テ輸出入貨物ノ原價ニ有利ナキ影響ヲ及ボサシメシコトヲ期スルヲ要アリ

- イ、當業者ヲシテ自制的ニ低減ヲ圖ラシムルノ途ヲ講スルコト
- ロ、税關長ノ認可ニハ一層調査ヲ嚴密ニスルコト
- ハ、税關長ハ常時之ニ關スル各般ノ攻究調査ヲ爲スコト

(三) 開港行政ニ關スル事項

港灣就中開港内ニハ各種行政ノ客體混在シ而モ同一客體ニシテ諸般行政ノ對象トモモ多ク所謂開港行政ハ異種系統ノ事務交錯接觸シ其ノ執行上ノ不便ハ當業者及民間共ニ甚シク苦痛ヲ感シツツアル所ナリ其ノ然ル所以ハ一ニシテ足ラズト雖

- A. 關係諸法規ノ不統一
- B. 管理組織ノ不統一

ニ大別スルヲ得ヘク從テ港灣行政ノ統一ハ此ノ二者ヲ對象トシ其ノ根本方針ノ樹立ニ努メサセヘカラス夫ノ大正十三年末ニ於ケル税關官制ノ改正ハ著シク如上ノ支障ヲ緩和シ得タリト雖而モ猶現狀ヲ以テシテハ開港行政事務ノ運用上圓滑ヲ缺ク其シキモノ多キヲ憾ム此ノ點ニ關シテハ近時港灣協會等ノ頻リニ策動スルアリト雖其ノ主張スル所ノ如キハ圓ヨリ國家産業貿易政策ノ上ヨリ見テ輕キニ斷スルヲ容ササルノ大問題ニシテ且又今日ニ於ケル港灣ノ實情ヲ無視シ徒ニ形式ノ末ニ拘泥シテ必要ノ程度ヲ逸脱セントスルカ如ク到底實行ヲ得ヘキニ非ス

港灣行政ノ統一ニ就テハ屢次各關ヨリ意見ノ上申セラレ常ニ考慮ヲ進メラレツツアリトハ信スルモ先ツ諸多ノ事情ニ鑑ミ比較ノ可能性アルモノヨリ始メテ逐次税關本位ニ其ノ整理統一ヲ圖ランコトハ開港利用増進上喫緊ノ事ナリト信ス

今其ノ比較的急施ヲ要スト認ララルルモノヲ例示セハ左ノ如シ

- 1. 法令ニ關スルモノ
 - イ、開港港則ハ三十餘年前ノ制定ニ係リ現時ノ港灣行政ニ適セサルノ條項頗ル多キヲ以テ之ヲ改正シ尙開港港則未施行ノ開港中重要ナルモノニ對シ速ニ之ヲ實施スルコトトシ港務檢疫等ノ事務ヲ税關港務部ニ移管スルコト
 - ロ、税關官制中府縣港務部當時ノ組織ヲ踏襲シ求レルモノニシテ官職名、權限、待遇等妥當ナラサルモノアリ此ノ際一般的ニ税關官制並其ノ分課ヲ整理統一スルコト(昭和三年二月二十六日神發第四二六號稅關分課規程ノ改正方ニ對スル當關提出意見参照)
 - 2. 行政組織ニ關スルモノ
 - イ、港内行政警察事務ニ就テ税關港務部ト府縣警察部トノ分擔ヲ明確ナラシムルコト
 - ロ、食肉輸入手續ヲ税關ニ統一スルコト
 - ハ、税關港務部官吏ヲシテ燈臺局職員ヲ兼ネシメ港内航路標識ノ管理ヲ掌ラシムルコト

(四) 貿易助長ニ關スル事項

開港ノ利用増進ニ對スル根本要素カ外國貿易ノ進展ニ在ルコト言フヲ俟タサル所ニシテ之カ助長ニ關スル卑見ヲ逐一述フルコトハ事ノ範圍餘リニ廣汎ニシテ容易ニ盡スコト能ハス且大正十二年ノ税關長會議ニ於テ本問題ニ關スル答申アリタルヲ以テ茲ニ再說ヲ省キ

- 1. 保税工場ノ趣旨ノ宣傳シ其ノ利用ヲ更ニ圓滑ナラシムルコト

- 一 輸出戻免稅制度ノ利用ヲ促進スルコト
 - 二 輸入取締品ヲ植物專賣品等ノ爲メ特別倉庫ヲ指定シ其ノ仲繼ニ使ナラシムルコト
 - 三 通關検査ヲ敏捷ナラシムルコト
 - 四 輸出貨物通關手續ヲ取扱フニハ稅關貨物取扱人タルノ免許ヲ要セサルコト
 - 五 稅關執務時間ヲ延長スルコト
- 等ハ我カ稅關事務ノ範圍内ニ屬スルコト以テ關係法規ノ改正ト相俟テ比較的實行容易ナル助成方法ナリト思料ス
就中執務時間ニ就テハ朝九時出勤一時間早メ晝飯休憩時ヲ交替ニスル等實行容易ナリトス

橫濱稅關長

朝一時間早メ退廳時一時間繰上ケテハ如何

主稅局長

勤務時間ノ改正ハ影響スル處廣カルヘシ各關一致ノ希望ナラハ考慮スヘキモ之カ爲關係官廳及民間業者ノ意嚮ヲ確ムルノ要アルヘシ現在ノ勤務時間ニテ一般業者側ニ不便ヲ感スルモノアリトセハツハ現行ノ時間ヲ勵行スルコト即朝八所定時間ヨリ執務シ得ルヤウ吏員ヲ督勵セハ其ノ不便ヲ緩和シ得ルヤウ思惟スルカ如何

大阪稅關長

稅關ニテ主動的ニ之カ改正ヲ爲ス必要ナルヘシ一般會社就中銀行業者等稅關係機關ニテツノ必要ヲ認メ且民間業者間ニ之カ改正ヲ必要トスル事情發生セサル限り之ヲ改正ス

ルノ要ナキモノト認ム

大阪稅關長答申

本問ハ其ノ内容極メテ複雜多岐ニ互レルモ畢竟開港ノ外國貿易上ニ於ケル機能ヲ増進發揮セシムル方策如何ヲ要綱トシテ諮問セラレタルモノナルヘク、從テ此ノ趣旨ニ於テ簡明ニ卑見ヲ陳述セムトス。

大阪稅關管内ノ開港ハ表日本方面ニ於テハ大阪、名古屋、四日市及武豐ノ四港、裏日本方面ニ於テハ敦賀、七尾、伏木及宮津ノ四港ナルカ此等諸港ノ開港トシテノ利用狀況ハ固ヨリ同日ノ談ニ非ス。昭和元年ニ於ケル大阪港ノ外國貿易額ハ六億九千九百萬圓ナルカ、宮津港ノ貿易額ハ其ノ千分ノ一ニモ足ラサル六拾九萬四千圓ナリ。又外國貿易額ト内國貿易額トノ比率ヲ見ルモ宮津、七尾及伏木ノ諸港ニ在リテハ貿易總額ノ九割以上ハ内國貿易額ナルニ、大阪及敦賀ノ二港ニ在リテハ其ノ約三割、武豐、名古屋及四日市ノ諸港ニ在リテハ其ノ約半額ハ外國貿易ノ占ムル所ナリ。又大阪港ハ開港トシテ六十年ノ歴史ヲ閱シタルニ拘ラズ名古屋港ハ僅ニ二十年ノ沿革ヲ有スルニ過キスシテ其ノ間ニ於ケル盛衰ノ狀況亦一ナラス。更ニ外國貿易ニ關スル輓近ノ趨勢ヲ見ルニ大阪港ノ躍進的發展ハ敢テ贅セス。四日市及武豐ノ兩港ニ漸衰ノ兆アルト共ニ名古屋港ニ鬱然タル新興ノ勢アリ。尾大振ハサル敦賀港ヲ睥睨シテ新進侮ルヘカラサル七尾港及伏木港等ノ擡頭セルアリ。十人十色、一言以テ蓋フ

ヘカラサル所ニ開港利用狀況ノ特色アリトスヘキカ如シ。

惟フニ開港ノ利用増進方ニ關シテハ之ヲ諸般ノ方面ヨリ考究スルヲ要スヘク、或ハ開港ノ開設及閉鎖等ヲ策セムトスル開港政策上ノ問題モアルヘク又ハ現存セル個々ノ開港ヲ對象トシテ其ノ設備、制度及行政事項等ヲ整備改善シ以テ其ノ利用増進ヲ圖ラムトスル方面モ存スヘク、畢竟本問ハ(一)開港政策(二)開港設備(三)開港制度及(四)開港行政等ノ各般ノ事項ニ跨リ其ノ關スル所極メテ廣汎ナルカ、茲ニハ主トシテ税關行政ノ見地ヨリシテ右ノ諸事項ニ關シ考察スルニ止メムトス。

(一) 開港政策上ノ問題

開港政策上開港ノ集中即チ開港ノ整理ヲ方針トスヘキヤ否ヤハ容易ニ斷定シ難シト雖左ノ如キ諸點ハ特ニ考慮ノ要アルヘシト思料セラル。

(イ) 開港閉鎖ニ關スル貿易價額ノ制限額ヲ相當程度ニ引上ケ開港ノ整理ヲ爲スハ内國貿易ト外國貿易トノ分業ヲ圖ル所以ナルト共ニ開港ノ利用増進ヲ策スル方途ナルコト

(ロ) 特定ノ港ニ關シ不開港出入ノ常例の特許ヲ與フルカ如キハ一種ノ開港開設ト目スヘキモノナルヲ以テ此ノ種事項ニ付テハ開港政策ノ根本ニ觸レテ其ノ方針ヲ一定スヘキコト

(ハ) 特定ノ港ヲ既ニ開港トシテ指定シタル以上ハ檢疫其ノ他ノ事項ニ關シテモ充分ノ

機能ヲ發揮セシムルコト

(二) 開港設備上ノ問題

茲ニ所謂「開港設備」トハ防波堤、航路、水深、棧橋、繫船岸壁及繫船浮標等ノ泊船設備、起重機其ノ他ノ荷役設備、軌道、鐵道、上屋及倉庫等ノ海陸連絡設備其ノ他開港ノ利用ニ必要ナル一切ノ設備ヲ指稱スルモノニシテ換言スレハ開港ノ物的方面ニ外ナラス。而シテ開港利用増進策ノ最も重要ナル方面ハ此等物的設備ノ完成ヲ圖リ以テ其ノ能率ヲ増進スルニ在ルヘシト雖、大阪税關管内ニ於テハ税關所管ニ屬スル物的設備トシテハ殆ント擧クヘキモノナク、此ノ點ニ付テハ大阪税關ハ第三者タルノ觀ヲ呈スルノミナラス此等廣汎ナル物的設備上ノ問題ニ付意見ヲ陳述スルコトハ其ノ所ニ非スト信スルヲ以テ、茲ニハ唯設備問題ニ關聯シテ考慮ノ要アリト認ムヘキ左ノ諸項ヲ擧示スルコトトセリ。

(イ) 開港ノ利用増進ハ開港ノ外國貿易上ニ於ケル能率ヲ増進スルニ外ナラサルヲ以テ其ノ物的設備方面ニ在リテモ外國貿易の見地ヨリシテ之ヲ統制スルノ要アルヘキコト言フ俟タス。從テ其ノ一端トシテ開港ノ修築ニ關シ設ケラルヘキ調査委員會等ニハ總テ所轄税關長ヲ參與セシムヘキハ當然ノ事理ナルノミナラス進ムテ開港設備ノ管理及利用等ニ關スル方面ニ於テモ外國貿易上ノ見地ヲ代表スル所轄税關長ヲ關與セシムルノ要アリト認ム。

(ロ) 開港ノ利用ニ必要ナル地域ヲ「開港地域」トシテ一定ノ法律上ノ性質ヲ帶ハシムルコトハ開港ノ利用増進上必要ノ措置ト認ム。但シ「開港地域」ナル觀念ハ市街地建築物法ニ依リ認ムヘキ地域又ハ所謂「港灣法案」中ノ「臨港地域」トシテ認ムルハ妥當ナラス。寧ロ現在ノ「保稅地域」ノ觀念ニ類似スルモノトシテ關稅法中ニ規定スルヲ可トス。

(ハ) 繫船浮標ハ開港港則ノ施行セラルル開港ニ在リテハ稅關ヲシテ設備管理セシムルヲ開港ノ利用増進上必要ト認ム。

(三) 開港制度上ノ問題

茲ニ所謂開港制度トハ開港ノ修築經營及管理等ニ關スル制度ヲ指稱スルモノナルカ、開港ニ關スル工事ノ施行、經費ノ支辨及開港設備ノ利用ニ伴フ使用料ノ決定及徵收等ニ關スル現在ノ制度ニ關シテハ開港ノ利用増進上改善スヘキ事項多クアルヘキモ此等事項ハ複雜ナル沿革ト利害關係ト有スルモノナルカ故ニ結局現在ノ制度ヲ基礎トシテ漸ヲ逐フテ統一の制度ノ樹立ニ努ムルノ外ナルカヘク、之ニ關シ左記ノ點ハ特ニ考慮ノ要アリト認ム。

(イ) 重要ナル開港ニ關シテハ總テ國費國營ノ方針ニ出ツヘキコト

(ロ) 國費國營港ニ非サル開港ニ在リテモ開港ノ公共的利用ニ重要ナル關係ヲ有スル管理事項ハ漸次外國貿易所管廳ニ移管セシムルコト

(四) 開港行政上ノ問題

開港ニ關聯スル行政事務ハ關稅行政、港務行政、海事行政及警察行政等極メテ廣汎ナル範圍ニ互リ各々獨自ノ立場ヲ有スルモノナルカ、就中稅關ノ管掌ニ屬スル行政事務ニ關シ考慮ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ。

(イ) 開港ニ關聯スル稅關所管ノ行政事務ハ總テ其ノ「設備」ヲ基礎トスルモノナリ、從テ例ヘハ「稅關構内」ヲ有セスシテ關稅行政ノ充分ナル執行ヲ期スルコト難カルヘク又「繫船浮標」ヲ有セスシテ港務行政ノ實效アル運用ヲ望ムコト難カルヘク更ニ又「檢疫船」及「消毒船」等ノ充分ナル設備ナクシテ檢疫行政ノ完全ナル施行ヲ欲スルコト亦難カルヘシ。開港ノ利用増進ノ爲此等行政事務ノ改善ヲ期セムトセハ常ニ其ノ物的設備ノ方面ヲ考慮セサルヲ得ス。

(ロ) 開港ニ關聯スル諸般ノ行政事務ノ連絡統一ヲ圖ルコトハ所謂港灣行政問題ノ直面スル所ニシテ大正十三年以來稅關ヲ中心機關トシテ實行セラレツツアルカ今後ニ於テモ亦港灣利用者側ノ實際的要求ニ順應スルト共ニ行政事務ノ能率ヲ増進スル爲緩急ヲ慮ラス實行ノ歩ヲ進ムルノ必要アリト認ム。

長崎稅關長答申

一、開港ヲ利用スヘキ各種ノ産業貿易ノ振興ニ努ムルコト

關稅行政カ徵稅技術乃至關稅取締ノ消極的方面ニノミ拘泥スルハ非ナリ内國ノ産業、貿易ノ趨勢、海外ノ商況ニ對シ積極的ニ研究ノ步ヲ進メ資力乏シキ中流以下ノ商工業者カ斯業發展ニ資スヘキ指導的方策ヲ實行スルコトハ目下ノ急務ナリ大藏省カ内國稅ノ方面ニ於テ稅源補養ノ趣旨ヲ以テスルト同様ノ手段ヲ以テ開港利用ノ基調ヲナス貿易ノ振興ヲ企劃スルハ不能ニアラサルヘシ

一、港灣行政ノ擴充ヲ完フスルコト

稅關カ港務部、植物檢査課ヲ合併シ港灣行政統一ノ體裁ヲ備フト雖モ更ニ範圍ノ擴大ヲ要スヘキモノアリ適當ノ機會ニ之ヲ實行スルコトハ開港利用者ノ利便ヲ增進スルコト更ニ大ナルモノアルヘシ又港灣行政統一ノ第一義ハ港灣各關係機關ヲ合併集合セシムルニアラスシテ融和合體セル一ツノ有機體ヲラシムルニアリ乃稅關ノ内容ヲ充實スル意味ニ於テ關係法規ノ整理、各種手續ノ簡易化等幾多ノ改善刷新ヲ爲スヘキナリ

一、外國貿易設備ハ沿岸貿易ニモ出來ルタケ利用セシムルコト

稅關ハ外國貿易、貿易貨物本位ノ施設ヲ行フニ急ニシテ内國貿易乃至内國貨物ヲ輕視シ開港ノ利用上甚タシク差別待遇ヲ與フルモノアリ然共外國貨物ト謂ヒ内國貨物ト謂フモ當業者ノ立場ニ於テハ單一ナル商品ノ異名ニ過キス全部ノ沿岸貿易船ヲ管理スル港灣行政統一後ノ稅關カ内國貿易助長ノ方策ヲ講スルハ畢竟開港ノ能率ヲ增進スルモノニ外ナラス例ヘハ外國貿易地帯ニ施設セラレタル岸壁ヲ重要ナル沿岸航路船ニモ利用セ

シムルコト外國貿易ニ妨ケナキ範圍ニ於テ倉庫上屋起重機等ヲ使用セシムルカ如シ

一、稅關設備ノ各種ノ使用料手数料ハ使用價値ニ應ジテ定ムルコト

現今ノ使用料手数料ハ形式的拘子定規ニ過ク例ヘハ坪當地價數千圓以上スヘキ神戸橫濱稅關構内ノ土地建物使用料カ其ノ賃貸價格ニモ相當セサル他關稅地域ノ使用料ト同一ナルカ如シ

一、開港ニ於ケル荷役、海陸小運送ノ管理ヲ行フコト

荷役料、海陸小運送費ノ低下ハ港ノ利用上至大ノ關係ヲ有ス鐵道省カ運輸當業者ニ對シ積極的改善ヲ加ヘツツアルト同意義ノ管理ヲ行フコトハ特ニ必要ナリト認ム

一、輸出貨物ニシテ稅關竝ニ他官廳ヨリ二重ノ檢査、許可ヲ受クルモノノ中稅關構内ニ施設スルノ結果場所、時間、失費等ノ點ニ於テ當業者ノ負擔ヲ輕減シ得ルモノハ進シテ利用セシメ得ル方法ヲ採ルコト

門司稅關長答申

開港ノ利用増進ハ 一、港灣設備ノ完備及利用方 二、諸手續ノ簡易化及統一 三、諸掛

費ノ輕減ニアルハ言フ俟タズ茲ニ當港ノ實際ニ考ヘ其ノ緊切ナル事項ヲ述フヘシ

一、港灣設備ノ完備及利用方

(一) 港灣設備

- イ、燈臺、挂燈浮標、立標等ノ航路標識ヲ完備スルコト
- ロ、關門地方ノ潮流風位觀測機關ヲ設クルコト
- ハ、上屋屋上ニ倉庫(ストレージ、セツド)ヲ設クルコト
- ニ、上屋及倉庫内ニ使用セラルル「トクタター」手車其他運搬具ヲ統一スルコト
- ホ、背後地域トノ交通機關ヲ完備シ之トノ連絡ヲ圓滑ニスルコト特ニ各工場トノ連絡及貨物自動車ニ依ル連絡ヲ計ルコト
- ヘ、舢舨ノ改良及舢舨溜ノ改善ヲ計ルコト
- ト、無軌道「クレーン」ヲ使用スルコト
- チ、燃料(炭、油)給水供給設備ヲ完備スルコト
- リ、冷蔵貨物、礫油、礫石、散穀、棉花等ノ如キ特殊貨物ニ對スル陸揚及藏置設備ヲナスコト
- ス、旅客交通ニ關スル設備ヲナスコト特ニ移民、三等船客等ニ對スル施設ニ意ヲ用ユルコト
- ル、海陸無線電話ノ普及ヲ計ルコト
- ヲ、瓦斯船ヲ増配スルコト
- ワ、船具供給船ヲ發達セシムルコト
- カ、内航船ノ爲ニ泊地及繫船岸壁ノ設定並ニ内國貨物ノ荷捌設備ヲ完備スルコト

ヨ、危險物搭載船及帆行舢舨ノ取締ヲ勵行スルコト

タ、海員「ホーム」ノ設立ヲ促スコト

レ、「ホテル」公園、病院、遊覽地ヲ改善シ以テ港灣都市ノ文化設備ヲナスコト

(二) 利用方

イ、繫船浮標及繫船岸壁ノ豫約ヲナスコト

ロ、入出港船ノ豫報及碇泊船ノ位置等ヲ天氣豫報及暴風雨豫報ト共ニ公示スルコト

ハ、上屋内ニ於テ單純ナル保存行爲ヲ認ムルコト

ニ、上屋ノ状態ニ應シ收容期日ヲ短縮又ハ延長スルコト

ホ、差支ナキ限リ内航船及内國貨物ニ對シ稅關諸設備ヲ利用セシムルノ途ヲ講スルコト

ヘ、港灣設備ノ宣傳ヲナスコト

二、諸手續ノ簡易化及統一

稅關諸手續ニ付テハ銳意之カ簡捷ヲ計リ來レルモ尙他ニ幾多ノ管海官廳アリテ諸手續ノ簡易化普カラサルヲ以テ港灣行政統一ノ徹底ヲ期スルコト而シテ差當リ

イ、地方廳ノ食肉検査ヲ稅關ニ移管スルコト

ロ、花筵及生絲ノ検査ハ植物検査同様之ヲ稅關ニ移管スルコト

ハ、重要開港内土木工事ヲ内務省ヨリ大藏省ニ移管スルコト

ニ、水上警察署事務中沖商、渡船等ノ營業ニ關スル事務ヲ稅關ニ移管スルコト

ホ、燈臺局事務中開港ニ出入スル船舶ノ爲ニスル航路標識ヲ税關ニ移管スルコト

ヘ、海事部事務中水先人ノ管理監督ニ關スル事項、海員ノ雇入雇止ニ關スル事項ヲ税

關ニ移管スルコト

三、諸掛費ノ輕減

イ、船卸貨物ナクシテ積荷ノミヲナスカ又ハ石炭其他ノ船用品積込ノミノ爲又ハ單ニ旅客郵便物ノ積卸ノ爲ニ入港スル船舶ニ對シテハ噸稅ヲ輕減又ハ免除スルコト

ロ、起重機ノ使用ニ付キ

一、使用料計量單位ヲ三十分ニ短縮スルコト

一、輸入原料品、輸出貨物又ハ検査ニ供スルカ爲ノミニ使用スル場合ニハ使用料ヲ輕減又ハ免除スルコト

ハ、原料品、食料品ノ上屋使用料ヲ輕減スルコト

ニ、曳船使用料ヲ免除スルコト

ホ、開廳仕役ノ特許手数料ヲ改正前ノ通り低減スルコト

ヘ、傳染病患者入院費用ヲ免除スルコト

ト、「ステベドアー」、「ランジングエーゼント」等開港内ニ於ケル外國貨物取扱業者ニ對シ保稅地域内ノ荷扱業者ニ對スルト同様貨率其他ニ關スル取締ヲナシ得ルノ途ヲ講スルコト

チ、沖商、渡船營業、「ガイド」等ニ對スル一般的取締ヲナシ得ルノ途ヲ講スルコト
リ、人夫ノ供給ヲ潤澤ニスルコト

以上卑見ノ大要ヲ述ヘタルモ港灣諸施設ハ國家的、地方的ヨリ見テ最も適切ニ之カ利用方法ヲ講セサルヘカラサルカ故ニ主要港灣ニ港灣利用委員會ノ設置ヲ要ス而シテ委員會ハ港灣ニ關スル諮問機關トシ組織ヲ左ノ通りトスルコト

一、委員長 枕關長

一、委員 鐵道局長、內務省土木出張所長、市長、市會議長、商工會議所會頭、主ナル船會社、貿易業者、倉庫業者

尙港灣施設中或物ニ付テハ其ノ設定經營ヲ公共團體又ハ民間ニ委スルヲ便宜トナスコトアルヘシ

函館税關長答申

凡ソ開港ノ利用増進ヲ企圖センニハ港灣施設ヲ完備セシムルト共ニ後背地域ニ於ケル諸種産業ノ獎勵助長、鐵道運輸系統ノ整備、貿易ノ振興等有ユル積極的方策ニ俟タサルヘカラサルハ勿論ナリ、而シテ港灣ヲシテ克ク其ノ機能ヲ發揮セシメンカ爲ニハ殊ニ其ノ管理並ニ利用方法極メテ經濟的ニ宜シキヲ得ルヲ要スルヤ必セリ、今回ノ諮問ハ是等港灣機能ニ關スル限リ擧ケテ之ヲ考量スヘキモノトハ信スレトモ、斯クテハ其ノ範圍頗ル廣汎ニ失スル

ヲ以テ茲ニハ貿易中心主義ヲ基調トシ對外通商交通機關トシテノ利用改善ニ關スル方面ヲ主トシ漸次之ニ關聯スル事項ニ言及セント欲ス以下(一)開港ノ管理經營(二)開港ノ施設(三)稅關行政上ノ施設ノ三項ニ分チテ卑見ヲ陳述セントス

(一) 開港ノ管理經營

(イ) 管理者ヲ大藏大臣トシ稅關長ヲシテ事務ヲ掌理セシム

對外貿易ノ開門トシテ國家經濟上重要職能ヲ有スル開港ニ於テハ總テ對外貿易中心主義ニ基キ舉ケテ外國貿易ニ便スル開港本來ノ使命ヲ發揮セシムル爲之ニ對スル管理經營ハ對外貿易中心ノ一管理應ニ依リ統一管理セシメ開港ノ有機的作用ヲ遺憾ナク發現セシムルノ必要アリ之レ對外貿易ノ監督官廳タル大藏大臣ヲシテ開港管理ヲ爲ラシメ稅關長ヲシテ直接其ノ術ニ當ラシメントスル所以ナリ

即チ之ヲ稅關ニ於ケル主管行政トシ從來ノ稅關行政ノ外開港ノ設置閉鎖、開港、城及臨港地域ノ決定、港灣計畫並同工事施行等ノ行政ヲ打ツテ一丸トシタル開港管理ニ關スル行政ノ執行ニ任セシメ別項提案ノ開港管理委員會ヲシテ諮問機關タラシムルト共ニ臨港地域ヲ創設シ以テ統制アル開港行政ヲ執行シ完全ニ開港機能ヲ發揮セシメントス

尙本項ノ管理開港ハ之ヲ稅關本關所在地ニ於ケル開港並小樽港名古屋港ノ如キ主要開港ニ限リ其ノ他ノ開港ニ對シテハ貿易ノ進展ニ隨ヒ漸次之ヲ管理港ニ編入スルモ

ノトス

(ロ) 開港管理委員會ノ設置

開港管理ニ關スル根本方針ハ一國經濟上重要ナル使命ヲ有シ獨リ管理者ノ專行ニ委スルコトヲ得ス依テ管理大臣ノ諮問機關トシテ學者、實業家乃至關係官廳ノ官吏等ヲ以テ組織スル中央開港管理委員會ヲ設置シ開港ニ關スル制度、計畫、設備其ノ他重要事項ヲ審議調査セシメ開港管理ノ直接執行ニ當リテハ管理港ノ經濟的地理的情況ニ依リ獨自ノ關係ヲ有シ之ヲ全國劃一的ニ統一管理セシムルコト至難ナル關係アルヲ以テ稅關長ヲシテ之カ管理ノ衝ニ當ラシムルト共ニ尙稅關長諮問機關トシテ開港所在地ノ船舶業者、貿易業者、海運業者、倉庫業者乃至關係官公署ノ首班等ヲ以テ組織スル地方開港管理委員會ヲ設置シ開港並臨港地域管理ニ關スル計畫、設備其ノ他重要事項ノ調査ヲ爲サシメ地方開港特種ノ事情ニ適應セル管理經營ニ資セントス、管理港ニアラサル爾餘ノ開港ニ付テハ現行港灣工事施行前地方廳ヨリ稅關ニ協議スル取扱ノ外更ニ陸上水陸連絡設備ノ計畫ニ付テモ之ヲ稅關ニ協議セシムルノ程度ニ止メ置カントス

(二) 開港ノ施設

開港本來ノ機能ヲ遺憾ナク發揮セシムル要件トシテ開港ノ管理經營ト共ニ必須缺クヘカラサルハ開港利用上ノ障礙タル現在ノ主因ヲ爲ス港内施設ノ不備ヲ排除スルニ

在リ、開港ノ有スル有效水域ノ利用如何ハ直ニ以テ臨港地域ノ利用ニ影響スヘク臨港地域利用ノ適否ハ又以テ有效水域利用障礙ノ原因トナルヲ以テ彼此何レカ其ノ運用ヲ誤ランカ開港全般ニ及ホス影響蓋シ甚大ナルモノアリ、然ルニ現行法制並港灣利用ノ現勢ヲ顧ルニ限アル港灣水域並臨港地域ノ利用ニ對シ未タ完全ナル行政監督ノ執行ヲ見ルニ至ラス遺憾頗ル多シ之レ港灣能率ヲ阻害スル主因カ多ク此ノ點ニ存スルヲ看ル所以ナリ以下之カ對策トシテ一二ノ提案ヲ爲サントス

(イ) 管理開港ニ臨港地域ノ創設

開港機能ノ中心ヲ爲ス水陸連絡設備即チ岸壁、棧橋、繫船標、上屋、倉庫、鐵道、特殊貨物(散荷、危險物其ノ他特殊貨物)ノ收容地及貨物ノ積替、改装、仕分、加工、製造等ニ使スル敷地等ノ施設ヲ爲ス港灣ノ水陸連絡上最モ樞要ナル地域ニ對シテハ統制アル特殊行政ヲ執行スヘキ所謂臨港地域ヲ設ケ以テ雜然タル現狀ヲ整理シ完全ナル水陸連絡ノ使命ヲ果サシメントス

(ロ) 外國貿易ニ關スル水陸設備ノ施行速進

本邦開港ニ於ケル水陸連絡設備ハ二三ノ開港以外ハ孰レモ殆ト見ルヘキモノナク、開港利用上憂慮ニ堪エサルモノアリ延テ貨物積卸ノ遅延若クハ通關事務ノ滯留ヲ招キ貨主ヲシテ不測ノ損失ヲ蒙ラシムルコト歎シトセス、是レ開港本來ノ機能ヲ障礙スルノ大ナルモノナリトス、仍テ主要開港ニ於ケル防波防砂設備ヲ爲スト共ニ

常ニ海底ノ浚渫ヲ行ヒ尙進ンテ埠頭、棧橋、繫船岸壁、浮標、繫船標、上屋、倉庫、臨港鐵道引込線並船塢、物揚場、旅客昇降場及起重機、計量器等諸般ノ水陸連絡設備ヲ速ニ完備セシムルヲ要ス

(三) 稅關行政上ノ施設

(イ) 開港港則實施港ノ範圍ヲ擴張スルコト

開港港則實施港ハ現在僅ニ港務部ノ設置アル横濱、神戸、大阪、門司、長崎ノ五港ニ過キス其ノ他ノ開港ハ之カ實施ヲ見サル爲開港水域内ノ交通警察ハ徹底スルニ至ラス開港機能ヲ阻害スルコト少シトセス、依テ主要開港ニ之カ實施ヲ計リ開港水域ノ利用ニ資セントス

(ロ) 開港行政上貨物ノ性質ニ依リ之カ藏置ニ關シ水域利用ヲ適當トスルモノ少カラサルヲ以テ開港水域ニ對スル保稅制度ヲ採擇スルノ途ヲ拓クコト

(ハ) 制限擔保ノ擴張並對人擔保制度ノ採用

開港内ニ於テ貨物移動ノ遲速ノ原因ハ動モスレハ通關手續ノ難易ニ基因スル場合多キカ如シ是レ本邦現行關稅制度カ免許制ヲ採用シ嚴格ナル取扱ヲ爲スニ基ク結果ナリト思料セラルルヲ以テ之カ通關ヲ容易ナラシムル爲關稅法第三十四條ノ制限擔保ヲ擴張シ金錢ノ外、國債ノ提供ヲ認メ傍ヲ對人擔保即チ保證制度ヲ採擇利用セントス(本項ノ實施ニ伴ヒ國稅徵收法ヲ準用スルノ必要アリ)

(二) 開港内ニ於ケル諸掛輕減並關係業者ノ取締法規ヲ制定スルコト

開港内ニ於ケル陸上税關設備ハ税關ノ經營ニ屬スルヲ以テ必要ニ應シ利用改善ヲ計リ得レトモ仲仕、船隻、通船、曳船、タリーマン等ニ對シテハ單ニ警察行政上取締規程ヲ存スルニ過キサルヲ以テ往往不當ノ賃金ヲ要求シ港灣經濟ニ惡影響ヲ及ボスコト鮮シトセス故ニ是等港内營業者ヲ取締ルヘキ法規ヲ制定シ税關ノ監督ノ下ニ置キ開港内ニ於ケル諸掛ノ整理統一ヲ計リ以テ開港ノ利用増進ニ資セントス

(ホ) 開港ニ關スル智識ヲ普及シ之カ利用ノ民衆化ヲ計ルコト

港灣ノ觀念ニ乏シキ我國ノ現狀ニ於テハ開港ノ意義使命等ニ關スル智識ヲ普及シ之カ利用ノ民衆化ヲ計ルハ又開港利用増進ノ一策タルヲ失ハス

諮問第二

横濱税關長答申

一、養澤品等ノ關稅實施ノ狀況

(イ) 養澤品等ノ輸入狀況

當港ニ於ケル養澤品等ノ輸入價額ハ、實施以來大ナル消長ナク、平均一ケ年五百三十七萬

圓ヲ算シ、其内從價下割ヲ課シタルモノノ輸入價額ハ、平均一ケ年三百九萬圓ニシテ、前者ニ對スル歩合五割八分ニ相當ス。而シテ實施前ト實施後ノ狀況ヲ對照スルニ、實施前七ケ月ノ平均一ケ月ノ輸入額百二十七萬圓ヲ示セルニ、實施後七ケ月ノ平均一ケ月ノ輸入額七十一萬圓ト成リ、其後本年四月ニ至ル平均一ケ月ノ輸入額三十八萬圓ニシテ、實施前ニ比シ著シク減退セリ。次ニ之カ内容ヲ檢スルニ、實施以來平均一ケ年十萬圓以上ノ輸入額ヲ示セルハ、蔬菜果實核子、茶、コーコー、酒類、香水、齒磨粉、齒洗藥、化粧粉、菓子、植物性揮發油、天蓋絨、ブラツシユ、蓄音器部分品、同附屬品、寫眞用フィルム及ヒ小包郵便物ニシテ、就中蔬菜果實核子ノ輸入額ハ平均一ケ年百十七萬圓ニ上リ最多額ヲ占メ、酒類ノ三十四萬圓、コーコーノ二十六萬圓等其主ナルモノナリ。而シテ輸入増加ノ趨勢ヲ示セルハ、コーコー、酒類及ヒ香水等ニシテ、退勢ヲ示セルモノニ、菓子、植物性揮發油、天蓋絨、ブラツシユ等アリ。其他實施以來本年四月ニ至ル迄ノ輸入額合計一萬圓以下ノモノ及ヒ全然輸入ナキモノヲ舉クレハ、マーテ其他ノ茶代用物外五十一品目アリ。

尙養澤品等ノ輸入額ハ、大體ニ於テ實施前ニ比シ減退ヲ示セルカ、其最モ著シキハ貴石、植物性揮發油及ヒ寫眞用フィルム等ナリ。即チ貴石ハ、其輸入額實施前多キハ一ケ年三百萬圓以上ニ達シ、少ナキモ五十萬圓ヲ下ラサリシカ、實施後平均一ケ年五萬五千圓ヲ算スルニ過キス。又植物性揮發油ハ、實施前百六十萬圓乃至九十萬圓ヲ示シタルニ、實施後ハ平均一ケ年二十四萬圓ト成リ、寫眞用フィルムハ、實施前活動寫眞用ノモノヲ含ミ、三百七十萬圓乃至二

百十八萬圓ニ上リタルニ、實施後平均一ヶ年活動寫眞用ノモノヲ除キ十三萬圓ヲ算スルニ過キス。

(ロ) 贅澤品等ノ課稅狀況

贅澤品等ノ關稅ニ關スル法律制定ノ趣旨ハ、一般ニ諒解スル所ナルモ、其品目ニ就テハ種ノ議論行ハレ、之カ取扱業者ニ於テモ課稅上異存ヲ挾ムモノアリ。大正十四年四月一部ノ改正ヲ見、爾來相當緩和セラレタルモ、尙工業用、常食用等ニ供スルモノ、或ハ毛綿製レーズ窓掛ハ從價三割五分ヲ課セラルルニ反シ、之カ原料タル毛綿製レーズ窓掛地ハ從價十割ヲ課セラルルカ如ク、兩者ノ權衡ヲ得サルモノ等ニ就テハ其撤廢ヲ希望スルモノアリ、其他ノ申出中相當理由アリト認ムルモノハ、從來ノ分類ヲ變更スル等關稅法規ノ定ムル範圍ニ於テ考慮ヲ加ヘ、關稅行政ノ施行其ノ宜シキヲ得シト期セリ。而シテ贅澤品等ノ關稅カ引續キ施行セララルルヤ、漸次對策ヲ講スル者ヲ生シ、之カ連脱ヲ圖リ又ハ圖ラントスルモノ、増加ヲ見ルニ至レリ。即チ小銃及ヒ置時計ノ如キハ、之ヲ分解シテ部分品ト爲シ、船便、輸入港或ハ輸入者等ヲ異ニシ輸入ヲ爲スモノアリ。又乾果ノ如キハ、從來ノ容器ヲ變更シテ罐入トシ、日伊協定稅率ノ便益ニ浴シ、通關後更ニ從來ノ容器ニ改ムルモノアリ。或ハ肩掛ヲ連製トシ布帛トシテ輸入ヲ圖ラントスルモノ、其他價格ヲ引下ケルモノ等種種ノ方法ヲ講スルモノアリテ、課稅上及ヒ取締上實施前ニ比シ、一層慎重ヲ要スル次第ナリ。

二、贅澤品等ノ關稅改正意見

贅澤品等ノ關稅ニ就テハ、實施以來各方面ニ於テ種種ノ議論行ハレタルモ、要スルニ輸入品ニノミ禁遏的重稅ヲ賦課スルモ、國內ニ於ケル奢侈品ニ對シ何等施ス所ナクシテハ、到底其目的ヲ達シ得ヘキニ非スト難スルモノ、或ハ品目ノ選定妥當ヲ缺キ、原料品ニ重稅ヲ課スルカ如キハ、輸出ノ源泉ヲ塞カントスルノ虞アリト爲スモノ等其主ナルモノナリ。然レトモ實施以來贅澤品等ノ輸入額ハ、實施前ニ比シ著シク減退ヲ示セルハ、即チ國民ノ消費節約ヲ示スモノニシテ、奢侈ノ抑制、輸入ノ防遏ニ資スル所尠カラズ、精神的ニ及ボシタル好影響ハ蓋シ大ナルモノアリト信ス。尙從來外國品ノ供給ニ俟チタルモノニシテ、贅澤品關稅實施ノ結果内地ニ於テ之カ製造ヲ爲スニ至リタルモノ、目下其研究中ニ屬スルモノ等アリ。其他直接間接ニ保護的恩惠ニ浴セルモノアリテ、内地產業ノ發達ヲ促ス所亦決シテ少カラス。故ニ我國現下ノ經濟的情勢ニ鑑ミ、尙繼續施行スルノ要アルヘク、而シテ之カ品目ニ就テハ、制定ノ當時ト今日トハ經濟事情ヲ異ニスルモノアル外、實施以來ノ成績ニ鑑ミ相當改廢スヘキモノアリト信ス。其ノ要領左ノ如シ。

(一) 贅澤品等ノ關稅品目ヨリ削除スルヲ可トスルモノ

稅表番號	品	目	理
三二ノ一	紅茶		一、咖啡ト同様始ト日用品ニシテ其權衡上撤廢スルヲ可トス
三三	マート其ノ他ノ茶代用物		元來輸入始トナキモノナルヲ以テ存置ノ要ナシ
三六ノ一	ココロノ種子		本部ニ生産ナク、原料品ナルヲ以テ撤廢スルヲ可トス
五四	チース		主トシテ外人ノ常食品ナルヲ以テ撤廢スルヲ可トス

往脱税品ニシテ市内ニ販賣セラルルモノアルノ實況ニシテ其ノ檢舉頗ル困難ナリ從ツテ將
來此種犯則ヲ根絶センニハ先ツ市場ニ於ケル之等贅澤品ノ輸入経路ト其ノ販路ヲ明確ナラ
シムル爲メ各税關相協力シテ徹底セル調査ヲ遂クルヲ必要トス

特ニ内地ニ一定ノ住居ヲ有セサル外國人ノ犯則ニ就テハ調査頗ル困難ニシテ外國汽船ニ
テ入港スルト共ニ犯則物件ヲ身邊ニ隠匿脱税シ之ヲ内地ニ於テ販賣スルヤ直チニ國外ニ向
ケ出發セル如キ場合ニハ假令脱税ノ事實明瞭トナルモ犯則者自身ニ對シ處罰ノ方法ナキハ
勿論内地ニ於ケル買手ニ對シテモ故買ノ犯意ヲ確認スルコト甚タ難キモノアリ此點ニ就イ
テハ調査上苦心困難ヲ感シツツアル次第ナリ

又所謂合法的脱税方法例ヘハ小銃ノ如キハ之ヲ完成品トシテ輸入スルトキハ本法ニ依リ
テ從價十割ノ關稅ヲ課セラルヘキヲ以テ殊更ニ之ヲ數箇ノ部分品ニ分割シ輸入ノ時期、場
所等ヲ異ニシ以テ本法ノ適用ヲ免レントスルモ頗ル多ク稅關ニ於テハ昨年三月稅關長會
議打合ノ主旨ニ依リ專ヲ關稅ノ差益ヲ不當ニ利得センカ爲メニ分割輸入スト認メラルル限
リハ嚴重ニ之ヲ取調ノ上或ハ犯則トシテ處分シ或ハ十割關稅ヲ賦課シツツアルモ尙之カ理
論的根據ニ付テハ聊カ疑義ナキ能ハサル次第ナルヲ以テ本法ニ右ノ如キ場合ノ取扱方ニ付
キ適當ナル條文ヲ追加セラルルヲ可ナリト思料ス

第一表

横濱港贅澤品等輸入價額表

年次	贅澤品等ノ輸入總額	十割ヲ課シタル品等ノ輸入總額	後者ノ前者ニ對スル割合
大正十三年 自八月至十二月	四、六三八、一七八	一、四一五、一三七	〇・三二
大正十四年	四、四八五、九一六	三、〇二四、五三二	〇・六七
昭和元年	四、九四三、九五九	三、〇七三、〇七六	〇・六二
昭和二年	四、六五七、八九七	三、〇六〇、七三二	〇・六六
昭和三年 自一月至四月	一、四三七、五四一	一、〇五〇、八九八	〇・七三
平均一ヶ年ノ輸入額	五、三七六、九三一	三、〇九九、八三三	〇・五八

第二表

横濱港主要贅澤品等輸入價額表

稅表番號	品名	大正十三年 自八月至十二月	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年 自一月至四月
三二一	蔬菜、果實及核子	五六一、二三一	九九二、一四六	一、五〇〇、〇四一	一、二五六、九二	二一七、三六〇
三二二	茶	二〇九、二四四	一七七、九八四	一七六、九四四	一九一、一九二	四五、三一〇
三二二	茶	三六、九三〇	八八、一三二	一九七、四〇〇	一六六、〇二九	六九、三三四
三二二	茶	二二、一七七	八八、一三二	一九七、四〇〇	一六六、〇二九	六九、三三四

備考

一、單位圓

二、左側ノ數字ハ十割ヲ課シヨクモノノ價格

三六	コ	コ	五九、〇九九	一九一、二九三	二八九、七五九	三三三、〇三六	一三五、六三〇
四五	菓	子	二四、七七二	一九一、二九三	二八九、七五九	三三三、〇三六	一三五、六三〇
六六	別號ニ掲ケサシ酒類		一〇、一九二七	二二五、七八〇	一一八、八三八	一〇七、一四七	二〇、九九五
九五	植物性揮發油		一三二、二二二	二五〇、三三八	三〇七、七五七	四三四、二六三	一五一、七八〇
一一九	香	水	三二七、六九三	二九八、五二一	一五〇、一八四	一〇七、三四七	四〇、〇九〇
二二二	精製糖類		一三〇、九〇八	二八、三五五	九七、二二二	一〇七、三四七	四〇、〇九〇
三〇一	天竺絨及フック		二二〇、九三二	一〇九、五〇三	一九、三六六	二二二、九八八	八四、一三〇
四一二	貴	石	三二五、二四六	一〇九、五〇三	一九、三六六	二二二、九八八	八四、一三〇
五五六	蓄音器部分品及附屬品		三二五、二四六	一〇九、五〇三	一九、三六六	二二二、九八八	八四、一三〇
六三六	寫真用フタ活動寫真用フタ		三二五、二四六	一〇九、五〇三	一九、三六六	二二二、九八八	八四、一三〇
合計	其他		一四、一五二	三〇、二四五	三、〇七三	四、六〇七	一、〇五〇

第三表

大正十三年法律第二十四號「賚澤品等ノ輸入税ニ關スル法律」別表記載物件ニ關スル犯則處分表 (※部分品通關)

犯則月日	犯則者氏名	物	件	數量	科目番號	處分
大正一三、八、二二	茅野モト	寶石入金指輪	一個	一反個	三五九	物件沒收 罰金一四一圓
大正一四、八、六	法元徳益	ダイヤモンド	一個	一個	四一二	物件沒收 罰金四三五圓
大正一五、一、三	上杉健次	外國製品	七個	七個	四一三、二B	物件沒收 罰金二七圓
大正一五、一、三	岩田旭	外國製萬年筆	五本	五本	六四七、二A	物件沒收 罰金九〇圓
大正一五、一、三	大勢屋旅館	ダイヤモンド	一五箱	一五箱	三一	罰金四八六圓
大正一五、一、三	稻垣福之助	寫真機	一個	一個	五五三	追徴金一六二圓
大正一五、二、九	東島彦次	ワイヤム	一個	一個	六三六	物件沒收 罰金二四九〇錢
大正一五、三、七	金正大	支那酒	二六瓶	二六瓶	六六該當	罰金一八八四圓
大正一五、三、七	坂本龜	腕時計	二個	二個	五二六、一A	物件沒收 罰金九〇圓
大正一五、六、八	小川武	外國製バナナ帽子	二個	二個	三五四、二C	物件沒收 罰金二四圓
同	酒井福市		三個	三個		物件沒收 罰金二七圓
大正一五、四、三	原周一	ウヰスキー	六本	六本	六六二、一A	物件沒收 罰金四一四〇錢

大正一三 一三三三	池田 安	寫真機	一個	五五三三三	罰金二四圓 追徴金八圓
昭和二三 二二三三	田中 博	"	"	"	物件沒收 罰金九〇圓
昭和二三 九二二二	今富 吉男	ウ井スキー	一三本	六六二一A	物件沒收 罰金六一二〇圓
昭和二三 七二〇〇	若崎忠太郎	寫真機	一個	五五三三三	物件沒收 罰金一二〇圓
同	小泉和夫	"	"	"	物件沒收 罰金二四〇圓
大正一五 七月	渡邊 宗治	寫真機部分品	九八組分	五五四 二C	物件沒收 罰金二四九八〇圓
大正一三 五月以降	大勢屋旅館 稲垣福之助	ビーチ鐘錶 パインアップル鐘錶 チヨコレイト	二〇打 一五四打 三箱	三一 二B四 四五	昭和二二 告發
大正一五 一月迄	同	ビーチ鐘錶 パインアップル鐘錶 チヨコレイト	一五四打 三箱	三一 二B四 四五	昭和二二 告發
同	猪名川竹次郎	白金懐中時計 懐中時計用錠	一個 一個	四九 一B 四九 一B	"
大正一五 五二七以	千葉 長治	フィルム	一五七五個	六三六 一	昭和二一 告發
同	嘉山 松藏	"	"	"	"
大正一五 六二七以	鈴木喜三郎	フィルム	二〇〇個	六三六 一	昭和二八 告發
同	大村與三郎	"	二五四〇個	"	"
同	大橋 儀助	"	二五四四個	"	"
大正一四 九月以降	日本銃砲店 大澤平太郎 外三名	小銃部分品	二七一個分 不明	五六〇 一	犯則不明ニ付 不問處分

五〇

大正一四 四二八以	ダイ ダブリユ ボジャール	ダイヤモンド	不明	四二二	目下調査中
昭和二三 一以以降	川口屋銃砲店 林 國造	小銃部分品	六五二個分	五六〇 一	"
昭和二三 七二七以	齊藤 二郎	ウ井スキー	四九打	六六 二一A	"
昭和二三 九二二	松崎 開治	パインアップル鐘錶	一〇個	三一 二B四	"
昭和二三 七二七以	田口市太郎	ウ井スキー	二九打	六六 二一A	"
昭和二三 一以以降	鈴木常次郎	ウ井スキー 紅茶	四二四本 一四八斤	六六 二一A 三二	"
昭和二三 一以以降	川端 熊助	ウ井スキー 紅茶	三四〇本 七一二斤	六六 二一A 三二	"
昭和二三 一以以降	有田 長藏	ウ井スキー 紅茶	八四本 三六斤	六六 二一A 三二	"

神戸税關長答申

一、本法ノ實施狀況

(イ) 贅澤品ノ輸入消長

大正十三年法律第二十四號實施前後ニ於ケル贅澤品ノ神戸港ニ於ケル輸入狀況ヲ概觀ス
ルニ本法實施ノ前年タル大正十二年ニ於テハ贅澤稅品該當品ハ上半期既ニ相當巨額ノ輸入

ヲ見ルヘキ狀勢ニ在リシカ偶々九月關東大震災ノ餘波ヲ承ケ本品ノ如キ贅澤品ハ一切其ノ輸入ヲ減退スヘク豫期セラレシニ意外ニモ事實ハ之ヲ裏切り同下半年ハ却テ上半年ヲ凌駕スルノ奇現象ヲ呈シ兩期通算シ千五百六十萬圓ノ輸入ヲ計上スルニ至レリ

大正十三年ニ入りテハ震災ノ創痍ニ因リ財界ハ益々不振ヲ加ヘタルニ拘ラス本品ニ對シテハ關稅改正ヲ見越セル一部商人ノ思惑的産地買付ヲ爲セルモノ多ク爲ニ七月迄ニ約千三百五十七萬圓テフ巨額ノ入荷ヲ見タルカ七月三十日愈々本法ノ實施セラルルヤ流石ニ之ヲ分界トシテ其ノ後輸入額ヲ激減シ斯クテ年末ニ至ル迄輸入額ハ十割課稅品百九十七萬圓外ニ同稅該當品五百八十四萬圓ニシテ兩者ヲ併算スルモ七百八十餘萬圓ニシテ同年内本法實施前ノ期間ニ比スレハ各月急轉直下ノ激減ヲ示セリ

爾來贅澤品ノ輸入ハ引續キ大體此ノ趨勢ヲ維持シ大正十四年ニ於テハ十割課稅品ハ一躍三百五十萬圓ニ激減シ同十五年ハ二百八十萬圓昭和二年ハ二百五十四萬圓ト一途低減ノ傾向ヲ示セルハ明ニ本法ノ施行カ贅澤品ノ輸入防壓ニ適切且顯著ナル效果ヲ齎シタルコトヲ實證スルモノト謂ヒ得ヘク此ノ點ヨリ觀ルトキハ本法ハ能ク其ノ使命ヲ達成セルモノト認メ得ヘシ

本法カ大體ニ於テ斯ノ如キ好成绩ヲ贏チ得タル所以ハ
(一) 十割ノ高率課稅ニ依リ輸入贅澤品ノ價格騰貴シタル爲一般ニ其ノ消費慾ヲ阻減セラレタルコト

- (二) 大震災ニ因リ一層深刻化セラレタル不景氣カ購買力ニ餘裕少カラシメタルコト
- (三) 朝野一致ノ提唱ニ係ル勤儉貯蓄獎勵ニ促サレ節約ノ風漸ク涵養セラレタルコト
- (四) 十割課稅カ他面高度ノ保護關稅的作用ヲ有スルノ結果之ニ刺戟セラレ輸入品ニ對抗スル内地産業ノ擡頭ヲ見ルニ至リタルコト等

亦與リテ相當力アルノ事實ヲ看過スル能ハサル所ニシテ是等ノ諸原因綜合シテ甫メテ本法ノ實效ヲ完カラシメタルコト疑ナキ所ナリ。
斯ノ如ク十割課稅實施後贅澤品ノ輸入ハ總シテ急角度ノ減退ヲ來セルカ就中減退率ノ最も著明ナルモノヲ代表的ニ舉記スレハ

亞麻布	大正十二年	一八四二二四圓
亞麻布	昭和二年	八七九三四一圓
毛製天發紙	大正十二年	五五七圓
毛製天發紙	昭和二年	四九五五二〇圓
著色紙	大正十二年	七六九〇圓
著色紙	昭和二年	一四〇七八二五圓
生果乾果	大正十二年	二四九五九〇圓
生果乾果	昭和二年	二二二八六〇圓
蔬菜果實	大正十二年	七〇四二三圓
蔬菜果實	昭和二年	五三

寫真器及同部分品	大正十二年	四七四、六五九圓
昭和二	九、二〇〇圓	
置時計	大正十二年	二〇一、五二七圓
昭和二	八、四七〇圓	
蒸音器及同部分品	大正十二年	五五七、七九〇圓
昭和二	八一、〇五三圓	
寫真用フィルム	大正十二年	一二八、八九五圓
昭和二	二九二、八四一圓	
燈	大正十二年	一九三、一五三圓
昭和二	四二、七六一圓	
石鹼	大正十二年	二二二、〇三〇圓
昭和二	三九二圓	
香水	大正十二年	二六〇、六五四圓
昭和二	一、二七〇圓	
蒸香性油脂類	大正十二年	一〇〇、三六四圓
昭和二	二九八圓	
齒磨等蒸香類	大正十二年	三三六、五〇九圓
昭和二	二、三三三圓	

五四

地氈	大正十二年	六八六、七一五圓
昭和二	二九、五八一圓	
貴石	大正十二年	一四、五八、五八一圓
昭和二	一〇、四九、一五圓	

等ニシテ亞麻布ノ如ク輸入絶減ニ飯シタルモノアリ然レトモ反之一方十割課税ノ影響ヲ受クルコト比較的微弱ニシテ輸入額ニ格別ノ變動ヲ生セサルモノトシテ

チ	大正十二年	二九、三九四圓
昭和二	二、二〇、一二圓	
ウ	大正十二年	二八三、九四一圓
昭和二	二〇、八七〇圓	

等ヲ攀クヘク進ンデハ

紅茶	大正十二年	九九、〇八三圓
昭和二	一〇、九六、六七圓	

ノ如ク却テ多少ノ増加ヲ示セルモノスヲアリ而シテ嗜好的食料品ニ於テ此ノ例外現象ヲ呈セルハ一考ニ値スヘシ

更ニ注意ヲ要スルハ贅澤品輸入單價ノ推移ニシテ少數ノ例外ヲ除キ大多數ノ贅澤品ニ於テ逐次輸入單價ノ漸減セル傾向ヲ看取シ得ヘク從テ本品輸入額ノ減退カ一ハ輸入數量ニ於ケル絶對減少ニ負フノ外其ノ一因ヲ單價ノ低落ニ飯セサルヘカラサルコトハ其ノ低落力自

五五

然のナルモノナリヤ又ハ有意的ナルモノナリヤ即チ十割課税ニ依ル關稅負擔ノ回避輕減ヲ
目途トシテ故意ニ當事者間ニ表面上ノ安値取引ヲ申合セラレタルモノニ非サルヤ否ヤノ懸
念ト共ニ併セテ研究ヲ要スヘキ一事ナルヘシ

（ロ） 本法實施ノ内地産業ニ及ホセル影響

本法カ贅澤品等ノ輸入ヲ防遏シ之ニ依リ國民ノ奢侈浪費ノ抑制ニ資セントスル一ノ道德
的使命ヲ以テ生誕シタルコトハ本法發布ノ當時ノ事態ニ照シ明ナル所ニシテ從テ從價十割
ノ關稅カ禁止的效果ヲ目標トシテ制定セラレタルモノナルコト亦疑ナキ所ナルヘシト雖而
モ右ノ如キ高率ノ關稅カ勢ヒ一面課稅品ト同種ノ物品ヲ製造スル國內生産者ノ生産條件ヲ
有利ナラシメ國內ノ同種産業ヲ保護助成スル副結果ヲ齎スヘキコトハ容易ニ豫想シ得ヘキ
所ニシテ贅澤品輸入減退ノ一因カ同種國産品ノ供給増加ニ在ルコトハ既ニ一言セル所ナリ
當管内ニ於テハ曩ニ調査報告セル通り僅カニ毛織業ニ於テ好影響ヲ受ケタルノ外特記スヘ
キ影響ノ認ムヘキ産業ナシト雖モ今神戸港輸入ノ主要贅澤品ニ付十割課税ノ同種産業ニ及
ホセル影響一斑ヲ概見スルニ左ノ如シ

1. バイナップル鐵詰

本品ハ主トシテ布哇、新嘉坡産ノモノ輸入サレ本邦ニテハ從來臺灣、小笠原ノ一部ニ之カ産出ヲ見タルモ概シ
テ優等品ノ産出ニ困難視サレタリ且ツ生産費モ割高ニシテ終始舶來品ニ壓倒セラレタリ故アリシカ贅澤品稅ノ
施行ニ依ル輸入價格ノ昂騰ハ本邦斯業ノ勃興ヲ促シ殊ニ臺灣ニ於ケル斯業者ハ原木ノ供給ヲ布哇ニ仰キ之カ改

善ヲ企圖セテ結果令ヤ布哇品ト大差無キ結實ヲ見而モ製造方法モ漸次進歩改良シ總督府ノ検査開始ニヨリ品質
亦統一サレ年産額增加シツツアリ然ルニ外國産バイナップルハ十割課税ニヨリ全ク不引合ニ陥リタルヲ以
テ近來之カ挽回策トシテ糖分ヲ加ヘス自然味ノ儘ニテ輸入レ内地ニ於テ適當ニ加糖ノ市場ニ提供スルニ至リ
レハ注目ニ値スヘシ

2. 桃、梨、其他ノ果實ノ確證詰

從來國産品ニシテ舶來品ニ遜色ナキ優良品ノ産出方法ハ充分ニ研究セラルレタリモ如何セム生産費ノ割高ニヨ
リ輸入品ニ對抗スヘキモノ甚多尠ク自然企業ヲ見合ハスノ状態ナリシモ十割課税ニ依リ舶來品ノ昂騰顯著トナ
リ隨テ和製品モ採算引合フニ至リタリヲ以テ此等製造家ハ此ノ好機ヲ逸セス資本ヲ投下シ生産ヲ開始シタレハ
原料果實ノ産額豊富ナシ徳島、岡山、廣島、香川ノ諸縣ニ於ケル斯業ハ急激ニ開發サレ現在ニテハ國內需要ヲ充
タシ得ル程度ノ産額ヲ見ルニ至レリ

3. アスパラガス罐詰

本品ハ主トシテ我が在留外人ノ常用食料品ニシテ從來國內生産ハ極メテ小規模ノ栽培アリシカ本
法ノ施行ニヨリ相當ノ發達ヲモリト雖モ尙充分ナリト云フ域ニ達セス自然輸入品ノ代用トシテ生鮮ナル野菜
ヲ用ヒツツアル状態ナリ

4. 乾葡萄

本品ハ北米合衆國ニ於テ禁酒法ヲ實施セシ結果從來葡萄酒原料トシテ葡萄ハ其ノ用途ヲ失ヒ價格激落シタル
ヲ以テ之ヲ乾葡萄トシテ賣捌クニ至リ本邦ヘノ輸入モ大正四年ヲ界限トシテ急激ナル増加ヲ來タシ一時膨大ナ
ル輸入量ヲ計上セリ其ノ後産地ニ於テモ栽培不利ナル爲メ年産額減少シ偶々本邦贅澤稅實施後市價ノ昂騰
ヲ餘儀ナクシ一方内地需要モ嗜好ノ倦怠ニヨリ漸次減退シ從ツテ輸入量モ逐年減少セリ近時横濱ニ米人經營ノ

パツキング工場新設サレ専ニ原料乾葡萄ノミヲ輸入シ内地ニテ箱詰ノ上市場ニ提供シツテアリト聞ク從來本邦ニテハ甲州及其ノ他ノ地方ニ於テ葡萄ノ産額相當ノ數量ニ上リ隨テ乾葡萄ノ産出ヲ見キニ至リレモ品質ハ輸入乾葡萄ニ及ヒ難シ

5 核子

本品ノ過半數ヲ占ムルハ支那梨ナリ由來梨ハ内地産額相當多量ニ上ルト雖モ品質ノ關係上内地梨ハ長期ノ保存ニ堪ヘス從テ乾菓等トシテ保存スルコト外ニ良策無キモ輸入品ハ能ク保存ニ堪ヘ虫ノ發生ヲ防キ得ル爲メ概シテ内地梨ノ終了期ヨリ輸入サレ近年多量ヲ計上セコトアリ内地ニ於テモ支那梨ノ生産ヲ企テ一時苗木ノ供給ヲ支那ニ求メ移植セシコトアリシモ氣候風土ノ關係ニテ成績不良ニ終レリ唯朝鮮北部ノ清江附近ニ於テ相當ノ成績ヲ擧ケ苗木ノ發育モ宜シケレハ茲ニ總督府ハ獎勵金ヲ交付シテ多數ノ植林ヲ行ハレ近年産額ヲ増加セリ而シテ同樹ハ移植後約三四年内外ニシテ初メテ結實スト聞ケハ今後數年ヲ經ハ内地ノ需要ハ朝鮮梨ニテ充分ナリト思考サレ品質モ現在ニテハ輸入梨ニ比シ稍々小粒ナルモ近年改良ノ施シ現今ニテハ大粒物ノ産出ヲ見ルニ至レリト云フ

6 紅茶(紅茶粉ヲ除ク)

紅茶ハ内地産出始ト無ク需要ハ全部輸入ニ仰ク状態ナリ今後ニ於テモ内地風土ハ紅茶ノ製造ニ不適當ナリカ故ニ斯業ノ發達ヲ期スルニハ我風土ニ適應スル原樹ヨリセサレハ其ノ效果ヲ收メ難シト聞ク而シテ本品ニ資澤品稅ヲ課スルコトハ外人間ニ評判惡ク之カ撤廢ヲ望ムノ向多シ
綠茶ハ主トシテ支那、印度産ヲ輸入セシモ之ハ臺灣ニ於テ烏龍茶ノ産額相當ニ上リ殊ニ資澤稅實施後紅茶、綠茶ノ昂騰ニツレテ産額ヲ著シク増加シ國內ニ向ヒテハ輸入茶ノ代用トシテ盛ニ宣傳サレ海外ニ對シテハ市價ノ割安ヲ標榜シテ極力新販路ノ擴張ニ努メタキ結果米國方面ヨリ注文ヲ寄來スルモノ近年増加セリ

7 ジヤム、フルツゼリ類

本品ハ從來内國産益々増加ノ傾向アリ品質モ漸次改良サレ現在ニテハ再ジヤム柑皮ゼリ等ハ輸入品ニ比シ遜色無ク殊ニ柑橘ゼリ類ハ輸入品ニ比シ風味劣リ製造困難トサレタルモ其後工夫ヲ凝クシ近來ハ燻熟セル柑皮ヲ復用スル事ノ發見サレテヨリ優良品ノ生産ヲ見キニ至レリ由來本品ハ近年ノ輸入量比較的小量ナルト且ツ消費方面カ一部ニ限ラレタキ爲メ今日ニテモ從前ト大差無キ輸入量ヲ算シ從ツテ本法ノ施行ニヨリ内國産業ニ及ボス影響モ亦僅少ナリトス

8 チーズ

本品ハ主トシテ在留外人ノ食料ニ供セラレ其等ノ需要ヲ目的トシテ極メテ小規模乍ラ和製品ノ産出ヲ見タキモ品質ハ概シテ舶來品ニ及ハス夏期保存ニ堪ヘサレノ缺點ヲ有シ市價モ終始割高ナリレモ十割課稅後ハ市價有利ニ好轉セシ爲メ産額モ多少増加シ現在本邦産ノ白眉ト稱スルモノハ北海道トラピスト修道院ノ製造ニカカレモノナカカ同院モ小規模ニシテ且ツ生産ヲ目的トセキニ爲メ産額ノ増加ヲ期待スルコトハ不可能ナリ而シテ本邦煉乳業者モ副業トシテ本品製造ノ有利ナルコトハ夙ニ熟知セシモ需要方面カ一般本邦人ノ嗜好ニ不適當ニレテ且ツ又本業ヲ兼業シテ煉乳ノ販賣ニ汲汲タキ現在ニ於テ斯ク大規模工業ハ到底望ム可クモアラス而シテ本品ハ在留外人ノ日常必需品トシテ故ヲ以テ資澤關稅ノ不當ヲ絶叫スルノ聲喧シキハ一考ヲ要スル所ナリ

9 菓子及ヒビスケント

内地製菓業ハ近時大ニ發達シ輸入品ト比較シテ品質價格數量ニ於テ畧匹敵シ今ヤ内地ノ需要ヲ充メン過剩出品ニ對シテハ近年輸出サキキモノ増加セル状態ナラフ以テ十割稅ニヨリ輸入困難ハ延テ國産品ノ内地市場ヲ一層確保セリト思考ヒラリルモ内地全消費額ヨリ見キ時ハ輸入額僅少ナルヲ以テ内地製菓業ニサシタル影響ナシト見ルヲ至當トス又加糖セサルビスケントハ從來内地産始ト無カリシモ近時内地製菓業者ハ同品ノ製造ニ著手シ

今日ニテハ相當ノ產出ヲ見ツツアリ
ウヰスキー及其他ノ酒類

10 洋酒中優良品ハ今日ニテモ依然内地生産ヲ見サル状態ナルモ洋酒醸造業ハ近時非常ニ發達シ原料タル蒸餾燒酎ニ相當需要ヲ喚起セラレタレニ徴スレハ其賣行モ推知スルニ難カラサルヘシ而レテ此等和製品ノ多クハ輸入洋酒ト混合シテ市場ニ現ハルモ多ク國産品ヲ標榜シテ販賣サルモハ極メテ稀ナリトス

11 珊瑚及同製品
内地珊瑚ハ近年主トシテ伊國ニ輸出サレ同國ニテ適當ニ加工シ製品トシテ再ニ輸入サルル状態ナリシカ十割課稅後ハ製品ノ輸入困難トナレリ當業者ノ談ニ依レハ近來伊國カ原料珊瑚ノ買入ヲ手控フルニ至リシハ該製品ヲ我國ヘ賣込ム見込立ヲサルカ故ニ自然原料ノ買付ヲ躊躇スル結果ナリト隨テ原料珊瑚ノ豐富ハ勢ヒ和製代用品ノ市價ヲ安値ニ導キ國內加工製産ヲ増加セル傾向アリ

12 石鹼

本邦ニ於ケル石鹼製造工業ハ較近著シキ發達ヲ遂ケ基礎モ鞏固トナリ大規模工場ハ各處ニ勃興スルニ至レリ就中東京、大阪、兵庫、愛知ノ各府縣最モ盛ニシテ其生産額ハ國內ノ需要ヲ充シ尙年年多額ノ輸出ヲ見ケル盛況ニアリ從テ現今海外ヨリ輸入セラレモハ高價ナル化粧石鹼及ヒ特種石鹼ヲ其ノ重ナルモノトモセサレハ之カ關稅引上後ニ於テモ我國ノ生産上ニハサシタル影響ナカリシモ石鹼製造ニ要スル各種香料ハ關稅引上ケニ伴ヒ幾分發費ヲ來セシヨ苦痛トス即チ從來石鹼製造ニ要スル香料ハ價格ノ二割内外ヲ占ムルヲ例トセシカ今ヤ其ノ倍額ノ出費ヲ要スルニ至リタレハナリ

13 織物類

本品中關稅引上ケニ依リテ輸入ヲ減退セシハ麻織物ニシテ同品ハ既ニ内地生産充分ナレハ近キ將來ニ於テ輸入

ノ必要ナキニ到ラン毛織物、毛綿交織物中絹入ノモノ及ヒ毛、絹製ブラツシユ等ハ關稅引上ケニ依リテ追々生産ヲ増加シ日本毛織會社ニ於テハ優良ナルブラツシユ類ノ產出ヲ見ルニ至リタレハ今後數年ヲ經ハ國産品ニテ優ニ内地需要ヲ充タレ得ヘシト想像サレ其他ヴェーリシダ、肩掛地等モ本法ノ影響ヲ受ケ漸次發達ヲ爲シ殊ニ京都西陣方面ノ斯業ハ長足ノ進歩發達ヲナスニ至レリ

14 貴石

我國ニ於ケル貴石ノ產出ハ極メテ少ナク僅ニ新潟縣ノ一部ニ「サフアイヤ」ノ產出ヲ見一時大日本寶石會社經營ノ下ニ近年迄營業ヲ續ケレモ採算不引合ノ結果遂ニ解散シ現在ニテハ其ノ製産ヲ見ス柘榴石ハ近江、伊吹山ニ良好ノモノヲ產出シ孔雀石ハ各所ニ散見スルモ之等ヲ原料トシテ寶石ヲ製造セルモノハ何レモ規模狭小ニシテ未タ内地需要ヲ充タスニ足ラザル現狀ナリ而シテ貴石中高價ナル「ダイヤモンド」如キハ全然產出ヲ見ス又「シムシテツク」貴石ハ我硝子工業ノ幼稚ナルタメ全然製産ヲ見サルモノトモサレハ裝身用貴石ハ殆ント全部輸入ヲ仰ク狀況ニシテ發售品稅ノ施行ニヨリテ本品ノ如キ發售物ノ輸入カ必然的ニ減少セルハ國家ノ大局ヨリ視テ洵ニ喜ブヘキ所ナレモ一面取締困難ノ爲メ相當ノ脫稅品ノ輸入セシレツツアルハ一考ヲ要スル所ナリ

15 蓄音器同部分品及樂譜

本品ハ從來國産品トシテ相當ノ生産アリタレモ終始精巧ナル輸入品ニ壓倒サレ勝チナル状態ナリレカ關稅改正後輸入品ノ昂騰ハ本邦生産業者ヲ有利ニ導キ日本蓄音器「リミ」印、飛行機印、東亞蓄音器（鳩印）日東（ツバメ印）等ノ諸會社カ急速ノ進歩ヲナレ殊ニ我國特有ノ音曲ヲ吹込メル樂譜ハ生産額増加ト共ニ割安ヲ以テ販賣スルニ至リ機械部分品亦米國製ピクチャー蓄音器ノ如キ高級品ヲ除キテハ殆ント國産品ニテ内地需要ヲ充タシ得ルノ程度迄發展ヲ遂ケルニ至レリ然レ共近時「ヂオ」ノ勃興ニヨリ一般ノ嗜好カ其ノ方面ニ漸次推移セムトスル傾向アリテ本品ノ賣行ニ多大ノ影響ヲ與ヘツツアハ如レ

本品ノ用途ハ極メ小範圍ニ限ラレ主トシテ婦人用履及靴先等ニ使用セラレ發澤稅實施前ハ其ノ供給ヲ專ラ外國ニ仰キレカ其ノ實施後ハ輸入量激減シ且十割課稅ノ保護的影響ヲ受ケ現在内地ニテモ僅少ナカラ個人經營ニテ相當ノ製品ヲ生産シ得ルニ至リタレヲ以テ本稅ヲ存置スルニ於テハ將來尙多少發展ノ餘地アルモノト認メラル

本品ハ比較的値段ノ安キモノニ使用スル範圍モ僅少ナリ仍テ發澤稅ノ適用ヲ受グモ一般の必需品タル飲食物ノ如ク生活ノ脅威ヲ感セサルモノナラス假令使用スルモノモ少量ノモノニテ用ヲ達シ得ルヲ以テ其ノ價格モ比較的目的ヲサレハ一般消費者ニ對スル感シ薄ク尙全然加工製品トシテ輸入サルモノニシテ別段日常必需のモノナラサルヲ以テ問題トスル迄ニ至ラス

然レ共本品ト同類ノモノニシテ市六吋以上ノ所謂刺繡布ハ昨今一般的需要激増セリ即チ婦人ノ襦袢ノ袖口及ヒ腰卷等ニ使用スルモノモ大部分ヲ占メ比較的高價ニシテ而モ保存上及ヒ洗濯等ニ堪ヘサルモノリンス類ノ如キモノヲ使用スルモノモ本品ヲ使用スルハ價格ノ點ニ於テ經濟的ナルヲ以テ需要ハ益々激増シツツアリ

本品ハ發澤稅課稅前ハ相當ノ輸入ヲ示シタレモ其後輸入激減セリ是レ本法ノ施行ニ依リテ現在内地ニテ横濱京都徳島等十數箇所ノ小規模ノ工場ノ設立ニ依テ外國品ト同程度ノ優良製品ヲ多量ニ製造シ得ルニ至レタメナリ

然レニ本品ハ舶來品カ發澤課稅品タリノ故ヲ以テ内地ノ賣買價格相當高キタメ和製品モ亦外國品ニ追從シテ市價ヲ引上クニ傾向アリ若シ本稅法ヲ廢セムカ或ハ價格ノ低下ヲ見消費者ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得ヘク而モ尙本稅廢止ノタメニ内地製産ニハ何等變動ナキ模様ナリ

本品ノ内箱入ノモノヲ除キタレモハ發澤品トシテ見ル可キモノニアラス就中汽車汽船等ノ履ト用及下等ナルモノニ至リテハ寧ロ必需品タレテ成アリ而シテ子供用外套ノ袖口及襟ニ用フルモノニ至リテハ防寒用トシテ必要缺クヘカラサルモノナレハ必需品トシテ認ム可キモノナリトハ當業者ノ唱道スル所ナリ

本品ハ發澤稅課稅前ハ相當ノ輸入ヲ見タレモ其ノ後激減シテ皆無ク状態トナレリ之レ其ノ使用量ノ激減セシニ非スシテ其ノ供給ヲ内地生産ニ仰キツツアル結果ニ外ナラス

従前内地ニ於ケル本品製造ハ舶來品ノ獨占ニヨリテ採算上不引合ノ状態ニアリ隨テ折角低付ケル機械モ殆シト中止スルノ悲況ニ陥リシニ偶々本品ノ發澤稅賦課以來内地斯業ノ發達顯著トナリ今ヤ故テ外品ノ輸入ヲ仰カストモ自足シ得ル程度ニ至レリ然レトモ今此ノ發澤稅ヲ撤廢センカ舶來品ノ輸入ニヨリテ内地生産者ハ採算上到底競争的地位ニ立ツ能ハスシテ斯業ヲ抛棄スルノ止ムナキニ至ルヤニ聞ク又逐年旺盛トナレシ羅紗ノ類ニ於テモ然リ現今羅紗カ比較的高率ノ關稅ヲ課セラレ居ル關係上之ヲ輸入スルモ高價ナキ爲和製品ニ對抗シ能ハサレハナリ若シ關稅ノ引下ヲ見シカ舶來品ハ内地品ヨリ割安ノ以テ輸入セシレ到底内地品ハ現在ノ生産高ヲ持續スル事不可能ナルヘレ

況ンヤ昨今漸ク其ノ初步ニアリ本品ノ製造工業ニ就テハ此際或程度迄ノ保護ヲ必要トスヘキモノナキニ於テヤ

紙類ハ發澤品ニ非スシテ必需品ナリ

現今發澤稅ノ適用ヲ受ケツツアルモノノ内従前ヨリ使用量ノ多キハカブードグレイミッドペーパー及カブードマープルペーパーニシテ普通紙ト稱スルモノ之ナリ本品ハ學校ニ於ケル手工用品トシテ又ハメリヤス其ノ

他ノ雜貨、文房具、容器ニ貼用シ又ハ漆ノ代用トシテ輸出玩具ニ貼付シ紡績會社製用品用レフアルトシテ再輸出セラルルノミナラス蠟燭、麵類ノ商品用レフアルトシテ原料トシテ缺クヘカラサルモノナリ、如キモノハ於澤品トシテ取扱フハ意外ノ感ヲ生スルモノニシテ實施當時營業者ハ相共ニ嘆息ヲ提出シテ其ノ窮ニ於テ考慮スト云フコトナリテ今日ニ至レモナリ

本品ハ於澤課稅前ハ一月三十三連平均ノ輸入ヲ見ルモ課稅後ハ一月百二十連ニ減少セリ蓋シ本品ハ其ノ用途廣キ丈ケ輸入品ノミニテ需要ニ難シ難ク之レカ補足ノ爲内地製品ヲ代用スルカ爲メナリ

以來内地工業モ自ラ發達シテ漸次相當ノ製品ヲ造リ得ル狀態トナリタルモ其ノ品質優良ナラス時偶々著色紙關稅ノ引上ニ際會セテ爲價格ノミ舶來品ニ追從シテ相當高價ヲ唱ヘタレハ結局消費者ハ從前一連三圓五十錢位ニテ品質優良ナルモノヲ使用シ得タルニ反シ昨今ハ品質ノ割合ニ劣等ナルモノヲ十二三圓ト云フ法外ナル高價ヲ以テ使用セザレ可カラサル傾向トナレリ

本法ハ或程度迄ハ内地工業ノ保護トナリタレ共經濟的ニハ大失敗ナリトシ此ノ際於澤稅ノ撤廢ヲ要望スル向モアリ

20 時計類

時計類ハ我國ニ於テモ最近非常ナル發達ヲ遂ケ就中服部精巧舍等ノ製品博ク愛用セラレユニモ拘ハラズ同機械及部分品ノ外國ヨリノ輸入モ亦相當多量ニ上レリ

懷中時計中於澤稅適用ヲ受ケルハ金及白金側時計ニシテ現今ハ金及白金側時計ハ絶無ト云フモ過言ニ非ス之レ本法施行以來機械ノミニノ輸入ニ増加シ白金ノ「ケース」ヲ内地ニテ製造シ之ニ適當ナル機械ヲ嵌メテ金又ハ白金側時計トシテ販賣スルノ狀勢ナレハ此ノ際本法ヲ撤廢スルト否トニ不拘機械其ノモノノ價格ニ變動ナキ限リ内地ノ賣値ニ變動無キハ勿論ナリ唯現今ニテハ於澤稅賦課ノ關係上相當ノ密輸入品アルヤニテ此ノ脅威ヲ感ス

ルヤニ仄聞セリ

置時計モ同様ニ機械ノミニノ輸入ヲシテ外装ヲ内地ニテナス爲於澤品該當ノモノハ漸次減少セリ殊ニ本品ハ内地ニテ相當ノ製産ヲナシツツアル狀態ナレハ懷中時計ト同様機械ノ價格ニ變動ナキ限リ假令本法ヲ撤廢スルトモ内地賣値ニ變動ヲ來ササル模様ナリ要スルニ現今ニ於ケル本品ノ賣行良否ハ一般景氣ニ支配サルモノニシテ本法存置ノ如何ニ何等因果關係ヲ保タルモノノ如シ

21 寫真用フィルム

寫真用フィルムヲ於澤稅該當品ト認メタルハ偶々本法設定當時大流行ヲ來シ輸入額モ相當多量ニ計上セラレタルニ由ルモノト思ハル

然レ其本品ハ決シテ於澤品ニ非ス或者ニアリテハ華必需品トナリ又或者ニ對シテハ必需品ナラント思フ即チ安價ナル慰安物トシテ使用スルノミナラス學術研究ノ材料トシテ又ハ新聞雜誌ノ寫真製版印刷用フィルムニ至リテハ必需品タルコト當ヲ俟タス今此ノフィルムヲ於澤品トシテ認ムル以上ハ之レト同様ノ性質ヲ有スル寫真用乾板モ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノト思ハル而モ他方ニ於テフィルムハ全然内地ニ於テ製造シ得スト見テ差支ナキモ乾板ハ内地ニテ製造シ得ルモノナリ

而シテ本法施行ノ爲消費者ハ施行前ニ比シテ餘程ノ高價ヲ以テ使用セザルヘカラサル狀態ニアリ即チ從前一本四十五錢位ノ「コダック」用フィルムモ昨今ハ七十錢ノ高價ヲ唱ヘ七割強ノ暴騰差額ハ消費者自ラ負擔スルノ譯合トナレリ尙本法施行以來一種ノ密輸入行ハレ居ルモノノ如ク云々スルモノアリ

尤モ本法定當時ハ或ハ止ムヲ得サキ事情ノ下ニ置カレタリモ計リ難ケレトモ永久ニ之ヲ存積スヘキ性質ノモノナラストモ早晚改正ノ希望トシテハフィルムハ外國製造會社多數アル爲輸入品ニモ亦十數種ノ差別アリ隨テ現行法ノ如ク從價稅ニテハ鑑定上ニ非常ナル相違ヲ生スルヲ以テ寧ロ從量稅ヲ適用スルヲ可トセスヤト要

スルニ現時我國情トシテ從前通りニ關稅ノ引下ハ或ハ困難ヲ感ストスモ或程度迄ノ引下ケハ可能ナルヘシト云フ向モアリ

二、本法ニ對スル意見

(イ) 本法課稅品中稅表第五六番銃砲及同部分品ノ内(一)小銃ヲ(二)小銃及同部分品ニ改ムルコト小銃ハ本法ニ依リ十割課稅品ナルニ對シ其ノ部分品ハ然ラサル爲小銃ヲ輸入スルニ當リ完成セシ小銃ヲ故テ分解シテ申告者積載船舶又ハ輸入港ヲ異ニスル等種種ノ作爲ノ下ニ小銃部分品トシテ輸入セムトスル者多キヲ加ヘ一組ノ完成品即チ小銃トシテ輸入申告スル者殆ント稀ナル實狀ニ在リ爲ニ是等不正輸入ニ對シテハ曩ニ主稅局長通牒(昭和二年藏稅第六三四號)ノ趣旨ニ基キ各關相互聯絡通報シ相當取締ノ途ヲ講シツツアリト雖而モ萬全ヲ保シ得サル狀態ニ在リ依テ寧ロ此際小銃ニ對スル十割課稅ヲ存積スルニ於テハ題記ノ如キ改正ヲ加ヘ此ノ種不正輸入ヲ絶減シ課稅上ノ遺漏ヲ防キ取締上ノ手數ヲ省クヲ以テ良策ト爲スヘシ

(ロ) シヤム、チリス、ココロ、紅茶、ビスケット類ノ比較的生活必需品ハ本法課稅品ヨリ撤廢スルコト

右ノ諸品ハ其ノ輸入數量僅少ナルト共ニ現在ニ於テハ殆ント相當社會階級ノ生活必需品トシテ常用セラレル所ニシテ殊ニ嗜好上内地品ヲ以テ代用スルヲ欲セサル在留外國人ニ取リテハ右ノ諸品ノ十割課稅ハ最モ苦痛トスル所ナルヘク本法施行後右諸品ノ輸入カ格別減少セサル事實ニ鑑ミ此種諸品ハ寧ロ本法課稅品ヨリ之ヲ撤廢シ舊稅ニ復セシムルヲ適當ト認ム

(ハ) 本法課稅品中稅表第三三二番(トリミング)第三三三番(トリミング)(一)丙ノ口及(二)乙ヲ除ク(ト改ムルコト

本品中一部ハ既ニ贅澤品タル域ヲ脫シ實用品トシテ一般ニ普及使用セラレル所ニシテ從テ稅表第三三二番(トリミング)

ヲ首記ノ如ク改正シ特殊贅澤品ヲ除キ其ノ他ハ舊稅ニ復セシムルヲ適當ト認ム

(ニ) 本法課稅品中ヨリ稅表第三九一番寫眞及第三九三番「カレンダー」ヲ除キ尙第三十二番書畫(轉寫用繪畫ヲ除ク)ヲ第三九二番書畫(印刷シタルモノ)但シ轉寫用繪畫ヲ除ク(ト改ムルコト

右ノ諸品中寫眞及「カレンダー」類ハ之ヲ贅澤品ト目スルヲ得ルモノノ輸入大部分ヲ占メ又書畫中肉筆ニ成ルモノハ一般ニ藝術價值多キモノニシテ是亦單ニ贅澤品トシテ高率課稅スルハ時宜ニ適セサルヲ以テ題記ノ通り改正スルヲ適當ト認ム

三、關係統計表

- (イ) 神戸港發稅該當品大正十二年及十三年輸入價額兩年同期比較表
- (ロ) 神戸港發稅品價額連年比較表
- (ハ) 神戸港主要十割課稅品數量價格表
- (ニ) 神戸港十割課稅品單價表

第一表

神戸港發稅該當品大正十二年及十三年輸入價額兩年同期比較表

月別	大正十三年	大正十二年	増減	歩合
一月	一五〇四	七二二		一、一一三
二月	一五七七	七二五		一、一四四
三月	一五九八	一、六五三		〇、〇三三
四月	一八九二	八四三		一、二四三

五	二、一五〇	九〇〇	一、三八九
六	一、八八二	一、一〇六	〇、七〇〇
七	二、九六六	一、三六一	一、一八〇
八	一、三五七	七、三三三	〇、八五六
九	二、〇九七	一、三五三	〇、五七五
十	一、八二六	一、〇一一	一、〇三五
十一	二、三一一	一、四六〇	〇、一七三
十二	七、四六九	二、五〇五	〇、五五一
合計	一九、四一九	一、九五七	〇、五九六
合計	一九、四一九	一、九五七	〇、三七一

注意 大正十三年中△ヲ附シタルハ十割課税ノ價額ナリ

第二表

神戸港發着品價額連年比較表

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額
食料品	二、五八二	二、二八六	五、六〇四	七、五九九	八、九一四	八、三五五	八、三五五	八、三五五
皮毛角牙甲殼及同製品	二、二九九	二、三三二	二、二二	一、二二七	一、三三七	五、九	五、九	五、九
油脂蠟及同製品	二、七八九	四、九一三	九七	三九〇	一、七四	一、一五	一、一五	一、一五
合計	一、五、六〇二	二、一、三八九	三、五〇九	二、八〇一	二、五〇六	二、五〇六	二、五〇六	二、五〇六

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額	實額
藥材化學藥及爆發藥	九〇	一五〇	一一	七六	四四	一七	一七	一七
絲織布帛及布帛製品	三、九七二	五、四六〇	六、一五	一、二六六	六、二七	四九〇	四九〇	四九〇
衣類及身邊粧飾類	二、八九	四、六九	二〇六	一一一	四二	六二	六二	六二
紙、紙製品及書畫	五九七	五、四八	二〇	三七	三五	二八	二八	二八
礦物陶磁器及硝子製品	一、六一六	一、〇三八	二四	七五	一〇八	一四九	一四九	一四九
金屬製品時計學術品及銃砲	一、二三三	一、六八二	二三四	二九一	二九九	四三四	四三四	四三四
雜品	二、二〇〇	二、六三七	一八〇	三七三	四四一	三五三	三五三	三五三
合計	一、五、六〇二	二、一、三八九	三、五〇九	二、八〇一	二、五〇六	二、五〇六	二、五〇六	二、五〇六

第三表

神戸港主要十割課税品數量價額表

第一食料品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
蔬菜	四七、九一	二、五〇七、五	七四、〇〇	二、八二二、二	二、五〇二、二	四、一五九、九	二、三三七、三	七、〇四三、三
生果	一、四三三、六八	三、二一〇、五六	一、二八〇、九三	二、九九九、九	一、二八七、〇九	三、四八、八七	一、七二七、三六	二、四九、九
紅茶	二、九六八	三、〇八四、〇	三、四六四、五	五、四、四七	五、三、五〇	九、二、四四	六、四、四四	一、〇九、六六七
合計	三、八、六〇	二、七、八〇〇	八、九、〇三〇	五、〇、三二〇	八、五、一五	四、五、二、四四	一、三、四、八七	四、二、四、九五

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
蜂蜜	四一五	一八三	一六七五	一八九	一〇三一	一九四一	八〇三	
葉子	五三三八八	五二四四	七九四四	九六六六	六八八八	七七五九九	五二七七二	
シヤムフルーツゼリ類	三六八五	一六六一	一一五三	五九八八	一一九一七	八六六九	三三九八	
ビスケツト	一五九七	一五八	四一四二	二九六	六六六五	八七七六	四一五五	
果汁及糖水	七七一四	二八九七	四六八七	二七〇	一四七五	三二八二	一三六六	
チ	一一八四五	一三三三	二六九九	二九七七	三三六二	二四四七	二二〇二	
ウ	一六〇一九	五一一八	六五九七	二二八八	九三〇五	二八七四	二〇八七〇	
支那酒	三三八二	二七二	四八四三	一〇六八	八九九七	四九九三	三〇六四	
麥酒	三三八二	二七二	四八四三	一〇六八	八九九七	四九九三	三〇六四	
其他ノ酒類	一三三七四	二八九七	三九九五	七三三	八二二二	二八二四	四九八六	
礦水其他ノ飲料	三三九	八	三三七〇	一三三	一七〇	四一九	一三〇	
其他ノ飲食物 (砂糖入)	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	
計	五六〇九五	一〇〇〇〇	七九九四	一〇〇〇〇	八九二二	一〇〇〇〇	八三三三	

第二 皮毛骨角甲殼及同製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
綿羊皮及山羊皮	四二〇四	一〇八九八	二一七九〇	九〇八四五	二六八〇七	九五三四五	一三三八八一	四二七六一
皮革	三三〇	七六六	三三〇	七六六	三三〇	七六六	三三〇	七六六
其他ノ毛皮類	二四二	三五〇一	三二二	四三八五	三二二	四三八五	三二二	四三八五
其他ノ革製品	二七四六	六七一	六七一	九七	九七	九七	九七	九七
羽毛製品	二七	二七	二一八	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
象牙製品	一八	一八	二六六	六	六	六	六	六
珊瑚及同製品	二二二	一五六九三	一一七三三	一一四八五	一一四八五	一一四八五	一一四八五	一一四八五
其他ノ皮毛角牙製品	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三
計	二二四四〇	一〇〇〇〇	二二四四〇	一〇〇〇〇	二二四四〇	一〇〇〇〇	二二四四〇	一〇〇〇〇

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
植物性揮發油	二二五六四	九四二一	二七九一二	三七七六四九	一六八七九	一五三二一六	一〇二六六	一三三七一
石鹼	三三三三	一七一八	一四九六三	六五八九	五〇〇一九	一五四六一	一〇五七	三九二
香水	三一	五四	三八八	六五一	一、一二六	一、二七〇	二〇八	二九八
芳香ヲ附シタル油脂蠟製品	五六	七六	六四一	六一八	二、五一八	一、四〇七	二〇八	二九八
齒粉其他ノ調合香料	九七、三五二	一、二八三	三九〇、四四九	四、九四二	一七四、〇一六	九四	二三三	一一五、六六四
計	九七、三五二	一、二八三	三九〇、四四九	四、九四二	一七四、〇一六	九四	二三三	一一五、六六四

第三 油脂蠟及同製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
植物性揮發油	二二五六四	九四二一	二七九一二	三七七六四九	一六八七九	一五三二一六	一〇二六六	一三三七一
石鹼	三三三三	一七一八	一四九六三	六五八九	五〇〇一九	一五四六一	一〇五七	三九二
香水	三一	五四	三八八	六五一	一、一二六	一、二七〇	二〇八	二九八
芳香ヲ附シタル油脂蠟製品	五六	七六	六四一	六一八	二、五一八	一、四〇七	二〇八	二九八
齒粉其他ノ調合香料	九七、三五二	一、二八三	三九〇、四四九	四、九四二	一七四、〇一六	九四	二三三	一一五、六六四
計	九七、三五二	一、二八三	三九〇、四四九	四、九四二	一七四、〇一六	九四	二三三	一一五、六六四

第四 藥材化學藥及爆發藥

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
薰香性化學藥	二五九	八、三三八	五、八〇五	四、五四七	四、九〇四	三、五三二	一、七三〇	二、九二六
沈香	三二一	五一八	一、五八四	四、六八六	二、三七六	二、一七九	三、〇三五	七三三
白檀	三二一	二二六	一、七二九	一、七二九	一、三三七八	二、三三六	二、六〇〇	七三三
グアニリン							七〇七	六、九一一
クマリン							五七四	二、七三五
ヘリオトロピン							三七九	一、一一七
煙火	三、一一八	八四二	一、〇七〇	四二二	九八〇	四二二	一四五	一七、五八七
計		一二、一六六		七六、〇八一		四四、六七八		

第五 絲縷布帛及布帛製製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
織物(絲(絹入))	二二五	一、四一八	五、四四	五、八一	一、四四	二、八一	八八	五、三八
亞麻布	八、九〇〇	三、八〇二	二、八一九	六、七九四	一九	二		
毛天鵝絨	三、七二八	一、三〇二	七、二二七	二、八八四	三、〇二五	八、四四四	三、〇二五	五、九七七
毛織物(絹入)								
絹天鵝絨	三、三八四	一、九八二	八、四四五	六、九六七	五、〇九五	二、〇四八	一、四九五	四七、五七八
計								

第六 衣類同附屬品及身邊粧飾類

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
絹織物		二、九五九		一〇、八八八		一〇、三九九		一四、八五四
絹メリヤス		三、四		二、八一		二、二七九		四、六二四
レース地及網地		三、六四二		三、七七二		四、二八		一、六六九
刺繍布		三、六四二		二、六九六		四、二八		一、六六九
ゴム入布		一、三、五四三		六、三三		二、六		二、〇四七
手巾		四、三、七三八		一、八、七〇八		一、〇、四六		七、〇三五
地氈		一、三、五四三		七、三八		五、四		六、七二
テーブルクロス		一、四、八八五		五、〇、四六五		七、九		二、四、四六二
ペットクォイルト		一、九、一一四		八、二二		七、九		一、二、四
トリムミンダ		六、二、七七七		一、二、六、四八二		六、七、四七四		四、九、〇三二
其他布帛製品								
計								
帽子		三、九〇二		八、三九四		六、九一九		六、四一四
メリヤス肌衣		三、四		一、〇、一		七、三		五、四七
短靴		七、九一		二、〇、九〇		五、九五		九、四二
スリッパ		一、五、二四		六、〇、四		一、八		四、三、二〇
計								

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
靴	一〇九	七七四	五八	二六一	一四五	五二九	八一	三一四
シャツ、カフ			四一	二九二	一三八	一九二	二四	二一三
雨				一八				七四
手袋	五、三二四	七七、八九六	一、九三三	二九、二五九	七一六	一〇、五九二	一、七六五	二五、三七一
足	二、二三七	二、八九四	七七七	九九二	四八一	六三四	一五	一五二
マフラー	二九	一四一	六五	一二四	三六	八三	二一	六六七
肩掛及襟巻	五、五二二	七二、九八一	二、六七一	三二、七一五	三六六	七、〇九六	七八八	七、九三二
襟	五、一一二	一五、七四九	二、三六	七、〇八三	三五六	六、二九一	一七五	四、五八六
袴	二七一	三、九〇四	一二五	九二九	一〇一	六五四	二九六	二、〇九〇
袴	二一三	三、一〇六	三七六	三、五八一	一二二	四七五	一五八	八六四
衣服用ベルト	二九一	三、一一三	三三三	一、〇六七	四五六	一、二五四	四五六	一、〇一六
サスペンダー								
身邊粧飾用細貨								
衣類(附屬品)								
計	二〇六、五二五	二、五八九	二一、八〇七	六、三八三	四二、〇一六	二、七二六	六二、四五〇	六二、四五〇

第七 紙、同製品及書畫

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
着色紙	六、六九五	九、七三三	一一、一八八	一四、〇七六	一一、七三二	一七、三四一	一一、三三〇	一三、六五〇
書畫	九	四四三	二六二	九、四四五	三四六	一一、〇四〇	二七一	七、六九〇
計								

第八 礦物礦物製品陶磁器硝子及硝子製品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
アールバム	五五六	六七七	六〇八	八一	九	一六	一〇四	一〇二
骨牌	七二六	一、五二〇	三、五一一	七、六九七	七六八	一一二	四七	一一二
寫真					三、七五八	二、二二四	二、二二四	三、六二〇
カレンダ					一、九四二	二、六二〇		二、九〇二
繪葉書	九五	一五五	三六九	四二四	二〇二	四〇四	二一〇	五七四
クリスマスカード								八一
計	二〇、三八四		三七、九一〇		三五、九三一		二八、七三一	

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
貴石		四、六〇〇		三七、四〇七		六七、五八二		一〇四、九一五
半貴石製品		一〇		四、〇四二		二、七五六		五、四三七
石及製品		一、四九四		五、六一一		七、六四四		九、〇七五
石膏製品		七四		二〇四		五五三		一、二九四
陶磁器		八、〇四五		一九、九一〇		一六、四七二		一一、一七四
眼鏡		一三四		七、八五二		一三、一七一		八四二
硝子製品		一〇、〇三六		七、八五二		一三、一七一		一六、三一〇
計		二四、三九三		七五、〇二六		一〇八、一七八		一四九、〇四七

第九 金屬製品時計學術品及銃砲

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鍍金線	一九七	二,一七九	四九	三,四七	二九	二,九八	二八	二,一八
雙(貴金屬ヲ鍍シタルモノ)	四,〇五二	三,二七八	一,一三三	一,一三三	八八	八八	一六七	一六七
フオーク及スプーン (貴金屬ヲ鍍シタルモノ)	二,二四八	一,六二八	一,六二八	一,六二八	三〇九	三〇九	七五五	七五五
懷中(白金又ハ金製)	一三	三,八八九	五三	五,三三三	一,五三三	一,五三三	五,〇五二	五,〇五二
時(計)	二,八四三	四,六六	八六	一,一九二	一,六四七	一,六四七	一,九四九	一,九四九
置時(計)	二,八四三	四,六六	八六	一,一九二	一,六四七	一,六四七	一,九四九	一,九四九
寫真器	七七	二〇,一四九	一,五四九	七,五二二	一,一〇	一,一〇	二,五七	二,五七
同部分	三四八	一三,九〇九	一,四三三	四,四七九	二,八四九	二,八四九	五,三三二	五,三三二
蓄音機	一	一六,七五〇	二,二七四	二,四七九	二,六八七	二,六八七	九,〇〇〇	九,〇〇〇
同部分附屬品	一	一九,〇七八	五九五	二,四八三	二,二六三	二,二六三	四,七一九	四,七一九
雙眼鏡及雙眼鏡	一	三〇,〇一一	三九,六六八	一,一三三〇	一,一三三〇	一,一三三〇	三,三三四	三,三三四
感光性フィルム (寫真用)	二五,九八九	八二,五二四	一四九,八二七	一,一三〇	二四八,一五九	二四八,一五九	二九,〇八四	二九,〇八四
小銃	六五四	三八,七八一	三八	一,四三九	二九,三五六	二九,三五六	一〇,〇七九	一〇,〇七九
計	二二,〇三九	二二,〇三九	二九,二八四	二九,二八四	二九,三五六	二九,三五六	四三,四三〇	四三,四三〇

第十 雜品

品名	大正十三年		大正十四年		大正十五年		昭和二年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
唐木	二七,八八七	七,三六〇	三三,九九九	三三,〇三三	二九,八五七	二,四三一	三三,三八〇	二,六五〇
傘柄杖標及手 (箱張)	五,二五六	六,三六五	一六,三六六	二,六六九	四,〇五一	四,〇五一	七,五六五	六,〇四三
唐木製品	二,六二七	二,九八	三六	三六八	五〇一	五〇一	一四一	一,〇〇一
遊戯具	一五,五二五	七四	五,四六四	三,一九九	一,七〇三	一,八七三	四,一三七	二,〇一五
化粧具	二,二九四	一,五五二	四九四	四九四	一六三	一六三	一七九	一七九
靴	一五,五八九	一,九五二	二五,九九九	二五,九九九	三二,五七二	三二,五七二	四九,六八九	四九,六八九
諸雜品	三,八七四	一,八五七	三,七五	三,七五	五七三	五七三	三一一	三一一
小包郵便物	三〇,三一九	一,五二四	一,五二四	一,五二四	一〇,五九九	一〇,五九九	一四,四九五	一四,四九五
旅客携帶品	六五,〇六六	一八,八八四	一五,四四五	一八,五七	三,八〇九	三,八〇九	一,四六七	一,四六七
計	一八〇,八四三	一八〇,八四三	二二九,四七七	二二九,四七七	二二九,四九〇	二二九,四九〇	二七二,八五一	二七二,八五一

十割課税品單價表

品名	主ナル輸出國	單位	單價			用途
			大正十三年	大正十四年	大正十五年	
蔬菜果實	米、英、佛	斤	五三	三八	三六	食用
生果乾果	支、米、英	同	二二	一六	一七	同
紅茶	支、印	同	一、五〇	一、五七	一、七〇	飲料
蜂蜜	獨、加、印、米、英	同	九八	五六	五四	同
菓子	米、英、佛、獨	同	四四	四七	五二	食用
シヤムフルゼリ類	米、英、露	同	九七	七九	七〇	同
果汁及糖水	佛、英、米、獨	同	四五	五三	四三	同
チロ	英、米、露、佛	同	三五	四四	四一	同
ビスケツト	英、米	同	一一〇	一〇	九七	同
ウヰルスキ	英、佛、獨	同	九五	七〇	六〇	同
支那酒	支	同	三二〇	三三〇	二八〇	飲料
麥酒	獨、英、比	同	五八	五五	八〇	同
其他ノ酒類	英、佛、露	同	二、一五	一、七五	九三	同
礦水其他ノ飲料	佛、獨	同	三六	三四	二六	同

其他ノ飲食物	佛、米	同				食用
綿羊皮及山羊皮	支、米	斤		二、〇七	二、四〇	衣料
塗革	米、獨	同	二、六〇	四、四〇	三、五五	同
毛皮	支、英、米、露	同			三、〇九	同
其他ノ革製品	英、佛	同	一、五〇六	一、三、六〇	一、四、三〇	同
羽毛	英、米	同			一、三、〇〇	裝飾用
羽毛製品	英、支	同				同
象牙製品	英、米	同				同
珊瑚及製品	支、伊	同				同
植物性芳香揮發油	英、佛、獨、伊、支	斤	四、一七	一、三、六〇	九、〇七	香水、化粧料
石鹼	佛、英、米、獨	同	四六	四三	三一	化粧料
香	同	同	一、七〇	一、六五	一、三五	同
薰香フ附シタル油脂	同	同	一、三〇	九六	五六	同
齒粉其他ノ調合薰	同	同				同
香類	同	同				同
蜜香性化學藥	同	同				同
沈香	支、暹	同	一、九八	八二	一、三〇	同
白檀	支、印	同	四〇	一一	一七	同
ヴァニリン	英、佛、獨	同				同
クマリン	同	同				同

繪葉書	米	獨	斤	一、六〇	一、一五	二、〇〇	二、七三	美術品
クリスマスカード	米	獨	斤					同
貴石	石	印、英、佛、伊						裝飾品
半貴石製品	石	伯、支、英、米、印						同
石及石製品	石	支、英、佛、獨、伊						同
石音細工	石	佛、獨						美術品
陶磁器	陶	支、英、米						裝飾品
眼鏡	鏡	同						同
硝子製品	硝	英、佛、支、獨						同
鍍金線	鍍	獨、佛	斤	六、五〇	七、〇七	一三、〇〇	四、二二	同
鍍金物	鍍	佛、英、獨、米						同
(貴金屬ヲ鍍シタルモノ)								同
フオーック及スプーン	フ	英、獨、米、佛						同
同								同
檢中時計	計	獨、米、佛、瑞、英	個	三五、八〇	一三、八六	二七、九一	四五、七〇	同
(白金又ハ金製)								同
同								同
置時計	計	同	同	七、〇八	四、八〇	一、五四	一六、九〇	同
同								同
寫真器	器	米、獨、英	同	一八、〇〇	二四、〇〇	一三、〇〇	一一、二二	娛樂品
同								同
蓄音機	機	同	同	五四、八二	四一、七四	五八、五九	五三、八九	同
蓄音機部分品及附屬品	品	同	同					同
雙眼鏡及隻眼鏡	鏡	英、佛、獨	個	三九、〇〇	一一〇、〇〇		三八、〇〇	裝飾品

大阪税關長答申

大阪港ニ於ケル釐澤稅品ノ輸入狀況ヲ見ルニ、大正十三年(八月以降)百十萬圓、大正十四年百三十九萬圓、昭和元年百八十五萬圓、昭和二年百五十九萬圓、昭和三年(四月迄)五十五萬圓ニシテ釐澤稅法ノ實施ニ因リ一時之カ輸入減退ノ事實ヲ認メ得タルモ、同法實施後最近ニ至ル迄ノ狀勢ハ判然タル漸減ノ傾向ヲ示スニ至ラサルカ如シ。大正十四年ハ大阪港外國

フイルム	米、獨	斤	三、一七	三、六〇	四、一三	三、五〇	娛樂品
小銃	米、英、白、獨、瑞	個	五六、〇〇	三七、五〇	四五、〇〇	二五、一九	同
唐木	支、米、英、香	斤	六	七	八	八	裝飾品
傘柄、杖、鞭等	英、佛	同	一一、二一	一、六〇	一、五〇	八〇	同
傘(箱裝)	英、米	個	一一、七〇	一〇、二〇	一〇、四〇	七、一〇	同
唐木細工	支、印	斤	六一	五八	一一、一〇	五〇	同
遊藝具	支、英、米、佛、獨						娛樂品
瓶	米、獨、佛						同

騰貴セキモノ 五二品
 下落セキモノ 九六品
 高低ナキモノ 五三品

貿易價額ノ最高記録ニ達シタル年ニシテ翌十五年ハ其ノ輸入總額約一割弱ノ減少ヲ呈シタルニ拘ラス贅澤稅品ノ輸入額ハ前年ニ比シ却テ三割以上ノ増加ヲ示セリ。昭和二年ニ於ケル贅澤稅品ノ輸入額ハ前年ニ比シ約一割四分ノ減少ヲ呈セルモ輸入總額モ亦六分弱ノ減少ヲ示セルカ故ニ必スシモ贅澤稅品ナルカ爲ニ減少ヲ來セリト斷スルヲ得サルカ如シ。又各品目別ニ付之ヲ見ルモ殆ント其ノ明瞭ナル傾向ヲ發見スルヲ得サルモノ多シ。昭和二年ニ於ケル贅澤稅品輸入額百五十九萬圓ハ輸入總額二億六千四百萬圓ニ對比シ僅ニ其ノ六厘ニ過キス又同年贅澤稅品ニシテ十萬圓以上ノ輸入アリタルモノハ蔬菜果實及核子、植物性揮發油、刺繡布、トリムミンダ及花梨木鐵刀木類等アルノミ。

惟フニ贅澤稅品ノ輸入ハ前述ノ如ク其ノ輸入稅ノ急激ナル變化ニ因リ一時頓挫セシメテレタル事實ハ之ヲ認ムルヲ得ヘキモ(一)純然タル贅澤稅品ト目スヘキモノニ在リテハ其ノ價格ノ昂上ハ却テ主觀的價値ノ増進ヲ來サシムルモノナルカ故ニ關稅ノ引上ヲ以テ需要者ノ虛榮的慾望ヲ絶滅スルヲ得サルモノアルヘク(二)或種ノ物品ニ在リテハ製造業者又ハ輸入商等ニ於テ増徵關稅ノ一部ヲ負擔シ關稅影響ノ全部ヲ消費者ニ及ホササルモノアルヘク(三)或種ノ物品ニ至リテハ其ノ生産費ノ低廉又ハ品質優良等ノ事由ニ因リ十割關稅ノ障礙ヲ突破スルヲ難シトセサルモノアルヘク(四)或種ノ物品ニ至リテハ不正手段ニ依リ輸入セラルルカ故ニ其ノ關稅ハ全部消極的ニ國家ノ負擔ニ歸シ消費者ニ對スル關係ニ於テハ關稅ノ撤廢ト何等擇フ所ナキニ至リ其ノ輸入數額ノ夥シカリシモノニ在リテハ正當手續ニ依ル輸入品ノ市價

ヲ崩壞セシメタル事例ナキニ非ス(五)或種ノ物品ニ在リテハ贅澤稅カ完成品ノミニ適用セラレテ其ノ部分品ニ及ハサルコトヲ利用シ巧妙ナル分割輸入ヲ企圖シテ贅澤稅ノ負擔ヲ免レムトスルモノアリ。其ノ著シキ事例トシテハ小銃ノ分割輸入ヲ擧クルヲ得ヘシ。之ニ關シテハ客年來各稅關間相互通報ヲ勵行シテ完成品課稅ノ徹底ニ努メツツアレトモ其ノ實績ニ徴スレハ徒ニ勞多クシテ功少キノ憾アルヲ免レサルナリ。

右ノ如キ諸種ノ事由ニ依リ贅澤稅法ハ年所ヲ經ルト共ニ其ノ當初有シタリシ強烈ナル刺戟力ヲ失ヒ恰モ藥劑ノ習慣的服用ト共ニ其ノ藥效ノ次第ニ減少シ行クカ如ク今日ニ於テハ實施當時ニ於ケル其ノ主要ナル作用ハ微弱トナリ寧ろ希望若ハ豫期セサリシ其ノ副作用ノミ却テ顯著ナル働キヲ爲シツツアルカ如キ實況ニ非サルカヲ疑ハシムルモノアリ。今之ニ關シ二三ノ事例ヲ擧クレハ左ノ如シ。

贅澤稅法ノ實施ニ依リ最モ著シキ影響ヲ受ケタルモノノ一ハ犯則ノ取締及檢擧等ニ關スル事務ノ増加ニシテ、支那ノ沿岸諸港殊ニ大連港ヲ足場トシテ組織的且職業的ニ贅澤稅品ノ不正輸入ヲ企圖スル者頗ル多シ。一ハヤネツト、寫眞器、フィルム、及毛皮類等其ノ最タルモノニシテ大阪稅關檢擧ニ係ル贅澤稅品ノ密輸入額ハ大正十四年四千七百餘圓、大正十五年十萬六千餘圓、昭和二年千七百餘圓、累計十一萬三千餘圓ニ上レリ。

次ニ贅澤稅法實施ノ影響トシテ最モ留意スヘキハ同種內國産品ニ對スル内地奢侈稅法ノ制定ナカリシヲ以テ本來本法ノ目的トスル所ニ非サリシ保護關稅的ノ作用ヲ結果シ十割關

税ノ保障ノ下ニ其ノ生産ノ勃興ヲ見ルニ至リシモノアルコト是ナリ。之ニ關シテハ大阪税關管内ニ於テハ大阪市ニ於ケル香料ノ製造事業ヲ擧クルヲ得ヘク日下之ニ從事スルモノニ鹽野吉兵衛商店、合名會社小川商店及中山化學研究所アリ。其ノ他艶紙、「スキ」用具ノ製造ノ如キ亦之ニ屬ス。京都市ニ於テモ「トリムミン」用「レース」、人造絹「シル」編肩掛及人造絹「シル」織物等ノ如キ製品ノ製造勃興シタルモノアリテ是又主トシテ贅澤税法ノ保護的作用ノ下ニ成立セルモノト認ムルヲ得ヘシ。

又贅澤税法ノ施行ニ當リテハ輸出貿易ニ支障ヲ及ボササル様夫夫措置セラレ輸出品ノ原料トシテ使用セララル物品ハ大正十四年ノ同法改正ニ於テ大部分ノ削除ヲ見又其ノ然ラサルモノニ付テハ保税工場ヲ利用スルヲ得ヘキモ目下贅澤税法關係ノ爲其ノ利用ヲ爲シツツアルハ大阪税關管内ニ在リテハ合名會社春元石鹼製造所、合名會社小川商店及今井安太郎商店アルノミニシテ諸般ノ關係上輸出品ノ原料ニシテ贅澤税ヲ負擔シ多少ノ程度ニ於テ輸出貿易ノ「ハンディキャップ」タルモノアルハ疑ヲ容レサル所ナリ。

加之、所謂贅澤品ト目セラルルモノモ或種ノ生活狀況ノ下ニ於テハ必需品ト認ムヘキモノ尠カラズ。例ヘハ紅茶、「ココ」コ、「シヤム」、「チース」類等ノ如シ。此種ノ物品ニ對スル贅澤税ノ課徴ハ消費ノ節約ヲ意味スルニ非スシテ或意味ニ於テハ消費ノ懲罰ヲ意味シツツアルモノトモ謂フヲ得ヘシ又「バンク」ロマチツク、「フィルム」、「スベクトラム」撮影専用ノ「フィルム」等ノ如ク純學術用品ト認ムヘキモノニシテ尙贅澤税ヲ課セラレツツアルモノアリ。

又彼ノ書畫類ノ如キモノヲ悉ク贅澤品等ト見ルコトハ國民ノ文化生活上果シテ妥當ナルヤ疑ハシキモノアリ。

之ヲ要スルニ贅澤税法カ其ノ實施當時ニ於テ國民精神ニ對シ相當ノ刺戟ヲ與ヘ其ノ覺醒ヲ促シタル事實アルコト疑ヲ容レズ又其ノ物質的影響ニ至リテモ尠カラサルモノアルヘシト雖、同法實施以來既ニ四年ニ近ク所謂其ノ當分ノ内「ナル」期間ハ大體經過セルモノト謂フヲ得ヘク、又之ヲ國際通商ノ通義ニ鑑ミルモ此ノ種課税ハ非常ノ際ニ留保スヘキ變則的手段ナリトスヘシ。蓋莫、當時同法ノ制定ヲ必要トスルニ至リタル事由カ今モ尙我國民經濟上重要ナル意義ヲ失ハサルモノトセハ、同法掲記ノ物品ニシテ純然タル贅澤品ト目スヘキ或種ノ物品ニ對シ當分ノ間十割關稅ノ賦課ヲ續行シ行クハ我國民精神ノ緊張ヲ維持スル上ニ於テ必要ノ措施タルヘキモ、爾餘ノ物品ハ此ノ際總テ之ヲ同法中ヨリ削除スルヲ妥當ナリトスヘシ。但シ同法ノ實施ニ伴フ保護關稅的作用ノ下ニ成立シタル製造業ニシテ將來發達ノ見込アルモノニ對シ相當ノ保護ヲ加フルコトハ穩當ノ措置ト思料セラル。尤モ之ニ對スル保護ノ程度ハ他ノ産業ニ對スル保護ノ程度ト權衡ヲ失セサラシムルヲ要スヘク、十割關稅又ハ著シキ高率ナル關稅ノ下ニ於テノミ存立シ得ルカ如キ贅澤品工業ノ如キハ我國民經濟上存在ノ理由ニ乏シト謂ハサルヲ得サルヘシ。

一、 奢侈關稅實施後ノ狀況ヲ觀ルニ本法施行前ニ比シ贅澤品等ノ輸入價額ハ約四分ノ一乃至五分ノ一ニ低減シ奢侈抑制輸入防遏ノ目的ヲ完全ニ達成シタルモノト斷スヘシ

大正十一年	一九五、三七二圓
大正十二年	一七九、六六三圓
大正十三年	自一月至七月 一六七、二五二圓
大正十三年	自八月至十二月 一七、七四二圓
大正十四年	五五、二三五圓
昭和元年	六五、六二一圓
昭和二年	七二、二二〇圓

惟フニ高率ナル關稅カ密輸入ヲ誘致スルノ傾向ハ動カスヘカラサル事實ナルカ如シ從來密輸入品ハ主トシテ絹織物翡翠毛皮等ニ限ラレタルモ本法施行後ハ其範圍著シク擴大シ犯則事件ノ大部分ハ所謂十割稅品關係ノモノニ屬スル狀態ナリ然レトモ單ニ如上ノ事實ヲ以テ奢侈關稅ノ存在理由ヲ否定セントスルカ如キハ妥當ナラス
要之本法ノ存置ハ輸入防遏奢侈抑制ノ必要カ實施ノ當初ト何等變化ナキ現狀ニ於テハ何人モ異論ナカルヘシサレト冷靜ニ輸入ノ狀況ヲ觀察スル時ハ本法ニ内在スル多少ノ缺陷ナ

シトセス故ニ此等ノ諸點ハ此際適切ナル改善ヲ加フヘキモノト信ス

二、

當管内ニ於ケル贅澤品等ノ品目別輸入狀況ヲ觀ルニ大部分ハ本法實施後輸入減退シタルモノ尙反對ニ増加セルモノモアリ

(一) 本法施行後輸入減退セルモノ左ノ如シ斯ノ如ク多數ノ十割稅品カ一齊ニ減退シタル點ヨリ見レハ本法所期ノ目的ノ一半ヲ達成セルモノト謂フヘシ

- 茶 砂糖ヲ加ヘサルココー シヤム、フルーツゼリー類 砂糖ヲ加ヘサルビスケット 果汁及
- 糖水 チーズ 釀造シタル支那酒 別號ニ掲ケサル酒類 石鹼 薰香ヲ附シタル油、脂、蠟及其
- ノ製品 香水 煙火 麻織物及麻綿交織物 絹織物及別號ニ掲ケサル絹入織物ノ其他 毛製又
- ハ毛入ノ地氈 硝子ヲ除キタル別號ニ掲ケサル陶磁器 置時計 寫眞器 蓄音器 單ニ切り挽
- キ又ハ割リタル木材ニシテ花梨木、鐵刀木、黃楊木、紅木、紫檀及黑檀(縞黑檀ヲ除ク) 別號ニ掲ケサル木製
- 品ノ其ノ他

(二) 本法施行後輸入増加セルモノ左ノ如シ此等ノ諸品ハ本法施行ニ因リ却ツテ輸入増加ノ變態的現象ヲ呈セリ

- 蔬菜、果實及核子(二ノ甲ノ四ヲ除ク) 塗革 別號ニ掲ケサル珊瑚製品 眞珠 沈香 線香

三、 奢侈關稅實施ノ狀況ヨリ觀察シテ此際本法ノ課稅品目ヨリ除外スルヲ適當ナリト認ムルモノ左ノ如シ

税目番號 三一 蔬菜、果實及核子

(理由) 在住外人ノ生活必需品ニシテ本法施行後ニ於テ數量、價格共ニ著シク増加セルヨリ考フルトキハ撤廢ヲ可トス

税目番號 三二 茶

同 三三 マーテ其他ノ茶代用品

同 三六 コーヒー

(理由) 咖啡ト同一ニ取扱フヲ可トス

税目番號 四六 シヤム、フルーツゼリー類

同 五二 チーズ

(理由) 生活必需品ニシテバタートノ權衡上除外スヘキモノト認ム

税目番號 七二 革類

(理由) 學生用帽子ノ底、軍帽用顎紐、女子制服用バンド等製造原料トシテノ需要多ク且奢侈費澤品ヲ以テ律スヘキモノニアラス

税目番號 九五 植物性揮發油(芳香性ノモノ)

同 一三八 沈香

同 一三九 白檀(二其ノ他)

同 二二二 ヲアニリン、クマリン、ヘリオトロボリン、其他ノ別號ニ掲ケサレ調製薰香料

同 二二九ノ内 人造香料

(理由) 以上五品ハ原料品ナルヲ以テ除外スレヲ適當トス、九五芳香性揮發油中石鹼原料タルモノハ既ニ

除外サレタルモノ多キニ於テヲヤ

税目番號 二三四 煙 火(船舶ノ用ニルシグナル、レツド、ライター)

(理由) 船舶遭難ノ場合危險信號ニ使用セラルルモノナルカ故ニ除外例ヲ設クルヲ可トス

税目番號 三九三 カードカレンダー及プロックカレンダー

同 三九四 繪葉書

同 三九五 クリスマスカード類

(理由) 廣告用品、宗教其他簡單ナル通信用ノモノニマテ十割稅ヲ課スルハ稍々酷ナリ

門司税關長答申

第一 贅澤品等ノ輸入税引上ニ關スル法律實施ノ狀況

一、贅澤品等ノ自大正十二年至昭和二年輸入狀況

管内輸入贅澤稅該當品ノ一般狀況ハ別表第一ノ如シ尙之ヲ細說スレハ

(一) 一般貨物トシテ輸入セラレシモノ

大正十二年 一四、二九五圓

内 自 七月 至 自 十二月
六二、八九一圓 八一、〇六四圓

大正十三年 一五、二五四八圓

内 自 七月 至 自 十二月
九三、六六七圓 五八、八八一圓

大正十四年 一一三六八八圓
 大正十五年 六〇、二七六圓
 昭和元年 二〇、九九四圓
 昭和二年

大正十三年ハ釐澤稅法實施ノ年ナルニ不拘其前年ニ比シ却テ九五九三圓即約六歩七厘ノ増加ヲ示シタルハ自一月至七月間即法律實施前ノ期間ノ輸入額カ十二年同期ノソレヲ遙ニ凌クノ狀況ヨリ觀テモ大體所謂見越輸入ニ因ルモノナルヘシト推想シ得ルカ如ク實際ニ於テ該法實施ノ直ニ寫眞用フネルム、紅茶、菓子、蓄音器及紫檀製品ノ輸入激增シタルカ爲メナリ而シテ大正十三年以後ハ逐年輸入減退シ昭和二年ニ至リテハ僅ニ二萬九百九十四圓ニシテ實施ノ前年即大正十二年ノ輸入額ノ約七分ノ一二減少シタリ

斯クノ如ク迫年輸入ノ遞減スルニ至リタルハ經濟界ノ不景氣益々深酷ニシテ賣行不振ナル爲メ一般的ニ輸入減退ノ氣配アリタルト國內物價ノ低落シタル結果輸入價格ニ低下ヲ來シタルニ因ルト雖モ其ノ減少度ノ著シキヲ見レハ又以テ釐澤稅法實施ノ結果ナリト云ハサル可カラス次ニ釐澤稅該當品ノ重ナルモノノ輸入額ニ就テ見ルニ別表第二ニ示ス如ク釐澤稅品目ニシテ輸入價格千圓以上ノモノハ大正十二年ニ於テ十八種、同十三年ニ於テハ釐澤稅法實施前期ニ十六種、實施後期ニ十二種ヲ數ヘタルカ十四年以降ハ毎年僅々七、八種ニ過キサルニ至リ殊ニ從來輸入額相當ニ上リタ

ル乾果(主トシテ干柿)、酒類(主トシテウヰスキー)、石製品(主トシテ蠟石製品)、陶磁器(主トシテ支那火鉢)、寫眞器及同部分品、紫檀製品ノ如キニアリテハ該法實施後ハ輸入急激ニ減少シタルカ又ハ全然輸入ナキニ至レリ但シ「コーコー」ニ就テハ釐澤稅法ノ實施ニ不拘毎年其輸入額殆ント變化ヲ見ルコトナキハ當關管内所在數多ノ菓子製造所ニ於ケル製菓原料トシテ需要減少セサルニ因ルモノナリ

(二) 小包郵便物トシテ輸入セラレシモノ
 當關管内ニ小包郵便ニ依リ輸入セラルル一般品ノ輸入價格八年間六十萬圓ヲ上下シ此ノ内釐澤稅該當品ノ輸入額ハ最近五ヶ年間ノ平均約三萬一千圓ニシテ全小包郵便輸入額ノ約二十分ノ一ヲ占ム而シテ之ヲ各年ニ付テ見ルニ

大正十二年	三四二五五圓	自七月	至七月	二〇、一五五圓
		自八月	至八月	一四、一〇〇圓
		自十二月	至十二月	一六、四五七圓
大正十三年	四五六一三圓	自七月	至七月	二九、一五六圓
		自八月	至八月	二二、一一四圓
		自十二月	至十二月	三三、八三〇圓
大正十四年	二二、一一四圓	自七月	至七月	二二、一六三圓
大正十五年	三五、八三〇圓	自七月	至七月	二二、一六三圓
昭和元年	二二、一六三圓	自七月	至七月	二二、一六三圓
昭和二年	二二、一六三圓	自七月	至七月	二二、一六三圓

ニシテ贅澤税法實施ニ因ル影響ヲ認メ難キカ如キモ大正十三年ニ於ケル輸入額ノ激増ハ別表第三ニ示スカ如ク該税法實施直前ニ萬年筆(七、七九〇圓)及貴石類(五、七六〇圓)ノ見越輸入アリシニ因リ大正十五年度輸入額カ前年度ニ比シ六割以上増加セルハ獺毛皮一萬七千三十二圓ノ輸入アリシニ因ルモノニシテ之ヲ除クニ於テハ同年ノ輸入額ハ約其ノ半額ニ減ス故ニ小包郵便ニ依ル贅澤稅該當品ノ輸入ニ於テモ亦該法實施後漸次減退ノ傾向アルヲ認メ得ヘシ

(三) 旅具扱トシテ輸入セラレシモノ

大正十二年以來昭和二年ニ至ル迄ノ輸入額ハ

大正十二年	二四、五二五圓	内	自七月	一四、六八三圓
			至十二月	九、八四二圓
大正十三年	二五、六三三圓	内	自七月	一九、六八九圓
			至十二月	五、九四三圓
大正十四年	九五、一七圓			
大正十五年	一六、六七二圓			
昭和元年	二二、四二二圓			

ニシテ大正十三年自一月至七月ノ期間ニ於テハ見越輸入ノ爲メニ増加シタリト雖モ其後ハ減少シ同年末迄及十四年ニ於テハ著シク減少シ而シテ十五年以後ニ於テハ輸入漸次増加スルノ傾向アリ而シテ別表第四ノ示ス如ク大正十五年以來輸入額ノ増加シタルハ大體ニ於テ紫檀製品、絹布類(綴子其他ノ支那絹布)、寶石及貴金屬類(身邊裝飾用細貨類)、毛皮(獺毛皮)、遊戯具(主トシテ麻雀)ノ五種ニシテ其増加ノ原因ヲ考察スルニ

- 一、輸入増加ノ著シキ紫檀製品ハ關門附近ノ支那商人ノ手ニ依リ輸入セラレタルモノ大部分ニシテ旅客携帶品扱(托送品)トシテ輸入スルヲ以テ輸入ノ手續簡易ナリトナスニ因ルモノ、如シ
- 二、絹布類、寶石類及貴金屬類、毛皮類ハ支那方面ヨリ來ル旅客ノ殆ント孰レモカ携帶シ來ルヲ普通トスルモノナルガ大正十五年以來ノ銀相場低落ニ連レ彼地ニ於テ之等物品ノ比較的格安ニ購ヒ得ルカ爲メ自然之等ヲ携帶シ來ル旅客多クナリタルコト
- 三、内地ニ於ケル麻雀遊ノ流行ニ伴ヒ麻雀ノ輸入ヲ増加シタルコト

以上各種ノ原因ト相俟ツテ旅具扱物品ノ輸入額ヲ増加セシメタルモノノ如シ

第二 贅澤税法實施ト犯則

大正十二年以來昭和二年ニ至ル迄ノ間ニ於ケル贅澤稅該當品關係ノ犯則件數及其犯則物ノ價額ハ左ノ如シ

年 別	検挙件数	處 分		宥 恕
		件数	價 額	
大正十二年	六	五	四四一・七〇	一
大正十三年	六	五	四〇〇・六〇	一
大正十四年	一一	七	一八二・九〇	五
大正十五年	一二	七	四七二・七五	五
昭和元年	四三	二五	二三五・二四	一八
昭和二年	一九	四	八九一・五六	一五
合計	一四一	一〇一	二,〇〇〇・〇〇	六六

贅澤税法實施後ハ犯罪件数漸次増加ノ傾向アリテ犯罪物件ノ多クハ身邊裝飾用細貨類、絹布、獺毛皮ノ如キ身邊ニ隱匿シ易キモノナリ

第三 贅澤税法實施後當關管内ノ産業ニ及ホシタル影響

贅澤税實施ノ爲新ニ工業ノ起リタルモノナキモ其影響ヲ受ケ生産額ヲ増加シタルモノ左ノ如シ

- 一、陶磁器
 - 製造所 東洋陶器株式会社
 - (設立大正六年五月、資本金公稱二百萬圓拂込百七十五萬五千圓、從業者約八百名)
 - 當社ハ飲食器ノ製造ト共ニ特ニ輸入品防遏ノ目的ヲ以テ衛生陶器ノ製造ニ着手シ偶々贅澤税法ノ實施ニ依リ好況ニ向ヒ其ノ生産額ヲ増加シ目下飲食器物約百萬圓衛生陶器約五十萬圓ノ年産額ヲ製造シツツアリ

一、支那火鉢模造品

製造所 大里窯業所

(設立大正五年、資本金個人經營ニ付キ不詳、從業人員四名年産額約六千圓)

一、石鹼

製造所 日華製油株式会社

(設立大正七年八月、資本金四百萬圓全額拂込、從業人員八百名)

當社ノ主製品ハ大豆油、菜子油ニシテ年産額七百萬圓ニ達シ其ノ副産物タル油滓ヨリ年産額約十萬圓ノ石鹼ヲ製造シツツアリ

第四 贅澤税法實施ニ對スル意見

贅澤税品關税法實施ノ結果ハ前記ノ如ク奢侈品ノ輸入減退シ以テ奢侈抑制ノ效果アリタリト認ムヘク而シテ其施行上ニ於テ多少ノ困難アリ且犯罪事件ヲ多カラシメタリト雖現下國民ノ經濟思想ニ考ヘ尙之ヲ存續セシメ以テ益々消費節約ノ精神ヲ一般國民ニ徹底セシムルノ要アリ但シ本法實施ノ結果ニ徴シ多少修正加除ヲ要スルモノアリ左ニ之ヲ述フヘシ

- 一、贅澤税品目表中ノ總稱の名稱ニ制限ヲ附スルカ又ハ之ヲ細目名ニ改ムルコト
- 贅澤税品目表ニハ總稱の名稱ニテ掲ケアルモノ相當多シ爲ニ贅澤品ナラサル物ヲモ重課スルノ缺點アルヲ以テナリ

(制限又ハ細目名ノ決定ニ付テハ各關ヨリ本省ニ提案スルコトトシタシ)

一、完成品ニ資澤税ノ課セラレルモノハ其ノ部分品ニ對シテモ亦同税ヲ課スルコト

輸入税表第五六〇號ノ一小鉢ノ如キ其ノ部分品ニ對シテ資澤税ヲ課セラレサルモノニアリテハ完成品ヲ分解

シ部分品トシテ輸入シ重税ヲ免ルモノノ缺陷アリ

一、資澤税品ノ税率ニ差等ヲ設クルコト

貴金屬製品、寶石、裝飾品ノ如ク眞ニ奢侈品ト目セラルルモノニ十割ノ重税ヲ課スルハ正ニ當然ノコトナレ

トモ食料品、生活必需品、運動用具、靴具ノ如キニ對シテ等シク同率ヲ課スルハ酷ニ過タルノ嫌アリ仍テ之

等ニ對シテハ現行率ヨリ幾分低率ヲ課シテ之カ緩和ノ途ヲ講スルノ要アリ

低率トナスヲ適當ト認メラレルモノハ左ノ如シ

飲食物

輸入税表第三二號 茶

同 第三六號 「ココロ」

同 第四六號 「ジャム」フオートシエリ」類

同 第五四號 「チーズ」

油脂製品

輸入税表第一一七號 石鹼、黄香ナキモノ

衣類同附屬品

輸入税表第三四五號 「シャツ」フロンツト「カラー」及「カフス」ノ中綿製ノモノ

同 第三四七號 手袋ノ中綿製ノモノ

同 第三五〇號 襟飾ノ中綿製ノモノ

同 第三五一號 袴釣ノ中綿製ノモノ
同 第三五二號 衣服用「ベルト」ノ中綿製ノモノ
同 第三五三號 「スリーヴ」スベンダー及「ストッキング」スベンダー類
同 第三五五號 靴其他ノ履物「エナメル」靴又ハ「ダンス」用ノモノヲ除ク

紙製品

輸入税表第三八四號 「アルバム」ノ中紙表装ノモノ

同 第三九一號 寫眞、藝術寫眞ヲ除ク

同 第三九四號 繪葉書(紙製ノモノ)

陶磁器及硝子製品

輸入税表第四三九號 (別號ニ掲ケサル陶磁器)ノ二其ノ他

同 第四五七號 (別號ニ掲ケサル硝子製品)ノ二其ノ他(カットグラス)ヲ除ク

雜品

輸入税表第六三六號 寫眞用「フィルム」

同 第六四〇號 運動用具

同 第六四一號 靴、具

一、資澤税カ國定税率ヨリモ低率トナル場合ニハ國定税率ニ依ルコトトスルコト

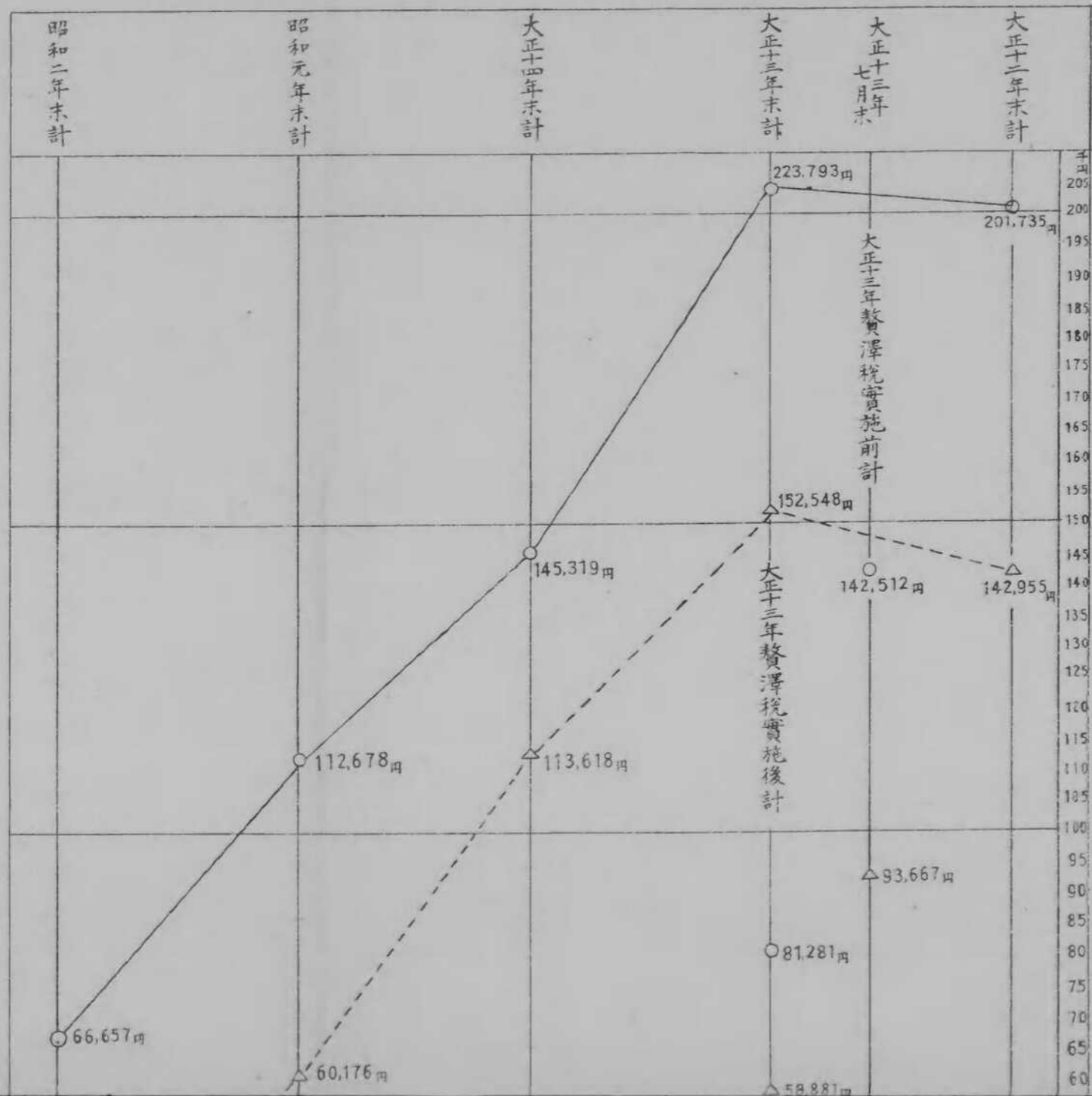
或ハ種ノ金剛腕時計(金剛腕時計ハ每個十圓九十錢)或ハ釀入支那混成酒(釀入混成酒每百リットル「百二

十四圓)ノ如キニアリテハ資澤税率從價十割ノ賦課ハ反テ從前ノ國定税率ヨリ低率ナリ

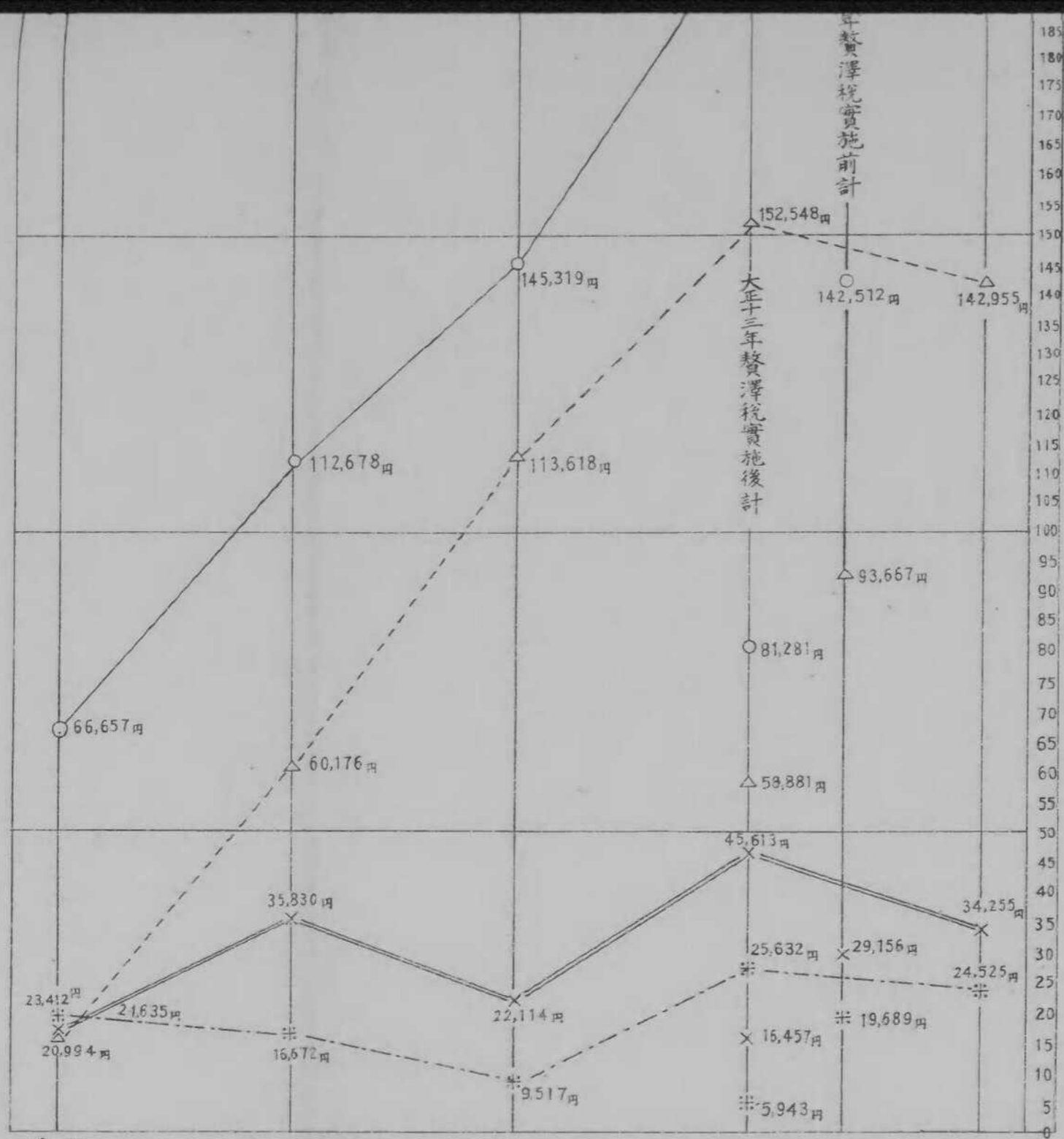
別表 第一

門司税關管内ニ於ケル釐澤税該當品輸入状況

(自大正十二年
至昭和二年)



0000 0913



備考 ○ — 費澤稅該當品總輸入價額 × — 小包トテ輸入セラレタル價額
 △ — 貨物トテ輸入セラレタル價額 ※ — 旅具トテ輸入セラレタル價額

別表第二

門司税關管内ニ於テ貨物扱トシテ輸入セラレタルモノノ年間輸入千圓以上ノモノ (自大正十二年
至昭和二年)

税表番號	品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和二年
		課税 買入額	課税 買入額	課税 買入額	課税 買入額			
31 一	蔬菜果實 (在糖類澱粉木又ハ蚌 及 核子 (蜜ニテ貯蔵シタル物))	4,355	2,256	2,673	4,929	5,765	—	451
31 二 甲	蔬菜 (罐詰 罐詰 罐詰ノモノ)	5,885	2,291	5,650	7,941	5,318	93	1,166
31 二 乙 四 イ	生果 (主トシテ葡萄)	4,263	342	410	752	446	55	232
31 二 乙 四 ロ	乾果 (主トシテ乾柿)	34,339	20,838	2,190	23,028	2,684	1,227	882
31 二 乙 四 ハ	核子 (主トシテ栗)	7,933	9,147	4,248	13,395	79,908	31,562	3,206
32 一	紅茶	3,187	4,407	3,570	7,977	—	2,442	1,478
36 二	ココア (砂糖ヲ加ヘザルモノ 核子ニアラザルモノ)	1,837	4	2,602	2,606	1,730	1,569	1,318
45	菓子	3,279	4,332	2,274	6,606	22	33	49
49 一	果汁及糖水	816	1,080	0	1,080	400	115	260
66 二	其他ノ酒類	15,126	8,523	12,905	21,428	3,324	8,858	3,845
67 一	其他ノ飲食物 (砂糖ヲ加ヘ タルモノ)	79	0	3	3	407	2,878	164
69	毛皮	2,615	50	11,790	11,840	7,056	4,168	—
117	石鹼	1,357	744	91	835	482	—	409
328 一	地氈 (毛製又ハ毛入ノモノ)	1,476	2,076	543	2,619	31	—	444
336	ペイントタイルト及クッション	155	1,390	80	1,470	—	—	—
414 二 乙	石製品 (主トシテ支那ヨリ ノ磁石製品ナリ)	10,767	1,611	45	1,656	193	309	—
439	陶磁器 (硝子ヲ除ク)	5,307	3,884	1,142	5,026	834	1,114	1,058
528 ノ 内	置時計	2,714	2,931	1,914	4,845	160	—	—
553 554	寫真器及同部分品	1,460	125	0	125	—	—	—
555 556	蓄音器及同部分品	2,401	3,257	2,367	5,624	359	572	339
612 一 甲	紫檀及紅木材	紫檀材 53	10	0	10	—	—	紅木材 3,668
626 二 甲	紫檀製品	23,943	11,638	753	12,391	348	279	337
636 一	寫真用フイルム (感光性 ノモノ)	—	6,563	222	6,785	—	—	—

一〇一

別表第四

門司税關管内ニ於テ旅具扱トシテ輸入セラ
レタルモノニシテ年間輸入千圓以上ノモノ (自大正十二年
至昭和二年)

品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年
	課税額 實施前	課税額 實施後	課税額 實施前	課税額 實施後				
毛皮 (雜毛皮)	1,266	307	349	645	560	1,193	1,610	
地氈	528	1,940	327	1,367	327	953	798	
遊戯具 (主トシテ麻雀)	185	...	15	47	179	956	1,223	
生果	1,002	18	354	303	260	88	251	
陶磁器	1,976	1,105	308	1,413	1,584	1,435	1,459	
絹布 (駱子其他支那絹布)	4,274	1,581	1,586	3,167	1,571	2,623	2,634	
紫檀製品	9,184	7,942	602	8,544	719	3,037	7,155	
酒類 (主トシテ支那酒)	460	1,703	531	2,234	1,774	2,201	713	
寶石及貴金屬 (身邊裝飾細貨類)	1,556	1,733	298	2,031	1,151	2,302	2,183	
蓄音器	854	3,463	...	3,463	260	260	304	
茶	9	9	25	34	...	20	1,107	
コーラー	...	1,005	...	1,005	

別表第三

門司税關管内ニ於テ小包郵便トシテ輸入セラ
レタルモノニシテ年間輸入千圓以上ノモノ (自大正十二年
至昭和二年)

税表番號	品名	大正十二年		大正十三年		大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年
		課税額 實施前	課税額 實施後	課税額 實施前	課税額 實施後				
45	菓子	3,463	1,805	1,207	3,012	1,675	1,835	3,047	
360 --	衣類及同附屬品	2,354	1,158	1,389	2,547	1,312	1,224	1,856	
303 三	絹布	6,534	2,535	1,497	4,032	1,261	1,294	1,778	
69	毛皮	1,062	304	453	847	483	17,032	112	
91	毛製品	100	31	420	460	1,076	3,610	226	
349	肩掛	1,126	1,363	937	2,300	1,915	912	834	
355	靴	3,918	1,411	1,433	2,544	1,808	1,849	1,925	
556	レコード	153	1,715	2,023	3,788	120	34	441	
636	フキキム	1,301	23	121	144	515	95	77	
647	万年筆	3,471	7,790	458	7,948	597	758	1,028	
412		寶石及半寶石	934	5,760	3,910	9,570	4,527	2,543	3,931
413	身邊裝飾用細貨類		2,969	1,333	521	1,854	404	295	471
553	寫眞器	863	237	444	681	3,647	91	111	
526 --	金銀時計	2,166	1,612	474	2,086	305	291	661	

函館税關長答申

大正十三年八月本法實施以來當關管内ニ輸入セラレタル贅澤税品ハ其ノ種類七十有餘ニ及ヒタレトモ其ノ大部分ハ輸入量極メテ少量ニシテ列記ノ價值アルモノハ別表ニ示スカ如ク僅ニ毛皮、干柿、紅茶及酒類ノ數種アルニ過キス而シテ之等數種中其ノ他ノ酒類ハ本法施行後大連定期航路ノ開ケタル大正十五年以來彼地ヨリ俄ニ多量ノ輸入ヲ見タルモノニシテ稍々注目ニ値スヘシ

前記酒類ハ「ウヰスキー」「ヴォッカ」燒酎等其ノ名稱ヲ異ニスレトモ其ノ品質内容ハ何レモ粗惡ナル一種ノ混成酒ニ外ナラサルヲ以テ原價頗ル低廉ニシテ從テ本品ニ對スル從價十割稅ハ從量稅ニ比シ其ノ納稅負擔額遙ニ輕ク輸入者ニ取リ甚タ有利ナル關係上斯品ノ輸入ヲ容易ナラシメタルモノノ如ク又本法施行ノ齎シタル一ノ奇現象タルヲ失ハス、其ノ他ノモノノ増減ニ付テハ特ニ説明ヲ加フヘキモノナシ

更ニ本法施行後過去四箇年ニ於ケル全國輸出入總額ヲ對照スルニ入超年次減少シ殊ニ本法該當品ハ輸入著シク減退ノ狀勢ヲ示セリ、之レ貿易逆調ノ緩和及奢侈ノ抑制等ニ對シ相當效果アリタルヲ立證スルモノニシテ法律制定ノ目的ヲ達シタルモノト謂ヒ得ヘシ然レトモ國內ノ現状ハ精神作興、經濟國難ヲ高唱セラレツツアルノ狀態ニシテ上下一致實實剛健ノ氣風ヲ涵養維持セサルヘカラサルノ秋ナリ、假令本法カ一時其ノ效果ヲ顯揚シタリトス

ルモ今俄ニ之カ廢止ヲ見ルニ於テハ聽テ人心ノ緊張ヲ失フヘキヤ必然ニシテ、斯クテハ法律制定本來ノ趣旨ニ悖ルモノト言ハサルヘカラス、故ニ本法ハ未タ廢止スヘキノ時期ニアラサルヲ痛感スルモノナリ

然レトモ左記物品ハ贅澤品トハ認メ難ク且第三四五號以下ハ前回改正ノ際綿製、亞麻製等ノモノヲ多數贅澤品中ヨリ削除セラレタルニ不拘猶本品ヲ本法適用ノ圈内ニ殘置セルモノニシテ當ニ其ノ理由薄弱ナルノミナラス彼此權衡ヲ失シ妥當ナラサルニ付速ニ本法適用ヨリ除外スヘキヲ至當ト認ム

記

輸入稅表 第三二號ノ一、第三四五號中絹製又ハ絹入ノモノヲ除キタル全部、第三四七號ノ三、第三四八號ノ二、第三五〇號ノ二、第三五一號ノ二、第三五二號ノ二ノ乙、第三五五號ノ一ノ甲及同號ノ二ノ甲、第三五六號中絹製又ハ絹入ノモノヲ除キタル全部

贅澤税品輸入額調

(但シ十三年中ハ八月前ト後トニ區分掲上セリ)
(八月後ハハ印ヲ附ス)

番稅目	品名	數量	施行前		施行後	
			大正十年	大正十一年	大正十三年	大正十四年
三二ノ二	乾果	斤	九一七	一四一八	三〇、五九	一三、〇〇
乙ノ四ノロ	主トシテ干柿	圓	五、一〇	七、二四	一一、二七	五、九七
					三、〇九	一、〇〇
					三、四六	一、〇〇
					五、九七	一、〇〇
					五、九七	一、〇〇
					三、四六	一、〇〇
					五、九七	一、〇〇

新義州等ニ於テ支那絹布代用品ノ製織工場ヲ見ルニ至リ漸次發達ノ機運ニ向ヒ居レリ
 右ノ次第ナルヲ以テ本法ノ改正ニ付テハ慎重考慮ヲ要スルモノト認ムルカ朝鮮ノ關係ニ
 於テハ差當リ鮮人ノ生活必需品タル乾菓、下等毛皮、素燒糞、硝子製煙管、鮮人用草鞋等ヲ除外
 スルコトト致シ度右ニ關シテハ追テ正式ニ照會ノ見込ナリ

臺灣總督府稅關長

大正十三年七月本法ノ施行セラレタル直前三ヶ年ニ於ケル贅澤稅品ノ平均輸入高ハ百萬
 千二百十二圓ニシテ之ヲ同期ノ平均輸入總額ニ對比スレハ些ニ二分六厘ニ當ルモノトス然
 ルニ本法實施以來ノ實績ヲ觀ルニ當初ノ半年間ニ於テハ關東大震火災ノ影響ヲ加味シ急轉
 直下八萬圓弱ノ少額ニ激減シ總額ニ對シ僅々四厘ノ比率ニ過キサルニ至レリ爾來經濟界ノ
 恢復ニ連レ總輸入高ノ増加スルニ伴ヒ些カ増進ヲ示シタリト雖モ固ヨリ微々トシテ振ハス
 昭和二年ニ於テ漸ク十五萬六千五百三十九圓ヲ計上シ總額ノ二厘ヲ保維セルノ狀態ナリト
 ス今主要品ノ本法實施直前三ヶ年平均ノ輸入高ヲ擧ケレハ絹布二十二萬三千圓、蔬菜果實二
 十萬千圓、靴十八萬八千圓等ヲ主トセルカ之カ昭和二年ノ輸入高ハ絹布七千圓、蔬菜類四千圓
 靴二千圓ニ過キス其他一齊ニ減少シ良ク本法制定ノ主旨ニ副ヘル結果ヲ齎ラセルモノト謂
 フヘシ而シテ本法ハ管ニ贅澤品ノ輸入ヲ防壁セルノミナラス高率ノ保護的關稅制度タル關
 係上島内各種ノ産業ヲ助長シ就中鳳梨罐詰製造業ノ如キ急速ノ進展ヲ遂ケ其ノ内地移出高

大正十三年ノ百三十五萬圓ヨリ昭和二年ノ三百十萬圓ニ激增セルモノ一面當局ノ指導獎勵
 ニ負フ所アリト雖モ本法實施ノ效果タラスンハアヲサルヘシ次ニ從來輸入ニ俟チタル絹布
 陶磁器貴金屬製品其他ノ贅澤品ハ漸次内地品ノ需要ニ轉向シ内地移入ヲ促進セル結果自然
 内地産業ノ發達ヲ助成シ相互ノ經濟關係ヲ一層密接ナラシムルニ至レルモノトス
 如上ノ事情ヨリ推シ臺灣ニ於テハ尙將來本法ノ存續ヲ適當ト信スルト共ニ現ニ臺灣ニ輸
 入セラルルモノニ就キテハ特ニ改廢ヲ必要トスルモノアルヲ認メサルナリ

年 別	輸入總貿易高	贅澤稅品輸入高	贅澤稅品稅額	輸入總貿易高ト贅澤稅品輸入高トノ割合(百分率)	備 考
大正十一年	四〇、四三三、二九〇	一、三二一、九一四	三六二、九三八	三・〇	附令第一六九號ニ依リ陶磁器、貴金屬、其他之類ハ本法ニ相違アルハ犯則品ヲ含ムニシテ、酒類、木炭ニ含マズ
十二年	三六、九二一、八七四	九五五、〇六八	二六二、三九一	二・六	
自大正十年至同十一年平均	三九、一一一、三六七	八二六、六五三	二二四、八二六	二・一	
自大正十年至同十一年平均	三八、八二二、一七七	一、〇〇一、二二二	二八三、三八五	二・六	
大正十三年	二、〇八〇、九二七	七九、九九五	七九、八七七	〇・四	
自大正十三年八月至同十二年十二月	五六、四八九、〇六〇	一、三二一、一七五	一三〇、九五二	〇・二	
十四年	五六、四八九、〇六〇	一、三二一、一七五	一三〇、九五二	〇・二	
十五年	六二、〇〇七、六六六	一、五二二、六六一	一五〇、九九四	〇・二	
昭和元年	六五、八四〇、三九六	一、五五六、三三九	一五五、三一九	〇・二	
昭和二年	一九、三九七、八五七	五三、八四三	五三、五六八	〇・三	
自昭和二年一月至同四年四月	一九、三九七、八五七	五三、八四三	五三、五六八	〇・三	

贅澤稅品輸入高ト稅額ニ相違アルハ犯則品ヲ含ムニシテ

自大正十年至大正十二年 釐澤稅法實施前三箇年輸入平均高表

稅務番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三一	蔬菜果實及核子	斤	六三、一四五	二〇、一三七	七〇、六三八	小包及旗長ノ合々
三二	茶	斤	三〇、四一四	三〇、四一四	三、八一三	同
四四	蜂	同	三、七六七	六、一四二	二、七七七	同
九一	真	同	七、五六〇	三、四〇六	一、七〇九	同
九四	皮毛骨角齒牙甲殼類製品	同	一九、四七八	一、九四七	七、七四三	同
一一七	石	斤	六、七四一	一、七六二	二、三七五	同
一二六	甘	同	九、四四二	四、七七二	四、五二五	同
一二七	丁	同	九、五七八	五、四八七	三、九八一	同
一二八	沈	同	七、六七	一、五五五	七、三一八	同
一二九	白	同	一九〇、一一四	二、九八六	一、一二五	同
二〇五	龍腦艾片及人造龍腦	同	五〇二	七、六一一	四、九五二	同
二二三	線	同	八三、四七三	一、二、三六九	四、九五二	同
二三四	煙	同	五五、六八三	二、二〇五	七、一一四	同
三〇三	絹織物及別號ニ掲ケサル掛入織物 一天會、フラス、シ、其他ノ、イ ム織物	同	四、四二一	七、九八四	二、一三〇	同
三五五	稅其他ノ履物	同	一三、七四四	一、五一〇	四、四五五	同

稅務番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類、同 附屬品及其ノ部分品、一	同	七、五三五	三、七五二	三、七五二	同
三九二	書	同	一、五二七	一、四六五	一、四六五	同
四一四	石及石製品	同	五、八六〇	二、三三六	二、三三六	同
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器	同	二、二七八	八、五一五	八、五一五	同
六二六	木製品(別號ニ掲ケサルモノ)	同	一、七六四	二、六九一	二、六九一	同
	計	斤	二〇、五五五	一、〇〇一	二、八三三	

備考

- 一、本法指定品目中酒類ハ本島ニ於テハ專賣ニ屬スルヲ以テ除外セリ
- 二、陶磁器中勅令第一六九號ニ依リ除外セラレタルモノヲ除ク

大正十三年 自七月三十一日 釐澤稅品輸入高及稅額調

稅務番號	品名	單位	數量	價額	稅額	備考
三二	蔬菜果實及核子	斤	二七、二七七	二、七五八	二、七五八	
三三	茶	同	一、〇八〇	一、〇七三	一、〇七三	
四四	蜂	同	一、二一五	二、一〇〇	二、〇九六	
九一	真	同	八〇	四〇九	四〇八	

九四	皮毛骨角齒牙甲殼類製品	斤	二,四五七	二,四五七	二,四五七	二,四五七	
一一七	石	斤	二五	二五	二五	二五	
一三六	甘	同	四六八	四六八	四六八	四六八	
一三七	丁	同	三七九	三七九	三七九	三七九	
一三八	沈	同	一〇六六	一〇六六	一〇六六	一〇六六	
一三九	白	同	五,一一七	五,一一七	五,一一七	五,一一七	
二〇五	龍腦艾片及人造龍腦	同	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	
二二三	線	同	四,七六八	四,七六八	四,七六八	四,七六八	
二三四	煙	同	七,二〇〇	七,二〇〇	七,二〇〇	七,二〇〇	
三〇三	粗織物及別號ニ掲ケサル粗織物 一、天竺(ワラシ)其他(ハイ ル織物)	斤	二〇五	一,七八四	一,七八四	一,七八四	
三五五	靴 其他ノ履物	斤	五三一	五三一	五三一	五三一	
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類同附 屬品及其ノ部分品一	斤	二,三一〇	二,三一〇	二,三一〇	二,三一〇	
三九二	書	斤	二,五八一	二,五八一	二,五八一	二,五八一	
四一四	石 及 石 製 品	斤	一,三九八	一,三九八	一,三九八	一,三九八	
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器	斤	二,一九六	二,一九六	二,一九六	二,一九六	
六二六	木製品(別號ニ掲ケサルモノ)	斤	二,二一八	二,二一八	二,二一八	二,二一八	
	二、其 甲、花梨木、鐵刀木 其他ノ諸品	斤	一四,七三五	一四,七三五	一四,七三五	一四,七三五	
計			八〇,〇四八	八〇,〇四八	八〇,〇四八	八〇,〇四八	

大正十四年資澤品輸入高調

三二	蔬菜、果實及核子	斤	三,八六五	四九,六五一	四九,六五一	四九,六五一	
四四	蜂 蜜	同	二,七四九	二,三一四	二,三一四	二,三一四	
九一	真 珠	斤	一〇三	五八二	五八二	五八二	
九四	皮毛、骨角、齒牙甲殼類製 品	斤	七,七六一	七,七六一	七,七六一	七,七六一	
一一七	石	斤	一七一	一七一	一七一	一七一	
一三六	甘	同	三,八八五	三,八八五	三,八八五	三,八八五	
一三七	丁	同	五七八	二八八	二八八	二八八	
一三八	沈	同	二,五八六	四,〇六九	四,〇六九	四,〇六九	
一三九	白	同	一八,二〇一	四,九七五	四,九七五	四,九七五	
二〇五	龍腦艾片及人造龍腦	同	六六	三七四	三七四	三七四	
二二三	線	同	五,六八六	一,五七九	一,五七九	一,五七九	
二三四	煙	同	一〇,七八一	四,一五八	四,一五八	四,一五八	
三〇三	一、天 織 絨物	同	三七九	四,八三九	四,八三九	四,八三九	
同	三、其他ノ絹織物	同					
計			八〇,〇四八	八〇,〇四八	八〇,〇四八	八〇,〇四八	

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
三五五	靴、其ノ他ノ履物		三七八	三七四・二八	
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類		五六九	五六八・六〇	
三九二	書		二、〇一五	二、〇一・二四	
四一四	石及石製品		一、九一二	一、九〇三・七五	
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器		一、四六九	一、四六一・八九	
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ 其ノ他ノ諸品	三、〇二五	二、二六四	二、二五五・〇〇	
計			一三二、一七五	一三〇、九五〇・八九	

大正十五年贅澤品輸入高調(昭和元年ヲ含ム)

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
三一	蔬菜、果實及核子		四二、〇六四	四一、九八四・九二	
三二	茶		一九八	一九九・三五	
四四	蜂		七、六六六	一、二五七	
九一	眞珠		一〇八	四六七	
九四	皮毛、骨角、齒牙、甲殼類製		六、六〇二	六、五六六・八九	
一一七	石		一六	一六・二九	
一三八	沈香		四、八九三	六、四四八	
一三九	白檀		一、四六七	四〇三	
計			四二、〇六四	四一、九八四・九二	

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
二〇五	龍腦、艾片及人造龍腦		四九	二七四	二七三・六〇
二二三	線		八、二四五	一、九〇三	一、九〇一・七八
二三四	煙		二一、三七二	六、五六四	六、五六四・〇〇
三〇三	絹織物		九三一	七、五二五	七、五〇四・四三
同	天織物			九三九	九三七・八五
三五五	靴、其ノ他ノ履物		一、一三〇	一、一六五・二	
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類		二、二九三	二、二八九・二二	
三九二	書		三、五一四	三、五一・六六	
四一四	石及石製品		一四、三七五	一四、二七〇・五〇	
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器		三、八〇一	三、七九四・二五	
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ 其ノ他ノ諸品	四、九〇一	五二、八八八	五一、四七八・一〇	
計			一五二、六六一	一五〇、九九四・〇四	

昭和二年贅澤品輸入高調

稅表番號	品名	數量	價額	稅額	備考
三一	蔬菜、果實及核子		四二、一三六	四二、〇九五・一九	
三二	茶		三〇四	三七五・七六	
四四	蜂		九、九八八	一、三六〇・二〇	
計			一三六、四二八	一三三、七九一・一五	

九一	眞珠	斤	一四三	五〇五	五〇三〇五
九四	皮毛、骨角、齒牙、甲殼類製	斤	一八九	五九五六	五九二九二
一一七	石	斤	一三八	一三八	一三七一一
一三八	沈	同	二、九七四	四、七四四	四、七六〇三五
一三九	白	同	六八〇	一九五	一九四二四
二〇五	純廣艾片及人造龍腦	同	五八八	一七九四	一、七九四〇三
二二三	線	同	四、五七七	一、三〇〇	一、三〇〇七六
二三四	煙	同	九、二六六	二、五三一	二、五三〇九二
三〇三	絹織物 一、天蠶絨 二、天蠶絨ノ外ニ其ノ他ノ絹織物	同	一	二二	二二八二
同	三、其ノ他ノ絹織物	同	八二六	七、二一三	七、三〇一六九
三五五	靴、其ノ他ノ履物	同		二、二二一	二、〇九〇一八
三六〇	別號ニ掲ケサル衣類	一		一、五三六	一、五三二四九
三九二	書	畫		一、〇五〇	一、〇四五三
四一四	石及石製品	品		一、八〇九	一、七九九八〇
四三九	別號ニ掲ケサル陶磁器	品		一〇、五〇九	一〇、四九一三〇
六二六	木製品別號ニ掲ケサルモノ 其ノ他ノ品	甲	二、四二六	一、七四五	一、七三二〇四
計	其他諸品	斤		六九、四六九	六八、四二二三七
				一五六、五三九	一五五、三一八九七

一一六

諮問第三

横濱税關長答申

昭和三年横濱港貿易豫想額

本年一月乃至四月ノ當港貿易額ハ輸出二億二千三十二萬圓、輸入二億一千八百十四萬六千圓、合計四億三千八百四十六萬六千圓ニシテ差引出超額二百七十七萬四千圓ナリ。而シテ之ヲ前年同期ニ對比スレハ輸出六百二十二萬三千圓(三分増)、輸入七百七十萬六千圓(四分増)、合計千三百九十二萬九千圓(三分増)ノ各増進ニシテ極メテ順調ノ狀勢ヲ示セルカ出超額ニ於テハ百四十八萬三千圓(四割餘減)ノ減少ナリ。

次ニ五月以降ニ於ケル當港貿易額ノ豫想ヲ試ムルニ本年ハ前年ニ於ケル財界「バニツク」ノ後ヲ享ケシト雖大體ニ於テ之カ整理モ了リ一般經濟界ノ基礎ハ堅實トナリ且ツ金利ノ低落ハ諸般ノ經營ニ便ニシテ産業ノ發展、工業ノ勃興等著ヤトシテ躍動ノ氣運ニ在リ、殊ニ今秋ハ御即位ノ御大典ヲ舉行サルル最モ慶賀スヘキ年柄ニモアレハ一般ノ人氣好轉ヲ期待スルモノアルハ否ム可カラサル所ニシテ又同時期ニ於テ米國大統領ノ選舉モ行ハルヘク而シテ之カ成行ハ徒ニ樂觀ヲ許ササルモ昨秋ハ彼地農家ノ收入多カリシ爲メ勢ヒ購買力ノ旺盛ナルハ論ヲ俟タス。

加之彼ノ抑制政策モ稍々緩漫ノ風聲アリテ對外爲替ノ安定ト共ニ我カ輸出貿易ヲ助長セシムルノ好材續々タリ、其他歐洲財界ノ恢復南洋方面ニ於ケル我輸出品販路ノ擴張等夫々有利ニ展開サレ而シテ又輸入貿易ニ在リテモ釐澤稅一部ノ低下並ニ鐵、木材等ノ關稅引上問題ニ動カサレテ之等ノ輸入ヲ促進セシムヘキニヨリ、五月以降ノ當港對外貿易ハ輸出入共ニ順調ニ誘引セラルルモノト觀察セラル。只支那南北戰爭竝ニ濟南事件ハ遺憾ナカラ對支貿易上ニ相當打撃トナルヘキモ之トテモ恐ラクハ一時的現象ニ過キサルモノト信スルカ故ニ結局五月乃至十二月ノ貿易額ハ

輸 出	五億六千二百萬圓
輸 入	四億一千百萬圓
合 計	九億七千三百萬圓

ニ達スヘキ豫想ニシテ之カ年計ハ

輸 出	七億八千二百三十二萬圓
輸 入	六億二千九百十四萬六千圓
合 計	十四億一千百四十六萬六千圓
出 超	一億五千三百七十七萬四千圓

ノ見込ナリ

別表參照

而シテ、之カ内容ニ付少シク説明ヲ加フレハ大略左ノ如シ

輸 出

小麦粉 本年一月乃至四月ノ輸出額ハ三百五十七萬五千圓ニシテ前年同期ニ比シ二百十九萬二千圓(約一・六倍)ノ躍進ナリ。是北支方面ヲ中心トシテ滿洲、關東州ニ於ケル需要激増ト上海粉ノ操業意、如クナラサリシニ因ル。濟南事件ノ突發ハ本品向後ノ貿易ニ對カラサル打撃ナラシモ元來支那ノ騷亂及ヒ日貨排斥ハ殆ト年中行事ニシテ一時之カ爲メニ貿易上ノ支障トナレト明カナルモ大風一過スレハ却テ需要激増スルノ例ニシテ旁「セカゴ」小麦ノ激減ヨリ外麥ノ昂騰ヲ報セラレ一般ノ人氣ヲ強硬ナラシメ專ラ内地粉界ニ刺戟ヲ與ヘツクアレハ五月以降ニ於ケル輸出額ハ少クモ前年同期ノ一割二分増七百五十萬圓ヲ降ラサルヘシ

精糖 一月乃至四月ノ輸出額ハ四百五十八萬二千圓ニシテ前年同期ニ比レ七割九分餘ノ増進ヲ示セリ。本品ハ主トシテ支那ヲ顧客トスル關係上支那政爭問題ヨリ延イテ濟南事件ノ紛糾ハ相當我ニ惡影響ヲ醸ス愛ロアムモ從來當港ヨリノ輸出精糖ハ明治、大正、鹽水港製糖ノ三社ノ製品ニ過キサリシカ四月以降ニ於テ新ニ大日本製糖會社ヨリ多量ノ輸出ヲ企テラレ其ノ活躍振リハ極メテ顯著ナラフ以テ五月以降本品ノ輸出額ハ前記四社ヲ合シテ少クモ六百五十萬圓ヲ示シ年額ニ於テ前年ノ二割三分増即千八百八萬餘圓ノ見込ナリ

蠶繭詰 一月乃至四月ノ輸出額ハ四百三十四萬七千圓ニシテ前年同期ニ比シ倍増ノ趨勢ニ在リ。本品ハ累年漸増ノ状態ニアリ而シテ之カ原因ハ主トシテ工船ノ改良、海外販路ノ擴張ニ努力セル結果ニ外ナラスト雖モ逐年之カ需要ノ旺盛ナルモ見込難キ所ナリ

本品ハ米國ヲ第一顧客トスルニヨリ彼地財界ノ潤澤ナル現況ヨリ推シテ五月以降ハ最少限度ニ見積ルモ千二百萬圓ニ達シ結局本年ハ前年ニ比シ二百萬圓ノ増進ヲ示スヘシ

屠絲 一月乃至四月ノ輸出額ハ百七十六萬九千圓ニシテ前年ニ比シ百六萬餘圓(三割七分減)ノ減退ナリ之レ生絲ノ低落ニヨリ久シク歐洲方面ヨリノ買氣出動セサルト地遣トシテ使用サレル爲メニシテ最近ハ一層不味ノ状態

ニ在リ要スルニ本品ノ輸出額ハ前年ニ比シ五分減ノ六百七十六萬九千圓内外ナリヘシ

生絲 一月乃至四月ノ輸出數量ハ十二萬二千二百八十三擔、價額一億六千三百六十八萬五千圓ニシテ之ヲ前年同
期ニ比較シ數量七千九十三擔(六分増)ノ増進ヲ示シ累年漸増ノ活況ヲ示セ、モ前年末以來絲價望外ノ低下ヲ
告ケタルヲ以テ之カ價額ハ數量ノ増加シシニ拘ラズ却テ四百五十九萬四千餘圓(二分減)ノ減退ヲ示セリ

謂フ迄モナク本品ハ我カ國輸出貿易ノ白眉ニシテ從テ當港輸出貿易ノ常長ハ一ニ懸テ本品ノ推移ニ支配サ、而
シテ之カ輸出額ノ豫想ヲ試スルハ最重要事ニシテ從テ本邦輸出貿易ノ大勢ヲ決ス、モナリ

今本品最近ノ輸出貿易ノ消長ヲ觀ルニ前年内地財界ノ恐慌以來絲價ハ一路低落、一途ヲ過リ年末千三百圓臺割
ヲ演シ爲ニ二圓ニ涉リテ帝露ノ共同保管及ヒ製絲ノ操業短縮トナリ、且此間日銀利下テ、對米爲替ノ激落等相次
テ起リ多事多端ナリシカ本年ニ入り對米爲替モ漸ク追ヒテ昂騰引締模樣トナリ四十七弗八分ノ七見當ニ落付キ
旁々海外ノ消費依然トシテ旺盛ナリシカハ本年一月乃至四月ノ輸出數量ハ前記ノ如ク顯進ヲ示シ、而シテ
絲價ハ現況ヨリ觀テ他ノ何レノ商品ニ比スルモ餘リニ低價ニシテ内地蠶業ノ採算上不利ノ感アルモ之カ生産ハ
一層多量ナル可ク豫想セラレルニ拘ラズ之カ消費ハ内地、歐州共ニ何レモ急増ヲ期待シ難ク只幸ニ之カ第一類
客タル米國ニ於テハ絲價ノ低廉ヨリ織物界及莫大小界ニ一段ノ需要ヲ喚起シ加フルニ彼地農家ノ收入増加カ因
ヲ爲シ之カ消費ハ意外ニ良好ナルノ情勢ナレハ五月以降ニ於ケル本品ノ輸出數量ハ恐ラク三十萬擔ノ下ヲサ
ヘク、而シテ内地市場ノ絲價ハ多少ノ強氣含ミヲ唱ヘツルニカ故ニ一擔ノ輸出平均價ハ千四百五十圓ノ見レハ
今後ノ輸出額ハ四億三千五百萬圓ニ達スヘク本年ヲ通算スレハ數量四十二萬一千二百八十三擔價額五億九千八
百六十八萬五千圓トナリ前年ニ比レ約百分ノ二ノ増額トナルヘシ

絹織物 一月乃至四月ノ輸出額ハ千六百五十一萬三千圓ニシテ前年同期ニ比シ二百八十一萬四千圓(二分増)
ノ増進ヲ示セリ之カ原因ハ前年來ノ絲價安ニ伴フ本品相場ノ低落ニヨリ海外筋ノ買氣ヲ喚起シタルニ因ル可
ト雖當港本品ノ輸出貿易ハ最近著シク進展ヲ示シ就中羽二重、縮緬等ノ賣行一層良好ナルヲ以テ五月以降ノ輸
出額ハ前年同期ノ二割増四千百萬圓ノ見込ナリ

其他 前記以外ノ品目ニ付テハ一月乃至四月ハ二千五百八十四萬九千圓ノ輸出額ヲ示シ前年同期ニ比シ二百五十
二萬七千圓(二割一分増)ノ増進ニシテ對支貿易上ハ今後多少ノ障礙ヲ豫想シ得ラレサルニ非ルモ右障礙モ大勢
ニハ差シタル影響ナカクヘキヲ以テ五月以降ハ前年同期ト大同小異ニ終ルヘク結局前年ノ三分増即チ八千八
四萬九千圓ヲ示スヘシ

以上ヲ要スルニ本年當港輸出額ハ前年ノ七億四千九百萬圓ヨリ四分増即七億八千二百三十二萬圓ノ豫想ナリ。

輸 入

ト雖當港本品ノ輸出貿易ハ最近著シク進展ヲ示シ就中羽二重、縮緬等ノ賣行一層良好ナルヲ以テ五月以降ノ輸
出額ハ前年同期ノ二割増四千百萬圓ノ見込ナリ

其他 前記以外ノ品目ニ付テハ一月乃至四月ハ二千五百八十四萬九千圓ノ輸出額ヲ示シ前年同期ニ比シ二百五十
二萬七千圓(二割一分増)ノ増進ニシテ對支貿易上ハ今後多少ノ障礙ヲ豫想シ得ラレサルニ非ルモ右障礙モ大勢
ニハ差シタル影響ナカクヘキヲ以テ五月以降ハ前年同期ト大同小異ニ終ルヘク結局前年ノ三分増即チ八千八
四萬九千圓ヲ示スヘシ

以上ヲ要スルニ本年當港輸出額ハ前年ノ七億四千九百萬圓ヨリ四分増即七億八千二百三十二萬圓ノ豫想ナリ。

米 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百六十五萬四千圓ニシテ前年同期ニ比シ五百三十八萬三千圓(五割四分減)ノ減退
ナリ之レ前年内地米作豫想外ノ大豐作ニ伴フ米價騰落防止策トシテ政府ノ買上及ヒ外来輸入制限ヲ斷行シタル
ニ因ルモノニシテ從テ五月以降ニ於ケル本品ノ輸入額ハ前年同期ニ比シ相當ノ減退ハ免レサキヘキヲ以テ本年
ハ前年ニ比シ二割九分減千四百六十五萬圓程度ナルヘシ

小麦 一月乃至四月ノ輸入額ハ千五百二十九萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ七百五十八萬八千圓(九割九分増)ノ
激増ヲ示セリ這ハ前年輸入手控ノ反動ト本年輸出製粉ノ活況トニ因ルモノニシテ五月以降製粉界モ亦相當活況
ヲ呈スヘキハ豫想シ得ラレトコロナルヲ以テ之カ原料タル本品ノ輸入ハ少クモ五月以後ニ於テ三千五百萬圓
ヲ示スヘシ

大豆 一月乃至四月ノ輸入額ハ五百五十八萬圓ニシテ前年同期ニ比シ四十七萬圓(九分増)ノ増進ヲ示セリ本品ノ
需要ハ殆ント固定シ居ルモノノ如ク年々急激ナル増減ヲ示サズ從テ五月以降ハ六百五十萬圓ノ見込ナリ。

砂糖 一月乃至四月ノ輸入額ハ千四十七萬九千圓ニシテ前年同期ニ比シ二百六十八萬圓(二割減)ノ減退ヲ示セリ

本品ハ前年来市況不味ニシテ沈衰ノ状態ニ在ルモ當港精糖ノ輸出ハ著シキ激増ヲ示セルヲ以テ之カ原料糖ノ輸入モ相當増加ノ見込ナリ即五月以降ノ輸入額ハ二千五百萬圓見當トス

硫安 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百二十二萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ二十七萬四千圓(六分減)ノ減退ヲ示セリト雖桑棉増殖ノタメ需要旺盛ナリニヨリ五月以降ニ於テハ前年同期ノ二割増千百萬圓ノ輸入額ヲ見ヘレ之カ原因ハ主トシテ前年作物ノ不良ニヨリ値段ノ暴騰ヲ來シ買付ノ遅延セルコト及内地紡績ノ投業短縮等ニ因ル可シト雖綿絲ノ輸出カ支那政狀ノ混亂セルニ不拘銀高ニヨル購買力ノ増進ヲ見込ミ前年ノ如ク惡化セリルヘク從テ五月以降ハ前年同期ノ五六分増三千四百萬圓ノ見込ナリ

羊毛 久シク不況裡ニ沈淪シタル内地モスリシ界ハ前年来需給状態著シク好轉シ之カ原料タル本品ノ輸入ハ一月乃至四月ニ於テ實ニ千五百五十八萬五千圓ノ巨額ニ達シ前年同期ニ比シ六百四十九萬三千圓(七割一分増)ノ躍進ヲ示セル本品ハ最近内地ニモスリシ各製造會社ニ於テ厚地毛織物ノ生産ニ力ヲ注シ將來之ヲ以テ主力トナスヲ計リ難キ状態ニ在レハモスリシ生産高ノ多少ニヨリ原料輸入ノ多寡ヲ斷シ難ク本品需要ノ前途ハ頗ル洋毛織物 一月乃至四月ノ輸入額ハ前年同期ニ比較シ異常ノ躍進ヲ示スヘシ即三千五百萬圓ノ見込ナリ本品ハ羊毛、自動車等文化的必需品ノ漸増趨勢ニ隨伴シテ増加ノ見込ナレハ五月以降ノ輸入額ハ七百萬圓見當ナラン

鐵類 一月乃至四月ノ輸入額ハ千三百八十八萬八千圓ニシテ前年同期ニ比シ三百二十六萬六千圓(一割八分減)ノ減退ナリ之レ内地造船界ノ不況、復興用材ノ一段落、内地品ノ増産等諸種ノ原因ニヨル可ク從テ五月以降ニ於ケル輸入額ハ假令關稅引上ヲ企テラレ多少ノ見越輸入アリトスルモ前述ノ原因ニヨル本品需要ノ大勢ハ動カシ難ク前年同期ノ約五分減二千六百五十萬圓ノ見込ナリ

木材 一月乃至四月ノ輸入額ハ千六百五十八萬一千圓ニシテ前年同期ニ比シ三百二十二萬四千圓(二割四分増)ノ増進ナリ

今復興途上ニ於ケル都市家屋建築ノ傾向ヲ觀ニ震災前ノ夫レト比較シ形骸全ク一變セリノ感アリ之カ爲メ内地産ノ短尺モノニ比シ米材ノ如キ長尺ニシテ且價格ノ低廉ナレモノヲ要求スルニ至リ特種ノ日本趣味ヲ尊重スルモノヲ除キテハ盡ク米材ノ供給ヲ仰クノ狀勢トナリ本品向後ノ輸入ハ益々旺盛ナル可ク旁外材一部ノ關稅引上問題ニ動カサレテ見越的輸入ノ企テラレンヤモ圖リ難ケレハ本品五月以降ノ輸入額ハ少クモ前年同期ノ一割五分増三千五百萬圓ノ見込ナリ

自動車及同部分品 一月乃至四月ノ輸入額ハ四百四十五萬七千圓ニシテ前年同期ニ比シ百四萬七千圓(三割一分増)ノ激増ヲ示セル本品ノ需要ハ都鄙ノ間ハ文化的交通施設トシテ最も利便多キハ論ヲ俟タズ年々増加ノ趨勢ニ在リ即五月以降ノ輸入額ハ一千萬圓ノ見込ナリ

油精 一月乃至四月ノ輸入額ハ千九百九十二萬二千圓ニシテ前年同期ニ比シ百七十二萬四千圓(二割三分減)ノ減退ヲ示セル之レ米價安ニヨリ農民ノ購買手控ニ因リ可シト雖本年ハ前年ニ於ケル諸肥品薄下地方筋ノ買氣大ニ動キラレハ五月以降ハ前年同期ノ一割七分増千九百萬圓ノ輸入額ヲ示スヘレ

其他 前掲以外ノ輸入額ハ本年一月乃至四月ニ於テ九千三百八十一萬一千圓ヲ示シ前年同期ニ比シ四百七十七萬一千圓(八分増)ノ増進ナリ

而シテ五月以降ニ於ケル消長ヲ窺フニ國勢ノ進展ニ伴フ貿易額ノ自然的増加ハ當然ノ理明ナレハ先ツ最少限度ニ見積ルモ前年同期ノ四分増一億七千五百萬圓ノ數字ヲ見ホナラン

要之本年當港輸入貿易ハ過去並ニ現狀ヨリ觀察シテ前年ノ五億七千四百八十二萬圓ニ對シ九分増即六億二千九百十四萬六千圓ト豫想サル

横濱港輸出入價額 (總括)

輸出入計	昭和二年			昭和三年			前年トノ増減割合
	自一月至十二月	自一月至五月	計	自一月至十二月	自一月至五月	計	
輸出額	二二四,〇九七	五三四,九二九	七四九,〇二六	二二〇,〇〇〇	五八〇,〇〇〇	七八二,〇〇〇	四
輸入額	二二〇,四四七	五三六,三三八	七五七,〇〇〇	二二八,一四六	四一〇,〇〇〇	六二九,一四六	九
出入計	三六,六五〇	八九,九二九	一九二,〇二六	九一,八五二	九七〇,〇〇〇	一九二,八五二	七

單位千圓

(イ) 輸出

品名	昭和二年			昭和三年			前年トノ増減割合
	自一月至十二月	自一月至五月	計	自一月至十二月	自一月至五月	計	
小麥	一,三八三	六,六七三	八,〇五五	三,五七五	七,五〇〇	一一,〇七五	三七
精糖	二,五五五	六,四七七	九,〇三二	四,五八二	六,五〇〇	一一,〇八二	二一
蠶絲	二,二二九	一,二二二	一,四一七	四,三三七	一,二〇〇	一八,三三七	一四
生絲	二,八三〇	四,一九九	七,〇二九	一,七六九	五,〇〇〇	六,七六九	五
絹織物	一,四〇九	二,九三〇	四,三三九	一,一八三	三,〇〇〇	四,一八三	二
其他	二二,〇九七	五三,九二九	七六,〇二六	二〇,五八四	五五,〇〇〇	七八,二三〇	四

單位千圓

(ロ) 輸入

品名	昭和二年			昭和三年			前年トノ増減割合
	自一月至十二月	自一月至五月	計	自一月至十二月	自一月至五月	計	
米	一〇,一三七	一〇,四三二	二〇,五六八	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,六五四	二九
大豆	七,七〇三	一八,五三七	二六,二四〇	一五,一九二	三五,〇〇〇	五〇,一九二	九
砂糖	八,一一〇	五,二六〇	一三,三七〇	五,五八〇	八,五〇〇	一三,〇八〇	一七
砂糖	一三,一五九	一四,〇四九	二七,二〇八	一〇,四七九	二五,〇〇〇	三五,四七九	三〇
破綿	四,四九九	八,七二六	一三,二二五	四,三三二	一,〇〇〇	一五,三三二	一五
綿	一三,〇三五	三二,〇三五	四五,〇〇〇	一九,〇一五	三〇,〇〇〇	五五,〇一五	二
羊毛	九,〇九二	一八,八三六	二七,九二八	一五,五八五	三五,〇〇〇	五〇,五八五	八
毛織物	三,二六二	五,五七〇	八,八三二	三,五七二	七,〇〇〇	一〇,五七二	二〇
鐵類	一六,八三四	二七,七八六	四四,六二〇	一三,八八八	二六,五〇〇	四〇,三八八	一〇
木材	一三,三五七	三〇,二六三	四三,六二〇	一六,五八一	三五,〇〇〇	五一,五八一	一八
自働車及同部分品	三,四二〇	八,二二三	一一,六四三	四,四九七	一〇,〇〇〇	一四,四九七	一四
油	二,八二六	一八,二九九	二一,一二五	二,〇九三	一九,〇〇〇	二一,〇九三	三
其他	八,九〇四	一八,八四一	二七,七四五	九,三八一	一七,〇〇〇	二六,八八一	四
計	二二〇,四四〇	三六,六五〇	五七九,〇九〇	二二八,一四六	四一〇,〇〇〇	六二九,一四六	九

單位千圓

一二四

一二五

(一) 輸出

昭和三年豫想額	六三七八六〇	昭和二年實蹟額	七〇五七二九	増減額	六七八六〇	増減歩合	〇・九六
---------	--------	---------	--------	-----	-------	------	------

右豫想額算出ノ基礎トシテ既往二ケ年及本年一月以降四月迄ノ輸出實蹟ヲ通觀スルトキハ

年 別	期 別	平均一ヶ月輸出額	全年輸出額ニ對スル各半期分ノ歩合
大正十五年 (昭和元年)	上半期	五六七五六	〇・四九九
	下半期	六三六一〇	〇・五〇〇
昭和二年	上半期	五八四一五	〇・四九六
	下半期	五九二〇五	〇・五〇三
昭和三年	上半期	五二七九三	
	下半期		

ニシテ前年七月以降各月ノ輸出額ハ大體ニ於テ五千七、八百萬圓臺ヲ維持シツツ來レルヲ以テ本年上半期ハ概シテ前年下半期以降本年四月迄ノ趨勢ヲ迎ルモノト見ルヲ得ヘキモ唯本年ニ入りテ各種織物類ノ輸出ニ幾分減退ノ傾向アルヲ以テ前年同期ニ比シ若干減少ヲ來

スヘク一方濟南事件ニ伴フ日貨排斥運動ノ蔓延如何ニ依リテ對支輸出ニ意外ノ頓挫ヲ來スナキヲ保セサルモ目下ノ情勢ニ於テハ格別悲觀ノ要ナカルヘキニ由リ本年上半期ノ豫想額ハ本年^{自一月至四月}平均一ヶ月實蹟額五千二百七十九萬三千六百八十圓ノ六倍三億一千六百七十六萬二千圓程度ヲ以テ大體見當ト爲スヘシ、而テ下半期ハ例年季節關係上上半期ニ比シ輸出増加ノ趨勢ヲ示スヲ以テ之ヲ見込ミ本年下半期ノ輸出豫想額ハ三億二千百十萬圓程度ト見ルヲ相當トスヘク一年ヲ通シ總額六億三千七百八十六萬二千圓ノ豫想ヲ得タリ尙前記豫想ヲ爲スニ當リ考慮ニ入レタル本年貿易上輸出ニ影響アル特殊事項ヲ察クレハ左ノ如シ

- A 爲替相場カ前年「モラトリアム」終了後ノ低落以來比較的安定シテ輸出ヲ好轉セシムヘキ傾向アルコト
- B 依然内地物價安ノ持續スルヲ以テ窮境打開ノ爲引續キ輸出促進ニ努力シツツアルコト
- C 當初對支貿易ニ反動的好況ヲ期待セシモ這回ノ出兵ニ依リ樂觀ヲ許ササルコト
- D 前年來印度方面ハ棉花不作ニ因リ稍購買力ヲ減退スヘキ傾向アルコト
- E 米、佛、獨ニ於ケル大統領選舉カ幾分輸出ニ影響アルヘキコト
- F 支那其ノ他東南洋方面ニ對スル大阪港直接輸出ノ傾向益々加ハリツツアルコト

神戸港輸出重要品本年豫想額表

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減歩合	増減事由
生糸	一六五四六七	一五七五八八	七、八七九	〇・五	引續ト安値場ヲ見込ムモノ多キ
生巾	三〇、九六〇	三七、六七八	六、七一八	〇・一八	原棉ノ割高、振興、印度不作ノタメ
綾木綿	二八、六九七	四七、八二八	一九、一三一	〇・四〇	同
富士絹	二六、六〇五	三三、二六九	六、六六四	〇・二〇	昨秋末ヨリ産地賣價強キタメ
縮絹	二一、二七六	二〇、二六三	一、〇一三	〇・五	流行盛ナル傾向アルタメ
羽二重	二〇、六四二	二三、一〇八	二、四六六	〇・一一	昨秋末ヨリ産地賣價強キタメ
メリヤス肌衣	一六、七六一	一六、二七三	四八八	〇・三	南洋各地ノ好況ヲ見越シタルタメ
ワッパ	八、六一二	八、一四八	四六四	〇・六	支那動亂ニ因リ本邦品ニ有利ナルタメ
帽	七、六〇一	七、三八〇	二二一	〇・三	爲替有利ナルタメ
綿フランネル	六、九九九	九、三三三	二、三三四	〇・二五	原棉ノ割高、振興、印度不作ノタメ
精製糖	六、八四五	六、二二三	六二二	〇・一〇	前年増産ノ反動増ノタメ
貝製鈕	六、五九二	七、〇九八	五〇六	〇・七	市價低値ノタメ
硝子製品	五、六九五	八、〇四〇	二、三四五	〇・二九	印度向不況ノタメ
綿織子	五、五二五	七、〇六五	一、四四〇	〇・二〇	昨秋末ヨリ産地賣價強キタメ
樟腦	五、二七三	九、二〇八	三、六八三	〇・四〇	原棉ノ割高、振興、印度不作ノタメ
		五、五四九	二七七	〇・五	人造樟腦輸出増加ノタメ

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減歩合	増減事由
ゴムタイヤ	四、九〇一	四、七五八	一四三	〇・三	原料ノ低値ト爲替有利ナルタメ
屑綿屑糸	四、八三六	四、五六七	二六九	〇・六	歐米方面ノ買氣強キタメ
小麦粉	四、五五八	三、五〇六	一、〇五二	〇・三	爲替有利ト原料高ノタメ
地氈	四、五〇九	四、九五七	四四八	〇・九	米價ニ於ケル關稅引上クノタメ
薄荷腦	四、四一六	三、九二六	四九〇	〇・一三	市價騰貴ノタメ
陶磁器	四、二九二	四、一三九	一五三	〇・四	爲替有利ナルタメ
寒天	四、〇二六	三、〇九七	九二九	〇・三〇	同
鷓鴣紙	三、九三〇	三、四一七	五一三	〇・一五	前年出減セシ反動増ノタメ
印刷紙	三、八二二	三、四八五	三四九	〇・一〇	内地生産過多ノタメ
綿織品	三、五二四	四、七六五	九五三	〇・二〇	内地ノ織短縮布ノ出増ニヨル
靴具	三、二二八	三、五九三	六九	〇・二	獨逸品ノ出増増加ノタメ
薄荷油	三、二一四	一、八三八	一、三九〇	〇・七六	市價騰貴ノタメ
除虫菊	三、一九〇	三、〇六一	一五三	〇・五	同
綿製浴巾	三、一六八	三、〇七三	九五	〇・三	爲替有利ナルタメ
絹織物	三、一三五	二、九八一	一五四	〇・五	南洋方面ノ買進ヲ見越シタルタメ
絹織物	二、六三六	四、三九四	一、七五八	〇・四	原棉ノ割高、振興、印度不作ノタメ
珪器	二、六三五	二、五一〇	一二五	〇・五	爲替有利ナルタメ
珪器	二、六三三	二、六八七	五四	〇・二	支那再度ノ動亂ノタメ

品名	昭和三年	昭和二年	大正十五年	備考
絹製手巾	二、五七〇	一、三五〇	〇・〇五	羽二重同一理由
真田(麥稈製)	二、四五六	六〇六	〇・一九	需要地ノ嗜好變遷ノタメ
真田(麻製)	二、二三七	一、四九一	〇・四〇	同
綿ブラシケット	二、二〇四	五、六七〇	〇・二一	原棉ノ割高控額ノタメ
清酒	二、〇三一	一、八四五	〇・二〇	今秋ノ御大典ヲ氣拂ヘタルタメ
昆布	二、〇一五	四、六六五	〇・三〇	天津滿洲方面ノ出増ヲ期待セシ
木蠟	一、六八五	八九	〇・〇五	産地出超減ヲ見越シタルタメ
貝柱	一、六五八	二七六	〇・二〇	前年出減セシ反動増ノタメ
マフチ軸木	一、二八五	六八	〇・〇五	支那動亂ノタメ
箱板	八二〇	二〇五	〇・二〇	名古屋方面ヨリ直接輸出スルモノ漸増スルタメ
柴子油	五七二	一、〇七八	〇・六五	前年來ノ反動減

自大正十五年一月當港輸出價額連月比較表
至昭和三年四月

區分	昭和三年	昭和二年	大正十五年
一月	四八、一二七	五五、〇六四	六二、五一四
二月	五三、四〇八	五一、三三三	五五四、〇四
三月	五九、〇四〇	五九、八五二	六五、二八二
四月	五〇、五九八	五五、三七六	五七、八五七
計	六三、七八六	七〇、五七二	六八、〇六八

(二) 輸入

昭和三三年豫想額	昭和二年實蹟額	増減額	増減歩合
八八七、四四五	九六六、一九二	七八、七四七	八・八一

右豫想額算出ノ基礎トシテ既往二ヶ年ノ各半期別及本年一月以降四月迄ノ輸入實蹟ヲ通觀スルニ當港ニ於ケル輸入ノ主位ヲ占ムル線綿ニ就テ全年ヲ通シ其ノ趨勢ヲ見ルヲ適當トスルヲ以テ暫ク之ヲ措キ

年別	大正十五年		平均一ヶ月輸入額	全年輸入額ニ對スル各半期分ノ歩合
	上半期	下半期		
昭和二年	上 半 期	下 半 期	五〇、六六五	〇・五四六
昭和三年	上 半 期	下 半 期	四二、〇七八	〇・四五四
	全 年		四三、九九一	〇・四七二

ニシテ本年上半年ハ格別四圍ノ事情ニ變化ナキ限リ大體本年一月ヨリ四月ニ至ル趨勢ヲ迎ルヘキ形勢ニ在ルヲ以テ本年上半年ノ豫想額ハ本年自一月平均一ヶ月實蹟額四千三百九十九萬一千六百一十一圓ノ六倍二億六千三百九十五萬圓程度ト爲スヘシ而テ本年下半年ハ前年ノ如キ財界ノ動搖ナキハ勿論御大典ヲ眼前ニ控ヘテ漸次好況ニ轉スヘキ氣運ヲ豫想セラル

ルヲ以テ其ノ豫想額ハ二億二千三百四萬三千圓程度ナルヘシ依テ兩期ヲ併算スレハ本年ノ
 繰綿ヲ除キタル輸入豫想額ハ四億八千六百九十九萬三千圓ニシテ之ニ繰綿ノ本年輸入豫想
 額四億四十五萬二千圓ヲ合計スレハ一年ヲ通シ總額八億八千七百四十四萬五千圓ノ豫想ヲ
 得タリ

尙前記豫想ヲ爲スニ當リ注意スヘキ内外財界ノ事情ヲ示セハ左ノ如シ

- A 「モラトリアム」終了後漸次財界安定セシト雖爾來預金ノ一流銀行ニ偏在スル傾向アリ中流以下商人ニ於テ金融難ヲ訴フルニ至リシコト
- B 内地農産物依然安値ニシテ一層購買力ヲ減退セルコト
- C 内地財界ノ不況ハ深酷ニシテ容易ニ立直リノ望ナキコト
- D 内地事業界不振ニシテ引續キ操短ヲ爲スモノ多キコト
- E 從來神戸港輸入ニ計上セラレシ貨物ニシテ荷捌ノ便宜上直接大阪港ニ於テ輸入スルモノ漸増ノ傾向ニ在ルコト

神戸港輸入重要品本年豫想額表

品目	昭和三年豫想額	昭和二年實績額	増減額	増減歩合	増減事由
生 絹	四〇〇、四五二	四五四、八八四	五四、四三二	〇・一三	前年度ヨリ持越多キト操短續行ノタメ
毛 織	三三、九九四	三八、七四三	五、七四九	〇・一七	前年ノ反動減
羊 毛	三一、五八六	二六、三二二	五、二六四	〇・一六	「トップ」減退ノ結果脂毛ニ増加スル傾アリ

生 絹	二四、五二九	二五、八二〇	一、二九一	〇・〇五	内地不景氣ノタメ
羅紗及セルヂス	一九、六〇八	一八、六七四	九三四	〇・〇五	下二期ノ人氣恢復ヲ氣構ヘタルタメ
硫酸アムモニア	一七、八五八	一四、八六五	二、九七三	〇・一六	農作物安値ノタメ本品ヲ多量ニ使用スル傾アリ
麻 類	一四、二六八	一三、五八九	六七九	〇・〇五	前年來入減ノ反動
砂 糖	一三、七六九	一四、四九四	七二五	〇・〇五	内地不況ノタメ
豆 類	一三、〇六二	一一、八七五	一一、八七	〇・一〇	産地安値ノタメ
小 麥	一一、九〇七	一四、三四一	一、四三四	〇・一〇	操短續行ト産地割高ノタメ
米 類	一一、六五四	二二、〇〇八	一〇、三五四	〇・四五	前年内地秋作ノ豊饒ナリシタメ
豆 糟	一一、七六四	一一、三三三	六一九	〇・〇五	農作物安値ノ爲メ施肥ニ節約ヲ加フル傾アリ
鐵 板 (非電鍍)	一一、二七九	一〇、七四二	五三七	〇・〇五	前年ノ反動増
紡 績 機	八、六八八	八、八六五	一七七	〇・〇二	人稱用ノ措置完了ノタメ
製紙用バルブ	七、二五四	七、六三六	三八二	〇・〇五	操短續行ノタメ
アニリン染料	六、一六九	五、二二八	九四一	〇・一五	前年ノ反動増
苛 性 曹 達	五、四四二	四、一八六	一二五六	〇・三〇	同
革 類	五、三九九	五、六八三	二八四	〇・〇五	内地不況ト製成品増産ノタメ
鳥 卵	五、〇四四	五、九三四	八九〇	〇・一五	爲替ノ不利ト内地産出増加ノタメ
バインフアト及シダー	四、八八七	四、九九七	一一〇	〇・〇二	内地不景氣ノタメ
アルミニウム塊	四、八六三	三、二四二	一、六二一	〇・五〇	本國相場安値ノタメ
鉛 塊	四、六五〇	五、八一三	一、一六三	〇・二〇	内地不景氣ノタメ

錫	棉	包	銑	曹	羊	貝	菜	硝	揮	牛	軸	亞	智	石	漆	條	紙
塊	子	裝	鐵	達	毛	子	子	子	發	肉	木	鉛	利	炭	炭	紙	紙
塊	精	用	鐵	灰	(トッ)	精	精	共	油	(生)	材	塊	石	炭	紙	紙	
一、三一二	一、三八八	一、四〇八	一、五九五	一、六〇〇	一、六二八	一、六四六	一、七二〇	一、九五四	二、〇九二	二、六五四	二、八四一	二、九三四	二、九八〇	三、〇四一	三、一八一	三、八一四	四、三七〇
一、四五八	一、四六一	二、三四六	一、三二九	二、六六七	五、五〇九	一、六六三	一、八一〇	二、〇一四	四、四二〇	三、一四六	二、九九一	二、六六七	三、七二五	三、二〇一	三、二四六	四、〇一五	四、二四三
一、四六	七三	九三八	二六六	一、〇六七	三、八八一	一六	九〇	六〇	四二	一、七六六	四七二	二六七	七四五	一六〇	六五	二〇一	一七
〇・一〇	〇・〇五	〇・四〇	〇・二〇	〇・四〇	〇・七一	〇・〇一	〇・〇五	〇・〇三	〇・四〇	〇・一五	〇・〇五	〇・一〇	〇・二〇	〇・〇五	〇・〇二	〇・〇五	〇・〇三
内地不景氣ノタメ	柔子精ト同一理由	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動増	前年ノ反動減	水品製造機増設ノタメ	相場低落ノタメ	農作物ノ安値ト支那不作ノタメ	同	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動減	内地不景氣ノタメ	前年ノ反動増	前年ノ反動減	同	内地不景氣ノタメ	和製品ノ出廻増加ヲ見越シタルニ	前年ノ反動増

一三四

自大正十五年一月至昭和三年四月當港輸入價額連月比較表

牛皮	水牛皮	鐵線(電鍍共)
一、二八三	一、九六九	七四〇
六八六	六八六	九二五
〇・三五	〇・二〇	〇・二〇
同	同	由和製品ノ出廻増加ヲ見越シタルニ

大阪税關長答申
大阪税關管内ノ本年ノ貿易豫想額ヲ各港別ニ表示スレハ左ノ如シ

區分	港別	本年ノ豫想額	前年ノ實蹟	増減(見込額)	右増減ニ歩合
大阪港	名古屋港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	四日市港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	武豊港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	敦賀港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	七尾港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	伏木港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	宮津港	八六、一八七	八三、〇七七	三、一八〇	三・七
	計	八八七、四四五	八六、一八七	二一、二五八	二・四
	大阪港	八八七、四四五	八六、一八七	二一、二五八	二・四
	計	八八七、四四五	八六、一八七	二一、二五八	二・四

一三五

(輸出) 綿織物

本品ノ主要仕向地タル支那ニ於テハ前年ノ買控ヘニ因リ品薄ト農作物ノ增收ニ因リ購買力ノ増進ハ相俟テ本品ニ對スル需要ヲ促シ、殊ニ加工綿布ニ至リテハ英國品ヲ壓倒シ着々其ノ販路ヲ蠶食シツツアレハ、同方面ニ對スル輸出ハ相當ノ増加ヲ期待セ得ヘク、其ノ他英領印度及蘭領印度方面ヘモ相當ノ出増ヲ期待セ得ヘキカ故ニ結局本品ハ約二割増ノ見込ナリ。

(輸出) メリヤス製品

本品ハ近年大量生産ノ爲其ノ價格低落セルノミナラス其ノ品質著シク向上シ海外販路ノ擴張ヲ見其ノ輸出ハ逐年増加ノ趨勢ニ在リ、殊ニ年初以來絲價ノ低落ニ伴フ製品相場ノ低落ハ海外筋ノ需要ヲ喚起シ、就中支那方面トノ間ニハ前年ノ買控ヘニ因リ在荷薄ノ爲商談著シク進捗シ、印度及英國方面ノ輸出モ亦極メテ應調ナレヲ以テ結局前年ニ比シ約三割見當ノ増加見込ナリ。

(輸入) 棉花

昨年ノ世界動亂ニ際シ紡績會社ハ操業短縮ヲ實行シ本年ニ入りテモ尙之ヲ繼續シツツアレカ、各社ニ於ケル繰取ノ増加ノ爲、本年ノ棉花消費量ハ大體前年ト大差ナカルヘキモ、價格ノ關係上其ノ輸入價額ニ於テハ約一割五分増加ノ見込ナリ。

(輸入) 羊毛

本品ノ輸入數量ハ前年ト大差ナキ見込ナルモ原毛相場ノ騰貴ノ爲結局本品ハ前年ニ比シ約二割増ノ豫想ナリ。

(輸入) 木材(パイン、ファア、シダー、ヘムロツク及スプールス)

本品ハ關稅引上見越ノ爲前年末ヨリ本年ニ入り相當多量ニ輸入セラレ市價ハ漸次軟氣配ヲ示シ市場ハ滞貨ニ苦シミツツアレヲ以テ本年下半年ノ輸入ハ相當減少スヘキモ、沿海州材ハ逐年輸入増加ノ傾向ニ在リテ五月以降ノ積取期ニハ相當量ノ輸入ヲ見ヘク、結局本品ハ前年ニ比シ約五分ノ増加見込ナリ。

一、名古屋港貿易豫想額内譯

區分	品名	本年ノ豫想額		前年ノ實績		見込減額	見込増額	増減見込事由
		千円	円	千円	円			
輸	麥酒	三、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	六〇〇	二〇〇	販路開拓ニ依テ支那及印度方面ノ需要著シク増加スヘキ見込ナルニ因ル
	綿織物	一四、五九九	一四、五九九	一四、五九九	一四、五九九	〇	〇	本品ハ英國印度及蘭領印度ヘノ輸出好望ヲ期待シ前年ト差異ナキ見込ナリ
	陶磁器	二〇、四〇一	二〇、四〇一	二〇、四〇一	二〇、四〇一	〇	〇	北東合衆國ニ於ケル木理品ノ販路ハ歐洲方面ヘノ輸出ハ漸次好望ヲ示シ前年ト差異ナキ見込ナリ
	時計計	一、九四〇	一、七六四	一、七六四	一、七六四	一七六	一〇	本品ノ出増ハ本年ニ入り支那方面ヨリ續續注文到來シ應該調製ナルニ因ル
	木材	四三二〇	三、八二八	三、八二八	三、八二八	三八二	一〇	本品ノ出増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
	其他ノ諸品	八三二七	八、三〇〇	八、三〇〇	八、三〇〇	二七	〇	本品ノ出増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
	計	五三、〇七七	五一、八九二	五一、八九二	五一、八九二	一、一八五	〇	本品ノ出増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
	米	三、一七一	七、九二八	七、九二八	七、九二八	四、七五七	六〇	本品ノ入増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
	小麥	六、一七五	五、一四六	五、一四六	五、一四六	一、〇二九	二〇	本品ノ入増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
	棉花	一〇、四一三	一一、五七一	一一、五七一	一一、五七一	一、一五八	一〇	本品ノ入増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル
羊毛	二七、六七三	一八、四四九	一八、四四九	一八、四四九	九、二二四	五〇	本品ノ入増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル	
石炭	六、一八一	五、一五一	五、一五一	五、一五一	一、〇三〇	二〇	本品ノ入増ハ内地ニ於ケル相場ノ低落ニ依リ外國ノ需要ヲ喚起シタルト木材輸出業者各名古屋港利用ニ努メツツアレノ傾向アルニ因ル	

品名	本年ノ豫想額	前年ノ実績	増減額	増減歩合	増減見込事由
木材	九、〇八五	一〇、〇九五	一、〇一〇	一〇・〇	本品ノ入減ハ開港引上ヲ豫想シ本年ニ入リ相當ノ想込輸入ヲ見込ムル内、地産ノ不足ノ爲今後ノ輸入ノ期待スヘカカラザレバ、本品ノ入減ハ農村ノ不況ト産地相場ノ昂騰ニ伴ヒ輸入ノ見込ナルニ因ル
油	五、六七二	七、〇九一	一、四一九	二〇・〇	本品ノ入減ハ農村ノ不況ト産地相場ノ昂騰ニ伴ヒ輸入ノ見込ナルニ因ル
其他ノ諸品	一五、三五三	一一、九五八	三、三九五	二八・〇	本品ノ入減ハ農村ノ不況ト産地相場ノ昂騰ニ伴ヒ輸入ノ見込ナルニ因ル
計	八三、七二三	七七、三八九	六、三三四	〇・八	

三、四日市港貿易豫想額内譯

品名	本年ノ豫想額	前年ノ実績	増減額	増減歩合	増減見込事由
陶磁器	五、八三八	四、一五〇	一、六八八	四〇・一	本品ノ出増ハ北米合衆國ニ於ケル旅行ノ好望ト前年方面ニ其ノ販路擴張セラレタ
其他ノ諸品	二、七八〇	二、〇六一	七一九	三三・五	本品ノ入減ハ農村ノ不況ト産地相場ノ昂騰ニ伴ヒ輸入ノ見込ナルニ因ル
計	八、六一八	六、二一一	二、四〇七	三九・九	
大豆	八四四	一、〇五五	二二一	二一・〇	本品ノ入減ハ品質優良ニシテ割安ナル北米大豆ノ輸入手控ヘラレテ見込ナルニ因ル
菜子及芥子	一、九三八	一、四九一	四四七	三〇・〇	本品ノ入増ハ産地相場ノ低昂ニ伴ヒ買付増加ノ見込ナルニ因ル
棉花	二〇、二二〇	二五、二七六	五、〇五六	二〇・〇	本品ノ入減ハ米穀・印棉ノ輸入減少ト之ニ代用セラレテ割安ナル支那棉ノ輸入増ナリ
胡麻子	七二六	一、〇三七	三一一	三〇・〇	本品ノ入減ハ産地ノ品高ト相場昂騰トノ爲本邦ヘノ出廻減退スル見込ナルニ因ル
豆糟	一、八五七	二、六五三	七九六	四〇・〇	本品ノ入減ハ農村ノ不況ト産地相場ノ昂騰ニ伴ヒ輸入ノ見込ナルニ因ル
其他ノ諸品	五、八九三	五、四一九	四七四	〇・九	
計	三一、四七八	三六、九三一	五、四五三	一五・五	

長崎税關長答申

一、當關ニ於ケル貿易ノ大勢ハ一ツニ對支貿易ノ盛衰ニ支配セララル所ナルカ今回ノ支那動亂乃至對支出兵カ我貿易上ニ及ホスヘキ影響ハ輕々シク豫斷スルコト能ハサルモ大體ニ於テ本年ノ貿易額ハ輸出二千五百三十萬圓、輸入四千五百五十萬圓、合計六千六百八十萬圓ノ見込ニシテ前年ニ比シ總額ニ於テ五百四十萬圓ノ減ナリ

品名	昭和三年(豫想)	昭和二年	比較
輸出額	二五、三〇〇	二二、三七〇	(+)
輸入額	四一、五〇〇	四八、五四四	(-)
合計	六六、八〇〇	七二、二四六	(-)

今年ノ輸出貿易ハ石炭及綿絲増出ノ爲メ昨年ヨリモ多少好轉スル見込ナリ

品名	昭和三年(豫想)	昭和二年
石炭	一九、〇〇〇	一七、三〇六
綿絲	一、四〇〇	九六九
水産物	一、〇〇〇	一、四一三

精糖	九〇〇	八四四
其他	三〇〇〇	三二七〇
計	二五三〇〇	二二七〇二

主ナル輸出品ニ就キ消長豫想ノ理由ヲ略記スレハ左ノ如シ

(一) 石炭 約千九百萬圓内外ノ見込

(理由) 管内石炭ノ約四割五分ヲ輸出スル上海市場ニハ目下濟南事件ニ絡マル日貨排斥ノ氣構ヘアリテ本品ニ就テモ最近五月以後積止メノ入電アリタル位ナルカ本品ハ日貨排斥ニ就テ鈍感ナルカ故ニコノ方面ヨリ出荷減ニ陥ルコトハ全然ナカルヘレ

次ニ内地炭界ハ目下貯炭ノ増加ニ惱マサレテ送炭調節率ヲ高メタル程ナルヲ以テ海外ニ活路ヲ求ムルニ至ルヘク現ニ崎戸炭、唐津炭、杵島炭ノ如キハ旺ニ輸出ニ努メツツアリ故ニ今年ハ結局約百五十三萬噸約千九百萬圓見當ニ達スル見込ナリ

(二) 綿織絲 約百四十萬圓見當ノ見込

(理由) 今日マテノ處今年ノ出荷ハ昨年ニ比シ著シク好轉シ居ルモ最近本品ノ最大市場タル香港ニ日貨排斥ノ氣構ヘホノ見ユルニ依リ向後ノ出荷ハ多少ノ打撃ヲ受クヘク從ツテ今年ノ輸出高ハ結局六千圓百四十萬圓見當ニ止マルヘシ

(三) 水産物 約百萬圓ノ見込

(理由) 支那各地及香港ニハ最近日貨排斥ノ氣構ヘアリテ上海ノ如キ既ニ五月中旬本品ノ積止メヲ通知越シ而シテ香港向ニ就テモ居留華商ハ警戒シテ買控ノ態度ニ出テツツアルカ故ニ今年ノ輸出ハ之ノ約百萬圓内外ノ豫想セハ大過ナカラシ

(四) 精糖 約八十五萬圓内外ノ見込

(理由) 最近上海方面ニハ日貨排斥ノ氣配アリテ本品ニ就テモ六月以降積止ノ入電アリタリ上海ノ現狀ヨリ推シ昨年同様六萬俵九十萬圓ト見ハ大過ナカラシカ

今年ノ輸入貿易ハ肥料棉花礮油鐵材機械類木材等カ昨年ニ比シ若干増加ノ見込ナルモ外米ノ輸入カ激減スヘキニ因リ結局輸入總額ハ昨年ノソレヨリモ約七百萬圓ノ劣勢ニ陥ルヘシ

品名	昭和三年(豫想)	昭和二年
外國米	四〇〇〇	一六一二四
豆類	二五〇〇	二六〇七
砂糖	八〇〇	一〇一四
肥料	一一〇〇〇	九一九六
棉花	八〇〇〇	七七二五
礮油	三三〇〇〇	二七〇八
鐵材	三三〇〇〇	一七二二
機械類	二二〇〇〇	九五五
木材	一一二〇〇	五五三
其他	六〇〇〇	五九六〇
計	四一五〇〇	四八五四四

主ナル輸入品ニ就キ消長豫想ノ理由ヲ略記スレハ左ノ如シ

(一) 外國米 約四百萬圓見當ノ見込

一四六

(理由)

昭和二年度ノ内地米作ハ全國的ニ觀レハ豐作ナリシモ九州及沖縄ハ凶作ニ陥リタリ從ツテ例年ナラハコノ不足額ノ大部分ヲ外國米ニテ補フ譯ナルモ今年ハ外國米輸入制限令存スル爲メ自然臺灣米ヲ以テ補填サレルニ至ルヘシ仍テ管内今年ノ輸入高モ約五十萬擔四百萬圓ヲ超ユルコトナカヘシ

(二) 豆類 約二百五十萬圓内外ノ見込

(理由)

管内輸入豆類ノ約八割近クハ大豆ナルカ昨年度内地大豆ノ不作尻ヲ受ケタル爲メ今年一月乃至四月間ニ於ケル大豆ノ輸入ハ頗ル旺盛ナルモ内地大豆作トノ關係上昨年同期ニ比シ若干劣勢ニ陥リヘク今年中ノ大豆輸入ハ約三十萬擔内外約二百萬圓ノ見込ナリ而シテ大豆以外ノ豆類ノ輸入額ハ昨年程度ノ五十萬圓ト見テ大差ナカレヘシ

(三) 砂糖 約八十萬圓ノ見込

(理由)

今年ハ臺灣糖増收ノ爲メ製糖工場ニ於テ輸入原料糖ノ消費ヲ手控ヘツツアルノミナラス二年末ニ於ケル輸入糖ノ在庫品モ約七萬擔存シタルカ故ニ對支輸出精糖約八萬擔ヲ製造スルニハ少量ノ輸入ニテ足ヲ譯ナリ仍テ今年ノ輸入ハ結局昨年ノ二割減即チ八十萬圓見當ト見レハ大過ナカレヘシ

(四) 肥料 約千百萬圓見當ノ見込

豆	粕	五、一〇〇千圓
粟	骨	二、五〇〇
菜	子	二、三〇〇
精	石	三、三〇〇
其	他	七、七〇〇
計		一、一、〇〇〇

(理由)

(1) 豆粕 今年ハ米價汚エサル爲メ農家ノ購買力減退セルニ拠テ、豆粕亦産地油房ノ操短ニ祟ラレ割高相場ヲ示シツツアルカ故ニ本年ノ輸入高ハ約二百二十萬玉、五百十萬圓見當ニ過キサルヘシ

(2) 獸骨 昨年ハ財界混亂ノ爲メ買付著シク手控ヘラレタルカ今年ハ事情除程改善ノ跡アルヲ以テ輸入モ舊態ニ復シ約五十萬擔約二百五十萬圓内外ニ達スル見込ナリ

(3) 菜子粕 昨年ハ内地ニ於ケル財界混亂ト産地支那ニ於ケル出廻リ澁滞トニ依リ輸入高激減シタルカ今年ハ産地ヨリ上海市場ヘ出廻リ潤滑トナリ且ツ内地肥料輸入商モ昨年ノ如キ手許不如意ニ陥ラスシテ若リニ買進ミツツアルカ故ニ今年ノ輸入高ハ一昨年程度ノ五十萬擔二百萬圓内外ニハ達シ得ル見込ナリ

(4) 燒磁石 本品ハ大日本人造肥料會社製工場ノ需要品ニシテ本年六月ヨリ三角港ニ於テ輸入開始ノ豫定ナルカ今後毎年約三萬噸宛輸入ノ計畫ナレモ今年ハ約一萬噸約三十三萬圓ノ輸入ニ止マラン

(五) 棉花 約八百萬圓内外ノ見込

(理由)

昨年ハ印度棉割高ナリシ關係上米棉需物ノ需要増加シタルカ今年ハ反對ニ米棉カ五百萬圓カフノ減收ニ祟ラレ割高トナレリツツ結果米棉需物ヲ乘テ印度棉若クハ支那棉ヲ需要スルニ至ルヘシ仍テ今年ノ輸入高ハ左ノ通り見込マハ敢テ大過ナカラン

米	棉	五〇〇、〇〇〇擔
印度	棉	九〇、〇〇〇擔
支那	棉	一〇、〇〇〇擔
全	計	一五〇、〇〇〇擔

約八、〇〇〇、〇〇〇圓

(六) 礦油 約三百萬圓ノ見込

一四七

輸出總計	其他諸品	綿織糸	麥酒	木糧	機械類	鐵類	麻類	果實類	真鍮黃銅	陶磁器	水産物	藥材類	紙類	織物類 (内門司)
一九九六二	四八七三	三九	一五九	四四	一〇九	一一七	二二九	二九二	三九六	三二二	六四三	五一四	一〇八七	一〇七七 (九四七)
一五五五八	三、四八九	二五三	一〇二	一一四	一一一	五二	一三五	二一〇	一七六	一九七	四八〇	四二二	七三六	一〇〇〇 (九〇五)
四、四〇四	一、三八四	二一四	五七	八〇	二〇	六六	九四	八二	二二〇	一一五	一六三	九二	三五二	七七 (四二)
〇、二八	〇、四〇	〇、八五	〇、五七	〇、六五	〇、〇二	〇、一三	〇、七〇	〇、三九	一一、二五	〇、五八	〇、三四	〇、二二	〇、四八	〇、〇八 (〇、〇五)
五七、八七六	一三、六九八	二五四	四〇二	五〇〇	五六一	五七七	七四六	九四六	一一、四六	一一、八〇	一九四三	二、二〇二	二、二三七	二、九七〇 (二、五四〇)
五〇、五一七	一一、五三七	五〇九	二六八	五〇二	七〇一	四八一	四九七	七二八	七六四	七八七	一、七一一	一、九一一	一、八六四	二、二九〇 (二、二九〇)
七三、五九	二、一六一	二五五	一三四	二	一四〇	九六	二四九	二一八	三八二	三九三	二二〇	二九一	三三三	三、四九 (一、五〇)
〇、一五	〇、一九	〇、五〇	〇、五〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、二〇	〇、五九	〇、三〇	〇、二五	〇、五〇	〇、一三	〇、一〇	〇、二〇	〇、〇七 (〇、〇七)

精糖 内地供給依然トシテ過剩見越ナルニ加ヘ輸出向ノ管内工場亦極力新販路ノ開拓ニ努メシ爲天津、大連、浦鹽方面ノ積出相當活況ヲ呈シツツアリ中支方面ハ排日運動懸念ノ爲一時積出ヲ中止シ居レルモ時局安定ノ上ハ引續キ商談回復ノ見込ナルヲ以テ門司積ハ前年ニ比スレハ二割内外増加ノ見込ナルモ若松積ハ同地明治製糖上浦分工場

製品ヲ支那市場ニ供給スヘキヲ以テ前年ト大差無カシヘク差引合計一割六七分ノ増加ニ止マルヘシ
セメント 實績ニ於テ既ニ六十九萬五千樽ノ輸出セシカ最近内地市況硬化後ト雖モ爲替關係ト從來ノ販路維持トノタメ月平均十五六萬樽ノ輸出ヲ見セヘク本年總計百九十九萬乃至二百萬樽ニ達スヘキ見込ナルカ故ニ一樽四圓内外トシテ本年輸出額約八百萬圓ノ豫想ナルモ支那方面ノ時局懸念ノタメ積出中止ノモノアリ結局七百五十萬圓内外ニ止マルヘシ

小麥粉 昨春鈴木商店破綻以來事業縮少中ナリシ當地日本製粉工場ハ其後三井物産ノ手ニ移リ北支那天津ヲ始メ南洋方面ノ新販路開拓ニ成功シ月平均四五萬袋ノ積出ヲ見ツツアリ最近排日運動ノ懸念無キニ非レモ未ダ著シキ影響ヲ見ス更ニ今後内地ノ不需期ヲ迎ヘテ月平均積出額七八萬袋本年總計八十萬袋ニ達スヘク前年ニ比レ約倍増ノ見込ナリ

石炭 仕向先支那方面ハ支那炭ノ出廻順調ニシテ殊ニ開平、淄川等ノ各炭坑ハ動亂見越ノ爲前年來多量ノ貯炭ヲ保有スルノミナラス最近出炭及賣込ヲ急キツツアル模様ニシテ門司港ノ如キ年初以來積出皆無ノ狀態ナリシカ更ニ軍事輸送ノ爲船復ノ不足運賃高トナリ今後モ相當不振ヲ續クル見込ナリ

綿織物 管内積出ノ多クハ下級綿布ニシテ近年支那品ニ壓倒セラレ逐年減少ノ傾向ニアレ其本年爲替ノ軟調ト原棉高ノ刺戟ヲ受テ幾分採算有利トナレル折柄支那政局ノ不安氣構ノ爲積出手控ノ模様アリ結局下關港分ヲ併セ合計二三百萬圓内外即チ前年ノ一割増程度ニ止マル見込ナリ

紙類 支那時局ノ北漸ト瑞典ノ紙業罷工ノ影響トニ依リ年初以來中支方面ノ需要ヲ増加シ輸出活況ヲ呈セシカ四月初メ同罷業ノ終熄シタルト不需期ニ向フト共ニ排日勃發ノ氣構船腹不足等ノモノ一時不勢ヲ呈スヘシ然ルニ本年富士製紙會社江別工場及其他合計十臺ノ抄紙機増設運轉並ニ京阪市場ノ供給依然潤澤ナルト爲替ノ下落トニ依リ今後ノ輸出ハ前年同期ト略大差ナカルヘク實績ヲ加ヘテ結局二割ヲ増加スヘシ

水産物 實績ニ於テ三割内外ヲ増加セルハ春來鮮魚ノ豐漁ナリシ結果ナルカ支那時局ノタメ輸出期ニ入レル鹽干魚ハ勢ヒ積出手控方針ヲ採ルヘク尙産地直送ニ依ルモノ漸ク増加スヘキヲ以テ今後ノ輸出ハ多キヲ期待シ難シ
陶磁器 實績ニ於テ既ニ前年ノ五割増ヲ示セルカ目下中部支那方面ノ時局不安ニ依リ代金回収難ク恐レ出荷中止ノ狀アルモノ南洋方面ハ前年輸入手控ノ折柄爲替相場ノ下落ニ刺戟セラレ商談活況ヲ呈シツツアリ支那ヲ除キテハ一般ニ市況良化セルヲメ今後モ引續キ相當好況ヲ續ク見込
眞鍮黃銅 印度方面ハ從來内地製銅業者ノ義務輸出カ著シク採算不利トナレルヲメ注文ヲ拒絶スルニ至リシモ本春來奉天兵器廠用棒材ノ大量注文ニヨリ前年ニ比シ約倍増シ本年中間方面ノミニ四百噸ノ輸出ヲ見ルヘク而シテ其他ヲ合セ門司積總計千二百噸ノ輸出トナリ前年ニ對シ五割ヲ増加スヘシ
麻袋 歐洲方面向滿洲大豆輸送旺盛ヲメ包装用トシテ既ニ九十萬枚即チ前年總額ノ過半ヲ輸出シ今後モ引續キ増進ノ見込ナリ
鐵類 支那方面工場向棒材ノ需要相當活況ヲ呈シ來リシカ今後ハ前年ト略大差ナカレヘシ
機械類 電氣機械ノ如キ内地需要相當良好ナルト支那時局不安見越フヲメ本年輸出ハ減少スヘシ
木蠟 實績ニ於テ前年同期ノ三分ノ一内外ニ過キリシモ歐洲方面植物油ノ好況ニ漸次商談進行ノ模様アリ輸出期ヲ迎ヘ爲替有利ノタメ今後少クモ前年同様五十萬圓ハ下ラサル見込
麥酒 内地生産過剩ノ對策トシテ極力輸出ニ努メツツアリ目下南支方面ハ動亂懸念ノタメ積出停止中ナルモ大連其他ハ漸次需要期ニ入ルト其ニ引續キ好勢ヲ示シツツアリ本年二萬乃至二萬五千兩ノ輸出ハ確實ナリト云フ
綿織系 本年引續キ操業短縮ノタメ生産減少セルノミナラス支那系ニ壓倒セラレテ逐年減少ノ傾向ニアリ最近内地織布用ノ消費ノ増加セト管内生産品市場向ノ大部ハ大阪方面ニテ處分セラレルモノ多キヲメ當地積出ハ今後益々激減ノ見込

輸入重要品見込額前年對照

(△印減)

品名	自一月至四月實績				全年見込			
	三二年	三二年	增減額	増減割合	三二年見込	二二年實績	增減額	増減割合
鐵類	四、七三三	六、二一七	一、四八三	○、二四	一一、六六八	一一、五四二	一、一二六	○、一〇
砂糖	五、六七七	九、三六九	三、六九二	○、四〇	一五、三一八	一七、七〇五	二、三八七	○、一〇
油類	二、三〇七	二、四一五	一〇八	○、四六	五、四〇〇	五、三一六	一、八四	○、〇二
小麥	二、一〇二	四、二七九	二、一七七	○、四七	七、二二三	一〇、〇二八	二、八〇五	○、三七
石炭	一、七五五	一、八四二	八七	○、〇五	八、八四七	五、六二二	三、二二五	○、五七
鐵礦	一、四九七	一、五九三	九六	○、〇六	六、六一〇	六、八二七	七二七	○、一〇
硫磺	八、七四〇	四、四一三	四、三二七	○、二二	一五、七四三	一一、二七四	四、四六九	○、三九
米	七、五五	三、九七九	三、五七一	一、二〇	一八、七八二	一五、〇一四	三、七六八	○、二五
生豆	八、四六	二、四六九	五、九九七	一、二〇	二二、九一五	二〇、〇五七	二、八五八	○、二八
豆類	二、六四四	一、五〇五	一、一三九	○、七五	四、五八八	四、五八八	〇	〇、五五
生油	二、六四四	一、五〇五	一、一三九	○、七五	二、四五六	二、七二七	二七一	○、一〇
及類	八、四六	八、五五	九	〇、〇一	二、四五六	二、七二七	二七一	○、一〇
木草	三、九三	五、九二	一、九九	○、三二	一、四五八	二、〇八三	六二五	○、三〇
煙草	七、七六	五、三四	二、四二	○、四二	二、四一四	一、六九四	七二〇	○、四二
木材	五、五五	三、七九	一、七六	○、四七	一、八九九	一、二六六	六三三	○、五〇
牛卵	二、七三	五、五三	二、八〇	○、五一	七、二二九	一、〇三六	三〇七	○、三〇
鳥卵	二、五五	三、六九	一、一四	○、三一	八、五八	一、〇〇九	一五一	○、一五

輸入總計	錫	鉛	鋅	銅	鐵	其他諸品	其他諸品
四八、六九〇	五〇、〇六八	一、三七八	〇、〇二一	一、〇八一	一、三二二	一、〇七四	二、六二二
三、七四八	二、五四三	一、二〇五	〇、四七	一、一七五	一、〇五八	一、〇二五	一、〇六五
(內若松)	(二、一三〇)	(一、二四三)	(〇、五八)	(一、〇二五)	(一、〇二五)	(一、〇二五)	(一、〇二五)
二六九	二六八	一	一、一〇〇	一、〇二二	一、〇二二	一、〇二二	七、八
三六三	五二四	一六二	〇、三二	一、〇〇二	一、二五二	二、五〇	〇、二〇
三六九	一〇七	二六二	二、四五	一、一三四	九〇七	二二七	〇、二五
二八五	二八六	一	六、一四	六八二	六八二	六八二	〇、一〇
四八、二二五	五、一七五	三、五〇	〇、〇六	一、〇八一	一、五二二	四、四二	〇、三〇

絲綿 當地輸入ノ上中國及九州一圓ノ紡績工場其他ニ振向ケラレタモ、年間四五萬噸内外ナリ而シテ各工場ハ普通五六ヶ月ノ原綿手持ノ常トスルモノナルカ本年引續キ捲業短縮ノヲメ原料手當ヲ縮少セルト相場高ニヨル買付手控ノ結果輸入期ノ過半ヲ過キテ入荷數量ハ前年ニ比シ三割五分(價額ハ二割四分)減ヲ呈セリ而シテ今後ハ輸入減退期ニ入ルト共ニ原綿相場高、爲替關係、支那時局等ノヲメ依然捲短縮ノ模樣ナメヲ以テ結局本年輸入數量ハ前年ノ二割乃至二割五分減ノ見込ナルカ價額ニ於テハ略前年ト大差無キ豫想

砂糖 本年臺灣産糖ノ激増ヲ移シ内地糖況不勢ノヲメ外國糖ノ輸入手控傾向アリ精糖輸出モ外糖安ト支那時局ノヲメ今後一般ニ悲觀ナレ居レタモ當地大日本製糖工場ハ輸出向精糖ノ製産ヲ主トシ一日ノ消費量三百五十噸内外ヲ續ケ居レタモ全年ノ輸入數量ニ於テハ略前年ト大差無ク百二十六萬餘擔ニ達スル見込ナレモ相場下落ノヲメ價額ハ相當減少ノ豫想

油糟 内地米及生糸其他農産物ノ價格下落ニヨル農村購買力ノ減少ト滿洲大豆ノ歐洲輸出旺盛ノヲメ大連油房ノ豆糟生産激減ニ伴フ相場高ト相俟テ制安ナル硫安、石灰、窒素等ヲ代用セルハ傾向ヲ加ヘ輸入最盛期ニ際シテモ見込ニキ活況無ク本年輸入ハ數量價額共激減ノ見込

小麦 當地輸入ハ全部製粉原料用ナルカ從來ノ生産制限モ近ク撤廢ノ模樣アリ最近三井物産會社ニ於テ日本製粉工場二千五百バールレヒノ經營ヲ引受ケ内外向共著シク製産ヲ増加スル見込ナルヲ以テ今後輸入ハ激増ノ豫想

石炭 本年引續キ送炭制限ヲ繼續セルニ拘ハラシ出炭貯蓄共前年ニ比シ著シク増加セル一面對支輸出減ニヨル内地供給ノ潤澤ト軍用船使用増加ニヨル船腹不足運賃高ノヲメ一般ニ輸入不振ノ見込ニシテ殊ニ德山港輸入ハ海軍用煉炭原料著減ノ見込ニシテ若松港輸入特殊炭ハ略前年同様ナルヲ以テ總額ニ於テ若干ノ減少ニ止ル豫想

鐵類 八幡製鐵所ニ於テ本年度ヨリ鋼材八十五萬噸ノ生産ヲ見込豫定ナルヲメ一般鋼材ノ輸入ハ減退スヘキモ、ワイヤロッド 其他品薄物ハ相場暴騰ノヲメ相當増加ノ傾向アリ 鐵錠ハ八幡製鐵所用及淺野製鐵所用ノ一定量ヲ主トスルモノ前年ト略大差無キ見込ナルカ德山港ニ於ケル薄鐵板用「シート」及八幡製鐵所用層鐵ハ原料使用増加ノヲメ大量輸入ヲ見込豫想ニシテ就中層鐵ハ本年十七萬噸使用ノ豫定中可及的廣汎ニ互リ購入ニ努ムル意圖ナルヲ以テ輸入モ從ツテ激増スヘク右特殊品ノヲメ管内鐵類輸入ハ激増スル見込

礦油 從來特別輸入ノ取扱ヲ受ケシ德山海軍燃料廠用重油カ一般輸入ニ編入セラレタモ、上本年同廠ニ於テ大量ノ補充輸入ヲ要スル見込ナルヲ以テ同港ノミニテ約一千三百萬圓ニ達スヘク原油ハ最近門司港附近ニ於テ「ライヂング」石油會社カ油槽ヲ新設シテ中國四國方面ノ需要ニ應ジタメ博多港輸入ノ一部カ門司港ニ振替ヘフヲ見込ナリ其他ハ品目改正ヲメ局部的ニ多少數字上ノ變動ヲ見込ヘキモ本年礦油輸入ノ増加見込ハ德山港關係ニ因ルモノナリ

硫酸 アムモニア 農村方面ノ豆糖需要減退ニ乘シ制安ナル本品ハ逐年販路ヲ開拓セツツアリ殊ニ本年前者ノ相場暴騰ニ比シ本品ノ値上リ程度輕微ナル爲益此ノ傾向ヲ助長シテ「アリア」一面電化工業、日本窒素、クロード窒素會社等ノ生産モ相當増加スヘク尙大日本人造肥料會社ニ於ケル硫安ノ使用減少スヘキヲ以テ輸入ハ多少ノ増加ニ止マレ

米及糧 前年ノ豐作尻ヲ受ケ市況著シク不勢ナルニ加ヘ政府ノ輸入制限策ハ爲替ノ不利ト相俟ツテ一層輸入ヲ減少

セシメ殊ニ當地ハ政府買上米穀置、タメ各倉庫共充實ノ姿ヲ見コト以テ本年輸入ハ激減ノ見込
 生護謨 英領馬來輸出制限撤廢聲明ニヨリ先安見越ノ爲日本是裝其他ノ護謨工場ハ一般ニ前年通ノ使用ニ止メ買付
 手控方針ヲ執レルコト以テ數量ニ大差ナキモ價額ノ幾分減少ノ見込

豆類 大豆ノ始メ滿洲方面作柄豫想ニ反シテ良好ナラリシ上歐州向輸送旺盛ニ伴フ相場昂騰見越ニ刺戟セラレ實
 績ニ於テ著増ヲ示セシモ出廻期ノ一過ト共ニ今後ノ輸入ハ相當減少スル見込ナレカ價額ニ於テハ増加スヘシ

機械類 電氣機械ハ八幡製鐵所電化設備ノ一段落後ハ一般工場ニ於ケル補充品ノ輸入ヲ見ル、ミニテ割安ナル内地
 品ノ普及ニ伴ヒ輸入減退ノ傾向アリ、紡績機械モ大日本紡織見島工場、明治紡績工場其他ニ於テ深夜業廢止ニ伴
 フ設備増加ノ終了ト共ニ之ノ輸入ハ今後減少スヘシ

鑛石 管内輸入ノ總額七八百萬圓、其他ノ額約二百萬圓ハ全部八幡製鐵所ノ原料用ニシテ、本年出賃高七十三萬噸ノ
 豫定ナルカ最近大治ノ貯額十八萬噸アリ、精出モ相當騰調ニ復シ今年中同地生産四十五萬噸ヲ又海峽殖民地産契約
 品五十七萬噸支那桃沖ヨリ二十五萬噸、計百二十七萬噸ヲ輸入ス、豫定ニシテ支那時局惡變セハ海峽殖民地ヨリ
 補充シ又滿鐵支那南洋產四萬噸、支那產三萬五千噸合計八萬五千噸ノ輸入見込ナルカ運賃其他ノ關係ニテ輸入價
 額ハ前年ヨリ相當増加ス、豫想

木材 門司及博多兩港輸入木材ノ大部分ハ米國材ニシテ、本年本國ノ生産過剩、太平洋方面ノ運賃安及近ノ北洋材積
 取期ノ切迫ヲ移レテ一般ニ市況不勢ナルモ當地ハ前年ニ比シ貯材減少シ一方建築費低落ノタメ住宅建築増進ノ傾
 アリ漸次出廻期ニ入リテ輸入ハ相當増加ノ見込

牛肉鳥卵 牛肉ハ天津、青島方面ノ時局不安ノタメ積取減少シ朝鮮牛ノ補充的移入ヲ見ユ、タメ又鳥卵ハ連年動亂ノ
 タメ支那卵ノ生産減少セル、ミニナノス内地卵ノ増産近海運賃ノ昂騰ト相俟ツテ輸入不引合ノタメ兩者共二三割減
 少ノ豫想

曹達灰 管内旭硝子及日本曹達工業兩社ノ年産合計四萬五千噸内外ニ上リ一面旭硝子ハ自家製品ヲ市場ニ供給ス、ト

共ニ硝子原料トシテハ割安ナル代用品芒硝ノ使用ヲ増加シツツアリ他方苛性曹達ノ賣行良好ノタメ同原料トシテ
 大日本人造肥料工場ノ使用増加ト相殺シ輸入ハ前年ト大差無ト見込

煙草 政府ノ委託生産ニ係ル關東州東亞煙草會社製「ゴールデンバット」ノ輸入毎年二百萬圓内外ナリシモ本年内地
 工場ニ於テ同品ノ増産ヲ實行スルニ至リシタメ輸入著減ノ見込

燐礦石 昨秋來過燐酸肥料ノ好況ヲ移シテ春來輸入激増セシモ漸次不需期ニ入ルト共ニ肥料聯合會ノ生産協定問題
 出現スル等各社共自發的ニ生産調節ヲ計ルニ至リ勢ヒ今後ノ輸入ハ幾分手控ヘラレテ檢核ナルカ全年總額ハ相當
 増加ノ見込

函館稅關長答申

當關管内各港ニ於ケル 本年ノ貿易豫想額ハ輸出二千六百十五萬圓、輸入二千五百二十萬
 圓合計五千三百三十五萬圓ニシテ前年ノ實績ニ比シ輸出ニ於テ五十萬二千圓ヲ輸入ニ於テ六
 萬一千圓ヲ減シ輸出超過額九十五萬圓トナリ前年ニ比シ四十四萬一千圓ノ減退ヲ見ルヘシ

輸 入	本年豫想額		前年實績		前々年實績		前年ニ比シ		前々年ニ比シ	
	額	比	額	比	額	比	比	比	比	
輸 入	二五二〇〇	二五二	二五二六二	二五二	二〇七三六	二〇七	六一	四四六	四四	
輸 出	二六、一五〇	二六、一	二七、五四〇	二七、五	四八、二七六	四八、二	五六三	三、〇七四	三、〇	
計	五一、三五〇	五一、三	五一、九一三	五一、九	六八、〇〇四	六八、〇	四四一	五、八五四	五、八	
出 入	九五〇	九、五	一、三九一	一、三	六、八〇四	六、八	四四一	五、八五四	五、八	

(單位千圓)

(一) 輸出

品名	全年		前年		本年	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年
大豆	六二〇〇	六七〇八	五〇八	三、四八三	一、三五八	一、二二五
豆	二、五〇〇	二、七六〇	二六〇	一、二一五	六〇一	六〇四
元布	一、三七〇	一、三四四	二六	二二八	一八六	四二
鷄	一、〇〇〇	八六六	一三四	二二二	二二六	二四
鹽	一、四〇〇	一、八三五	四三五	八〇	七〇〇	六二〇
其他ノ水産物	二、〇〇〇	一、九八一	一九	二一三	三三三	一一〇
罐詰食物	一、二〇〇	一、六〇〇	五〇一	一八六	一三一	五五
印刷紙	九〇〇	六四二	二五八	四四四	二〇〇	二四四
石炭	一、一五〇	八八四	二六六	五三七	三〇六	二三一
鐵道枕木	二〇〇	二二三	二三	一一二	一三五	二三
其他ノ木材	四九五〇	五、二八〇	三三〇	一、四八三	一、一八七	二九六
其他	三、三八〇	二、五二八	八五二	三二八	三八八	六〇
計	二六、一五〇	二六、六五二	五〇二	七、五二一	五、七六一	一、七六〇

豆類 昨年下半年期ニ於ケル異常ナル輸出増加ト本年産品ハ輸出検査ノ標準引上トノ爲前年ニ比シ下半年期ニ於テ激減ヲ見ルヘク爲ニ總額八百七十萬圓内外ニ止リ七十六七萬圓ノ減少ヲ豫想セラル

水産物 三陸航路ノ開始、香港航路ノ促進等ノ爲輸出増加ノ狀勢ニアルモ支那ノ動亂排貨等ニ鑑ミレハ増加ヲ期待

セラレス二十五六萬圓ヲ減シ五百七十萬圓見當ニ終ルナランカ

罐詰食物 青森港ニ於ケル生産減ノ爲百十萬圓内外ニ過キサルヘク約五十萬圓減少ノ見込

印刷紙 道内ノ増産ニ四割ヲ増加シ九十萬圓内外ノ輸出ヲ見ルヘシ

石炭 道内貯炭ハ漸増ノ趨勢ニアレテ百十五萬圓内外ノ輸出ヲ見二十六七萬圓ノ増加ヲ見ルヘシ

木材類 鐵道枕木ハ前年同様二十萬圓内外ノ見當ナルモ其他ノ木材類ハ四月迄ニ於テハ増加ヲ示セルモ支那關東州仕向ハ排貨、運賃高ト沿海州材ノ壓迫トヲ受ケ激減ヲ見ルヘキヲ以テ總額四百九十五萬圓内外ニ減退シ三十萬圓ノ減少ヲ見ルヘシ

其他ノ雜品 北樺太ニ於ケル油田、炭田及沿海州ニ於ケル伐木事業等ノ所要物資ノ増加主因トナリ八十五萬圓内外ヲ増加シ三百三十八萬圓ニ上ルヘキ見込

右ノ内豆類及其他ノ雜品ヲ除ク各品ハ支那ノ排貨ニ輸出ノ伸展ヲ阻害セラルルコト多大ナルモノアルヲ以テ排貨ノ強弱ト其ノ終想ノ遲速トハ輸出額ニ大ナル差額ヲ來スヘク排貨ノ終想意外ニ早キヲ得ハ前表ヨリ百五六十萬圓ノ増加ヲ期シ得ヘシ

(二) 輸入

品名	全年		前年		本年	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年
米	一、三〇〇	四、一七二	二、八七二	七三七	八〇九	七二
小麦	一、五〇〇	一、〇三八	四六二	五六七	二一八	三四九
大豆	三二〇	四九八	一七八	二二〇	三五一	一三一
食鹽	七七〇	七九〇	二〇	六	四八	四二

昭和三年中朝鮮貿易ノ豫想

本年ノ朝鮮貿易ハ輸出三億六千五百十五萬餘圓輸入三億八千八百七十八萬餘圓合計七億五千三百九十四萬餘圓ニ達シ輸入超過二千三百六十二萬餘圓ヲ計上スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ輸出六百二十三萬餘圓輸入五百三十七萬餘圓合計一千六百六十萬餘圓ヲ増加シ貿易ノ權衡ニアリテハ八十六萬餘圓ノ入超過退ヲ招致スヘキ豫想ナリ今之ヲ對外國貿易ト對内地貿易トニ區別スルトキハ次ノ如シ

一、對外貿易ノ豫想

本年ノ對外貿易ハ輸出三千九十六萬餘圓輸入一億一千八百萬餘圓輸入超過八千七百四萬餘圓ニ達スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ輸出二百八十二萬餘圓輸入四百六萬餘圓ヲ増加シ出入貿易ノ權衡ハ百二十三萬餘圓ノ入超過增加ノ豫想ナリ蓋シ輸出ニアリテハ精糖ノ對支販路擴大ヲ増加ノ主因トシ輸入貿易ノ増加ハ滿洲粟ノ入荷不振ニ拘ラズ前年輸入税免除ノ關係ヨリ内地ニテ通關手續ヲナシタル外米ノ直輸入ニ轉換スルモノ多キヲ主要事由トス輸出入各重要品ノ豫想ハ別項ニ掲ク

二、對内地貿易ノ豫想

本年ノ對内地貿易ハ移出三億三千四百十九萬餘圓移入二億七千七百七十八萬餘圓移出超過六千三百四十一萬餘圓ニ達スル見込ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ移出四百四十六萬餘圓

圓移入百三十一萬餘圓ヲ増加シ出入貿易ノ權衡ハ二百九萬餘圓ノ出超過增加ヲ來スヘキ豫想ナリ

前記移出貿易ノ増加ハ魚類、大豆、生糸、牛等ノ増出ヲ主因トシ移入貿易ノ増進ハ綿布、絹布、鐵材及肥料ノ需要增大ヲ主要事由トス詳細ハ別項ニ說明ノ通り、上ノ豫想ニツキ本年四月迄ノ實績ト五月以降ノ見込トヲ區別シ且前二年ノ實績ト對照スレハ左ノ如シ

昭和三年貿易豫想及過去二年實績 (單位千圓)

年計	自一月至四月實績			自五月至十二月			輸出	輸入	移出	移入	輸出	輸入
	元	二	三	元	二	三						
三	元	二	三	元	二	三	九,六六四	四五,八八三	一一〇,五三七	八九,五三一	一一〇,二〇一	一三五,四一四
二	年	年	年	年	年	年	八,五三二	四六,二七五	一一一,九九六	八五,四七八	一一〇,五二九	一三二,七五三
一	年	年	年	年	年	年	九,五四四	四七,二四九	一一二,五一八	八〇,〇九九	一一三,〇六三	一二七,三四八
三	年	年	年	年	年	年	二一,二九八	七二,一一〇	二一三,六五九	一八一,二五二	二三四,九五七	二五三,三七二
二	年	年	年	年	年	年	一九,六〇一	六七,六六八	二〇八,七九五	一八三,九九五	二二八,三九五	二五一,六六三
一	年	年	年	年	年	年	一五,二三五	七六,六八四	二一〇,六五七	一六八,一三六	二五五,八九一	二四四,八二〇
三	年	年	年	年	年	年	三〇,九六二	一一八,〇〇三	三三四,一九六	二七〇,七八三	三六五,一五八	三八八,七八六
二	年	年	年	年	年	年	二八,一三三	一一三,九四三	三三〇,七九一	二六九,四七三	三五八,九二四	三八三,四一六
元	年	年	年	年	年	年	二四,七七九	一一三,九三三	三三八,一七五	二四八,二三五	三六二,九五四	三七二,一六八

次ニ對外國及對內地各貿易重要品ニツキ豫想スル所左ノ如シ

一、輸出重要品過去二年實績及本年豫想

品名	單位	數			價			額 (千圓)		
		昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
魚類	千斤	一二,九五八	一二,九五八	一三,四二五	一,二〇七	一,二〇七	一,六九一			
砂糖	同	三八,六九五	二九,七六五	一六,五六〇	四,五四一	三,四九三	二,二二一			
紅糖	斤	三四,六八〇	三三,八七九	三五,四八一	一,八七三	二,〇三二	一,七一四			
綿織物	千斤	一,二八七	一,二二六	一,一四九	九九〇	九四三	一,三六一			
綿織物	千方碼	五,八〇一	五,五二五	四,一二三	一,七二九	一,六四七	一,二六二			
木材					二,九一二	一,九四一	一,五六五			
其他諸品					一七,七一〇	一六,八六七	一四,九六二			
合計					三〇,九六二	二八,一三三	二四,七七九			

(説明)

魚類 滿洲方面ニ於ケル泰票ノ動搖ニ基キ昨年ノ輸出不振ニ了レルカ本年モ同方面ノ形勢思ハレカラス最近ノ支那時局カ如何ニ變動スヘキカ逆睹シ難キモ之ハ姑ク豫想ニ入レス前年同様ノ出荷ト見タリ

砂糖 一兩年來販路擴張ノ氣運ニアル北支那方面ト今後ノ取引ハ支那最近ノ事變ニヨリ混沌豫想シ難キモ大連支那人ノ仲次ヲ以テスル等販路ノ確保困難ニアラサルヘク又滿洲方面ヘハ奉天産糖ノ没落後之ニ代ツテ殆ント獨占ノ勢力ヲ得ツツアリ昨年ノ輸出額ハ一昨年ニ比シ殆ント八割ノ劇増ヲ呈シタリ然シテ前年ヲ以テ既ニ普及一段落ヲ告ケタル状態ナルモ尙三割増加ハ可能ナル見込

紅糖 最近二年ノ平均額ヲ計上セリ

綿糸及綿布 關島方面ノ需要自然増加數量五分ノ見込

木材 本年夏季ニ於ケル安東側鴨綠江村ノ流筏狀況尙豫想シ難キモ同地ハ現ニ在荷拂底シ新義州方面ヨリノ輸出倍加ノ狀勢ニアリ年内ヲ通シテ五割増加ノ見込ナリ

其他雜品 以上ノ諸品ヲ除ケル輸出品ハ概シテ零碎ノ物品ニシテ一概ニイヒ難キモ前年ニ比シ自然増加五分ノ見込ヲナセリ

二、輸入重要品過去二年實績及本年豫想

品名	單位	數			價			額 (千圓)		
		昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
米	千石	五二一	五二	六三五	九,六四一	一,一四九	一四,六八六			
粟	同	一,七七〇	二,五二九	二,一八四	二三,八九五	三一,六四九	三一,八〇二			
黍	同	一〇九	一五一	六七	一,四〇二	一,九一八	八八五			
豆類	千斤	八六,四二二	七八,五六六	五三,〇四〇	四,五三一	四,一一九	三,一五八			
砂糖	同	四九,三六〇	四四,三六五	二七,四七一	四,七六三	四,二七八	二,四三二			
天日鹽	同	二四三,六九九	二七〇,七七七	二七七,三四二	二,〇八三	二,三三四	二,六〇三			
葉煙草	同	五,一〇七	八,五七一	一,六四三	二,六八一	三,五七五	一,七八六			
揮發油	同	二,〇三八	一,八五三	一,四八二	一,三三一	一,三二〇	一,一九三			
石油	同	一三,八二五	一一,五二一	七,四八一	六,四二五	五,三五四	三,四五一			
石炭	同	一,八三九	一,六四二	一,八三九	一三,八七一	一一,三〇三	一三,八七一			
合計										

品名	単位	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
綿織物	千方疋	六、〇二五	六、〇二五	一〇、五二八	二、〇四九	二、〇四九	三、六二六
麻織物	同	一三、三三四	一三、三三四	一一、一五〇	五、五三二	五、五三二	五、四三〇
毛織物	同	九六一	八七四	七二六	二、〇六四	一、八七六	一、七二九
石炭	千噸	六八一	六一九	四六四	七、八一七	七、一〇六	五、三三六
諸機材					一、五〇二	一、一五五	八九四
木材					六、〇九四	六、七七一	六、三六〇
肥料	千斤	二、〇一二	二、二三六	二、一〇八	八、二九七	九、二一九	一〇、〇二四
其他諸品					一四、〇二五	一三、三五七	一四、六五八
合計					一一八、〇〇三	一一三、九四三	一二三、九三三

一六八

(説明)

米 昨年ノ輸移入總數量八十二萬石ニ對シ鮮米製作ノ結果三割減即チ需要總數五十萬石ノ見込ニシテ内九割ヲ直輸入一割ヲ内地經由ト見做シ價格ハ十八圓五十錢ノ見込因ニ前年ハ内地ノ免税ニテ内地經由多量ナリシナリ

粟 前品同様三割減ノ見込市價ハ年平均十三圓五十錢ヲ以テセリ

黍 前年ハ特ニ輸入多大ナリシモ本年最近ノ狀勢ハ著シク減少セリ鮮産増加ノタメナルヘレ依テ前二年ノ平均額ヲ計上シタリ

豆類 關島方面ノ集散範圍擴大ノ傾向アリ前年ニ比シ一割増ノ見込

砂糖 移入ノ部ニ説明セリ

天日鹽 朝鮮産増加ニ依リ一割減ノ見込

葉煙草 前年ノ移入品ノ持越少カラサレ見込ナルヲ以テ前二年ノ平均額ヲ擧ケタリ

揮發油 自動車用ヲ主トシ前年ニ比シ一割ノ見込

石油 石油會社ハ昨年來額ニ在庫品ノ充實ヲ圖リツツアリ前年ニ比シ二割ノ増入ヲ見込メリ

桂蠶糸 昨年ハ内地機業地ニ於ケル需要不振ノタメ輸入減少セルモ本年ハ一昨年ノ出荷狀態ニ恢復ノ見込ナリ

綿織物 内地綿布ノ壓迫アリ昨年程度ノ入荷ニ止マルモノト見込マル

麻織物 支那ノ事變ハ從來殆ント影響ナシ依テ本年モ前年同様ト見込メリ

毛織物 自然増加一割ノ見込

石炭 前品ト同様

機械類 新設工場用品ニ於テ前年ニ比シ三割方増進ノ見込

木材 新義州方面増加ノ見込ナシ豆滿江流筏ハ今ノ所全然豫想シ難シ依テ最近ノ狀況ニヨリ假ニ一割減トセリ

肥料 豆糟ヲ主トセルモノナルカ減安ノ旺盛ニ押サレ氣味ニテ一割減ノ見込ナリ

其他ノ雜品 自然増加五分ノ見込

三、移出重要品過去二年実績及本年豫想

品名	單位	昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
米(玄米換算)	千石	六、九七五	六、四五五	五、七七五	一八八、三二五	一九一、五七四	一九三、二五九
大豆	同	一、五八四	一、四四〇	一、三九三	二五、〇八〇	二二、八〇〇	二四、二九三
其他ノ豆	同	七三	七三	五六	一、〇五四	一、〇五四	八七五

一六九

魚類	海苔	砂糖	牛皮	綿	繭	生糸	石炭	金	鐵	鐵	牛	製紙用パルプ	木材	木炭	海菜	肥料	其他ノ諸品	合計
九五、〇〇四	一、〇〇一	一、一八二	三、〇六五	九、六三七	一、四九九	一、二八三	二、二八一	二、六八四	二、二三五	一、五八、九五七	五、二七三	三、一八二	三、九四九	四、三六〇	四、三六〇	一、九二二	三三、四一六	
八六、六九七	一、一三三	一、一八二	二、七六四	九、六三七	一、八二四	九、八七	二、三六	二、〇六八	二、八、二七二	一、七六、六一九	四、二、〇六四	六、三六二	三、五八七	四、三六〇	四、三六〇	一、七、四六五	三三、四一六	
一〇三、三一二	八二九	四一九	三、〇六五	八、二五四	二、二〇二	七、二四	二、二	三、三、〇〇一	一、六四、九八七	一、七七、三六七	四、七、九二一	一、六、九三八	二、八、一九八	三、一九九	三、一九九	一、九、三三〇	三三、四一六	
一、二、四一六	二、四五一	二、四五一	一、八四一	四、一八六	二、五五七	一、六、二二九	二、三五八	一、三九九	九、二八	五、〇八六	四、二、〇六〇	四、〇七	一、三〇八	一、二七九	一、二五三	七、七九〇	三三、四一六	
一、七六〇	二、七二四	二、四五一	一、四四九	四、一八六	四、七三〇	一、三、六〇七	二、三五八	一、四五一	一、〇八四	五、六五二	三、三、一八	八、一三	一、一八九	一、一六三	一、二五三	七、〇八二	三三、〇、七九一	
一三、〇七一	二、〇九七	一、〇三	一、八四一	四、五四六	七、三二二	一、一、五七三	二、二三七	一、三四六	七、七二	五、四二一	三、八七三	二、三三四	三、五〇七	一、三九九	一、三九九	八、六二五	三三、八、一七五	

一七〇

(説明)

米 昨年ニ於ケル朝鮮米ノ收穫、千七百二十九萬石ニシテ元年度ニ比シ、百九十九萬石ノ增收ナリ此增收額中鮮内消費増加額ヲ見込ミ移出増加トナルヘキモノ約四割即チ七十九萬石ニシテ昨年十一月、二兩月ニ於テ既ニ出荷増進トナレル數量二十七萬石本年一月以降十月マテノ増加見込五十二萬石ナリ而シテ本年ノ作柄ハ未タ全然豫想ツキ難キモ假ニ前年ト同様ノ收穫アルモノトシ其ノ出荷量モ前年ト同量トスレハ結局本年中ノ移出高ノ前年ニ對スル増加ハ前記五十二萬石トナルニ依テ本年ノ移出數量ヲ算出シタリ而シテ價格ハ本年一月ヨリ四月迄ノ平均一石二十六圓二十錢ナルモ最近稍昂騰ノ氣配アリ年内平均トシテハ二十七圓程度ノ見込ナルヲ以テ之ニ依テ移出價額ヲ算出セリ

大豆 昨二年度ノ產額四百七十四萬石ニシテ前年ニ比シ九分ノ增收ナルカ間島方面ヨリノ出廻モ増加ノ見込ナルヲ以テ本年内移出量ハ前年ニ比シ一割増トセリ

其他ノ豆 前年ト同額ノ見込

魚類 昨年ハ特ニ不漁ナリシモ本年ハ稍良好ノ經過ヲ示シテ前二年ノ平均ニ達スル見込ナリ

海苔 本年ハ産地凶作ニシテ前年ニ比シ一割方減退ヲ免レサル見込ナリ

砂糖 前年ト同額ニ達スル見込ナリ

牛皮 昨年ハ移出特ニ不振ナリシモ本年ハ支那皮高ノ影響ヲ受ケ年頭以來出荷好況ヲ呈セリ一昨年ト同額ニ達スヘキ見込ナリ

繭綿 本年ノ作柄豫想シ難シ依テ前年ト同額ノ出荷見込トセリ

生糸工場ノ發達ト共ニ二年ノ出荷減少ヲ示セリ本年モ前年ニ比シ數量二割減ヲ免レサルヘシ繭價ハ本年四月迄ノ平均ニ依レリ

一七一

生糸 繭産額ノ増加ト製糸業ノ發達ニ依リ年々出荷増進ノ勢ニアリ本年ノ養蠶成績未タ測リ難キモ本品ノ移出高ハ年來ノ趨勢並本年最近ノ出荷狀況ニ徴シ昨年ニ比シ三割増ノ見込ニテ價額ハ本年四月迄ノ平均ニ依リ算出セリ

牛 昨年ハ特ニ移出不振ナリシモ本年ハ内地各方面ノ需要少カラス殊ニ最近支那出兵關係ヨリ肉牛向注文多シ而シテ朝鮮ニテハ米價安ノタメ例ニ依リ畜牛ヲ手放スモノ多キ有様ナルヲ以テ一昨年ノ移出額ニ比シ尙一割増ヲ見込メリ

石炭 年々増進ノ趨勢ニアレトモ昨年ノ出荷尙仕向先ニテ賣殘リアルヤニテ本年ハ不振ヲ示セリ然レトモ一昨年程度ノ移出量ハ可能ノ見込ナリ

金鑛 金鑛産出ハ昨年ニ比レ増進ノ見込ナリモ其ノ品質ニ於テ年々依リ少カラス高下アリ豫測困難ナルヲ以テ過去二年ノ平均額ヲ計上セリ

鐵鑛 八幡製鐵所ノ需要ニ係リ其ノ使用高ハ略一定セルモノノ如キモ年内積送高ハ船賃等ノ都合ニテ必スレモ一定セス依テ過去二年ノ平均額ヲ計上セリ

鐵 鐵鑛ニ於テハ多少増進スヘキモ條竿板鐵ノ在荷漸減ノ結果前年ニ比シ一割減ヲ免レサルヘシ

製紙用パルプ 本品ノ生産工場ハ新義州ニ一割アルノミニシテ昨年來パルプノ移出ヲ減シ洋紙ノ製出ニ力ヲ注キツクアリ爲ニ本年ノ本品移出ハ前年ニ比シ半減ヲ免レサル見込

木材 本年ハ内地ノ需要増進ノ狀勢ニアリ前年ニ比シ約一割増ノ見込ヲナセリ

木炭 朝鮮木炭ハ内地ニ於ケル需要ハ年々増進ノ傾向ニアリ本年モ又一割増ノ見込ナリ

海藻 本年ノ採取狀況未タ豫想シ難キ狀況ニアリ依テ前年同様ノ額ヲ計上セリ

肥料 主トシテ魚肥ニシテ本年今後ノ繼其ノ他ノ漁況ニ依リ産額ノ消長ヲ免レサルモ昨秋以來ノ庫殘リ品

モ少カラサル狀況ナルヲ以テ前年ニ比シ移出一割増ノ見込ヲナセリ
其他雜品 前年ニ比シ自然増加五分ノ見込ヲ以テ計上セリ

四、移入重要品過去二年実績及本年豫想

品名	單位	數量			價額		
		昭和三年	同二年	同元年	昭和三年	同二年	同元年
米 (内地産米)	千石	四五	六五	六八	一一三三	一七六〇	二二二三
外米	同	五二	七七五	一〇一	一〇七一	一六三五〇	二、六二五
小麦	千石	六一、二五六	五一、〇四七	五〇、六三二	七、三一五	六、〇九六	六、三九七
砂糖	同	二九、三七一	二四、三七六	一九、八六二	四、一七一	三、四五七	二、七六三
清酒	石	一一、二五六	一一、二五六	一一、九三九	一、四一〇	一、四一〇	一、四九〇
麥酒	千利	四、五六九	四、三五一	四、一一二	二、一六〇	二、〇五七	一、九三六
綿	擔	七五、〇九六	六八、二六九	四二、七六九	三、九〇五	三、五五〇	二、五五三
打綿	同	三七、五五八	四二、三七七	三二、七三九	二、一九九	二、三九三	二、〇〇五
綿織糸	千斤	七、七六二	七、七六二	九、二二五	六、四七二	六、四七二	八、四一二
綿織物	千方碼	一五九、六〇六	一五二、〇〇六	一四三、四四五	三八、二二六	三六、四〇六	四〇、一二三
毛織物	同	二、六六五	二、五三八	二、四八一	三、四八二	三、三二二	三、二二三
絹織物	同	九、九八七	七、二七〇	四、七七九	一〇、四五〇	九、二六六	七、九〇三
護鞆類	同				六、一八八	五、七三二	六、六四四
紙類	同				七、五六三	七、二〇三	六、八九八

木材 枕木ノ需要増加等ニテ前年ニ比シ五分増ノ見込
 肥料 硫酸ノ施用割増ヲ示シツアラリ前年ニ比シ三割増ノ見込ナリ
 其他雜品 前年ニ比シ自然増加五分ノ見込

臺灣總督府稅關長

昭和三年臺灣外國貿易豫想

臺灣外國貿易中對支貿易ハ其ノ五割ヲ占メ頗ル重要ナル關係ニ在リ本年初期三四ヶ月ハ動亂小康ヲ得テ貿易ハ前年來不振ノ反動的ニ好轉セシモ最近山東出兵事件ニ關聯シテ各地ニ於ケル排貨運動漸ク猛烈ナラントスルノ傾向アリ從來ノ例ニ徴シ輸入ニ於テハ甚クシキ影響ヲ蒙ラサルヘキモ輸出ニ於テハ打擊相當甚大ナルヘシ而シテ英米又ハ南洋方面ニ於ケル茶、樟腦、肥料、重油等ノ輸出入ハ依然活況ヲ豫想サルル處ナルモ米カ輸入制限令ニ砂糖カ再製輸出ノ不振ニ遮キラレ殊ニ前者ハ在荷豐富ト相俟テ前年ノ如キ好況ヲ見ル能ハサルヘキヲ以テ結局本年貿易ノ前年ニ比シ稍々衰退スルニ至ルヘシ即チ左ノ如シ

輸出入	本年豫想		前年實績		減額
	數量	價額	數量	價額	
輸出	四〇、七〇九、四〇〇	四四、五九七、七〇七	四四、五九七、七〇七	三、八八八、三〇七	九分
輸入	六〇、五九〇、五〇〇	六五、八四〇、三九六	六五、八四〇、三九六	五、二四九、八九六	八分
計	一〇一、二九九、九〇〇	一一〇、四三八、一〇三	一一〇、四三八、一〇三	九、一三八、二〇三	八分三厘

次ニ主要品ヲ列擧シ其ノ概要ヲ說述スレハ

輸出重要品

品名	數量單位	昭和三年豫想		昭和二年		増減率
		數量	價額	數量	價額	
石炭	噸	四四八、三〇〇	四、九四〇、〇〇〇	五六〇、三九〇	六、一七四、四八八	二割減
包種茶	斤	八、六七三、〇〇〇	六、四五四、二〇〇	八、六七三、三一一	六、四五四、二七四	現狀
烏龍茶	同	七、九八二、〇〇〇	五、一〇二、六〇〇	七、九八二、一一三	五、一〇二、六二一	同
鹹魚及乾魚	同	二四、二四五、七〇〇	二、九九八、七〇〇	三〇、三〇七、二二四	三、七四八、四二二	二割減
綿織物	碼	一一、一六六、七〇〇	二、八六二、二〇〇	一一、五一一、六一〇	三、一八〇、二三七	一割減
砂糖	斤	一五、九六五、八〇〇	二、〇四〇、五〇〇	一九、九五七、三二四	二、五五〇、六八七	二割減
錫	同	五四六、一〇〇	二、一七九、一〇〇	五四六、一四五	二、一七九、一三三	現狀
樟腦	同	二、五五四、二〇〇	二、八四二、六〇〇	一、七〇二、八〇〇	一、八九五、一〇六	五割増
酒	升	五、九〇五、二〇〇	一、八五四、九〇〇	五、九〇五、二八一	一、八五四、九五二	現狀
セメント	同	三九、〇一七、八〇〇	七、四四七、七〇〇	五五、七三九、七五三	一〇、六三三、八八五	三割減
其他	同		四〇、七〇九、四〇〇		四四、五九七、七〇七	二割減

増減説明

一、石炭 支那各地ニ於ケル支那内國炭(開平、撫順等)ノ出廻増加ト排貨運動ニ依リ減
 二、包種茶 南洋在留支那人ノ排貨懸念アルモ大ナル影響ナカルヘシ前年同様

三、島産茶 近年不振ノ傾向アルモ製品ノ改善向上ト爲替ノ有利ト相俟テ前年程度ヲ得ル見込
 四、鹹魚及乾魚 前年銷ノ不漁ノタメ本年ニ於ケル仲繼輸出不振且ツ排貨運動ニ依リ減
 五、綿織物 外國品ノ出廻ト排貨運動ニテ減
 六、砂糖 主要市場上海ニ於テ排貨熱熾烈ナルト市價ノ低落ニテ減
 七、錫 漁況ノ如何ニ依リ支配サレルヲ以テ豫測シ難キモ先ツ前年程度ノ見込
 八、樟腦 近年人造樟腦ニ壓セラレ甚シク不振ナリシモ最近當局ノ措置宜シキヲ得テ逐月額勢ヲ挽回シツツアリ五割増ヲ豫想ス
 九、酒精 原料豊富ナルモ排貨ト課税問題ニ阻止サレ前年以上ノ伸長困難
 十、セメント 島内需要旺盛ト排貨並ニ高雄工場ノ罷業ニ依リ減産ニ依リ減

輸入重要品目

品名	數量單位	昭和三年豫想		昭和二年		増減率
		數量	價額	數量	價額	
米	斤	九九八四三、三〇〇	七、七二三、六〇〇	一九九、六八六、八二一	一五、四四七、三三八	五割減
大豆	同	三一六、六三六、一〇〇	一三、五一八、七〇〇	二八七八五、〇二〇	一一、二八九、七七一	一割増
硫酸アムモニウム	同	一一、二五二、四〇〇	九五三三三、七〇〇	一一、三七四五、八八〇	八、六六七、〇〇〇	一割増
砂糖	同	五〇、三四〇、八〇〇	二、八六四、〇〇〇	三七、九二六、〇〇七	三、五八〇、〇七九	二割減
木材	立方尺	三、九六〇、四〇〇	二、六九二、二〇〇	三、九六〇、四四四	二、六九二、二四二	現狀
大豆	斤	四六、〇八九、八〇〇	二、七五二、二〇〇	四三、九二〇、八五三	二、六二一、一九二	五分増
ガンニ一囊	筒	五、八六五、二〇〇	二、九二九、八〇〇	四、八八七、六八九	二、四四一、四六三	二割増

増減説明

一、米 内地臺灣其前年ノ懸作尻ヲ受ケ在庫豊富ナリト現ニ制限令ニ依リ輸入困難ノ爲メ五割減
 二、大豆油精 施肥年々増加ノ趨勢ニ在リ蓬萊米(内地種米)増植ト相俟テ増
 三、硫酸アムモニウム 同上
 四、砂糖 對支輸出不振ト島内産糖増加ニ進キラレ減
 五、木材 土木工事相當活況ヲ呈セルモ内地材ノ移入激増傾向アリ之カ爲メ前年程度以上ニ出テサル見込
 六、大豆 滿洲方面出廻如何ニ依ルモ島内消費ハ漸増ノ見込ニ付少増
 七、ガンニ一囊 米糖ノ増産ニ伴ヒ増
 八、燈油 消費自ラ限度アリ前年程度トス
 九、穀 養豚業ノ隆盛ト蓬萊米ノ増植ニ伴フ施肥増加ニ因リ需要漸増

品名	數量單位	昭和三年豫想		昭和二年		増減率
		數量	價額	數量	價額	
燈油	ガロン	三、〇一二、九〇〇	一、三九五、四〇〇	三、〇一二、九四〇	一、三九五、四七五	現狀
穀	斤	四三、六一七、一〇〇	一、六六八、三〇〇	三六、三四七、六二一	一、三九〇、二八六	二割増
小麥	同	一三、六一四、六〇〇	九四四、四〇〇	一三、六一四、六七七	九四四、四七四	現狀
葉煙草	同	二、一一四、七〇〇	九一〇、〇〇〇	二、一一四、七九五	九一〇、〇三九	同
鐵材	同	一一、二四九、四〇〇	九〇七、一〇〇	一〇、二二六、七八四	八二四、六三九	一割増
包席	枚	六、一〇四、三〇〇	六五六、三〇〇	五五四九、四〇二	五九六、六四二	同
重油	ガロン	四、〇七〇、九〇〇	六〇六、五〇〇	三、七〇〇、八五六	五五一、三七〇	同
其他		一一、四八八、三〇〇	六〇、五九〇、五〇〇	一一、四八八、三八六	六五、八四〇、三九六	現狀
計						

- 十、小麦 島内製粉事業ノ現状ヨリ觀テ前年程度
- 十一、葉煙草 經濟界ノ現状ヨリ觀テ前年程度トス
- 十二、鐵材 各種土木建築工事ノ發展ニ伴ヒ増入ノ見込
- 十三、包廩 砂糖増産ノ爲メ増加
- 十四、重油 最近急激ナル需要増加ヲ示セリ本年モ更ニ進展ノ見込

(終)

協議事項議事

本省提出協議事項

(本項ニ付テハ各税關長歸任ノ上文書ヲ以テ意見提出スルコトニ決定セリ)

海港檢疫法第三條ニ依ル明告書ハ之ヲ統一スル爲目下主務省ニ於テ攻究中ニ付右實施ノ上ハ同書ニ記載ナキ大體左ノ尋問要項ヲ其ノ裏面ニ掲記シ明告書ト同様各關ニ共通セシメ各種ノ入港尋問ハ可成之ヲ省略シテハ如何

記

- 一 船ノ長サ
- 二 吃水
- 三 來著日時
- 四 入港ノ目的
- 五 出港豫定日時
- 六 當港積豫定貨物ノ種類、噸數及其ノ仕向地
- 七 積荷中牛、馬(驢及騾ヲ含ム)、綿羊、山羊、豚、犬、鷄、鵞並其ノ屍體及加工セサル肉、骨、皮、毛及蹄ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地並仕向地

- 八 航海中發病又ハ斃死シタル家畜ノ有無若アラハ其ノ種類、頭數及症狀竝之ニ對シ爲シタル處置
- 九 家畜傳染病ノ發生シタル船舶又ハ家畜傳染病流行地ヨリ來リタル船舶トノ交通ノ有無
- 十 船中ニ常用外ノ爆發物又ハ高度燃焼物ノ有無若アラハ其ノ品名、數量
- 十一 植物及其ノ果實、種子、病菌又ハ害虫搭載ノ有無若アラハ其ノ品名、數量
- 十二 積荷中阿片、コカイン、モルヒネ及其ノ鹽類ノ有無
- 十三 航海中海難若ハ危險物ノ發見其ノ他總テ異狀ノ有無

税關提出協議事項

(一) 關稅法ニ關スル事項

一、日獨通商航海條約第七條ニ依ル原產地證明書ハ之ヲ必要トスル場合及其ノ發給ノ條件ニ付テハ當該締約國ハ之ヲ公示(稅關手續簡捷ニ關スル國際條約第十一條第二項第一號參照)スルコトトナリ居レルモ未タ其ノ運ヒニ至ラサルヲ以テ其ノ間稅關ニ於テ原產地證明書ヲ發給スル場合左記取扱方如何(門司)

記

- イ、原產地證明書ノ記載事項ハ關稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ルコト
- ロ、證明手数料ハ關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手数料ト同ク一件ニ付貳圓徴收スヘキコト
- ハ、稅關カ貨物ノ原產地ヲ證明スルハ當該稅關ノ管轄區域内ノ地ニ於テ產出シ若ハ製造セラレタルモノ及其ノ管内ヨリ輸出セララルモノニ限ルコト尙右證明ヲ爲スニハ宣誓ノ方法ニ依ルコト

決議 參考(特ニ必要アルトキハ更メテ本省ヨリ通牒スヘキニ依リ夫レ迄ハ從來通り取扱フコト)

二、米及粃ノ輸入ニ付本年農林省令第一號第四條ノ規定ニ依リ稅關ニ提出スル書面ニ付テハ

一般ニ正副二通ニ對シ帝國領事館ノ證明ヲ受ケ其ノ正本ハ荷爲替取組ノ必要ニ因リ銀行ヲ經由發送スル關係上稅關ニハ右正副孰レカヲ提出シテ輸入免許ヲ受クルノ現況ナリ、此種ノ證明書ハ特ニ事情已ムヲ得サル場合ノ外取締上正本ニ限り之ヲ認ムルコトニ各關ノ取扱ヲ一定スルノ要アリト認ム(門司)

(理由) 當關ニ於テハ未タ副本ノ證明書ヲ認メタル事例ナキモ當業者ノ談ニ依レハ他關ニ於テハ之ヲ認メ輸入免許ヲ爲ス向モ有之ヤノ趣ナリ、斯テハ同一ノ證明ニ依リ二重ノ輸入ヲ企テシムルノ危險ヲ伴ヒ之カ取締ノ完全ヲ期シ難キヲ以テ特ニ事情已ムヲ得サル場合ノ外正本ニ限り之ヲ認ムルノ取扱ヲ適當ナリト思考ス

撤回 (各關ニ於テ原則トシテ正本ニ限り受理シ居レリ)

三、包裝ノ整備セル輸入分蜜糖ニ對シテハ現行検査指定個數ヲ左記ノ程度ニ低減スルコト(神戸)

檢入個數	現行個數	改正案個數
二〇〇個迄	一〇〇分ノ三〇	一〇〇分ノ一五
一、〇〇〇〃	一〇〇分ノ二〇	一〇〇分ノ一〇
五、〇〇〇〃	一〇〇分ノ一五	一〇〇分ノ七
一〇、〇〇〇〃	一〇〇分ノ一二	一〇〇分ノ六

一〇、〇〇〇以上

一〇〇分ノ一〇

一〇〇分ノ五

(理由) 包裝ノ整備セル分蜜糖(例之瓜哇雙目糖)ノ如キハ每五〇袋(總重量約八、五〇〇斤)ニ對スル秤差僅ニ數斤(〇・〇五%内外)ニ過キサルヲ以テ精確度ニ於テ提出案個數ノ指定ニテ充分ナリト思惟ス

決議 本省ニテ研究スルコト

(二) 關稅定率法ニ關スル事項

四、關稅定率法第七條第四號ノ二ニ依ル礦油ニ對シ商工大臣ノ下附スル輸入許可書ニハ一定ノ期限ヲ附スル様商工省ニ交渉セラレタシ(橫濱)

(理由) 輸入期間ニ制限ナキ爲數年ニ互ルモ尙輸入許可書ノ未整理ナルモノアリ取扱上不便ナリ

決議 參考(商工省ト協議スルコト)

五、朝鮮總督府下附ノ燃料用礦油輸入許可書ヲ以テ内地ニ於テモ免稅油ヲ輸入シ得ルノ途ヲ講スルコト(門司)

(理由) 朝鮮ト内地トニ於テ燃料用礦油輸入許可書ヲ下附スル官廳ヲ異ニセル關係上朝鮮在籍漁船ハ縱令輸入許可書ヲ有スト雖内地沿岸ニ於テハ免稅油ヲ輸入シ得サルノ不便アルヲ以テナリ

決議 否決(朝鮮側ニモ反對アリ)

六、 驗體トシテ輸入スル物品ニ對シ免稅通關ノ途ヲ開クコト(門司)

(理由) 外國品ニ模シ輸出品ヲ製造シ又ハ外國品ノ性質成分等ヲ比較研究ノ爲驗體ト

シテ外國品ヲ輸入スル場合ニ課稅ヲ避ケンカ爲ナリ

例、 陶器會社行ノ陶磁器

染料會社行ノ染色布

決議 參考

七、 大正十年五月勅令第二百三十八號及其ノ施行ニ關スル同年五月大藏省令第十八號ヲ改正

セラレタキコト(大阪)

(理由) 右勅令第二百三十八號ハ逐年其ノ利用ノ普及ヲ見ツツアルモ輸出工業ノ實態

ニ順應シ一層其ノ利用ヲ便ナラシムル爲相當改正方ニ付考慮セラレムコトヲ

望ム

決議 本省ニテ研究スルコト

八、 關稅定率法第十一條第四號該當物品ニ對スル各關ノ取扱振如何(橫濱)

各關ニ取扱事例ナシ

九、 撮影シタル感光性寫眞用フィルム又ハ乾板ノ輸入ニ對スル各關ノ取扱振ヲ承リタシ(門司)

(理由) 近來新聞寫眞用又ハ報道用トシテ「フィルム」乾板ヲ未現像ノ儘輸入スルモノ

多シ公安ヲ紊リ風俗ヲ害スルモノナキヲ保セサルモ之カ檢閲ノ設備ナキヲ以

テ内容ヲ誓ハシメ引取ラシメ居レリ

決議 稅關ニ於テ内容ヲ知悉スルコト困難ナルモ特ニ不審ナルモノニ付テハ警察ニ

通知スルコト

(三) 保稅倉庫法及保稅工場法ニ關スル事項

一〇、 保稅倉庫トシテ地區ヲモ認ムルノ制ヲ設ケルコト(門司)

(理由) 屋外藏置ニ支障ナキ貨物ノ藏置場所トシテ及改正保稅倉庫法ノ手入作業ヲ行

フノ場所トシテ取締上支障ナキ限り之ヲ認ムルヲ可トス

撤回 (保管責任ヲ果シ得ルモノハ地區ト雖之ヲ倉庫ト認ムルコト)

一一、 保稅倉庫ニ於テ手入材料トシテ使用シタル貨物ニシテ滅失シ又ハ包裝、容器等ニ使用

セラレ本體貨物ニ合體シ獨立ノ存在ヲ失ヒタル貨物ニ對スル取扱方(門司)

イ、 手入作業ニ伴ヒ當然滅失スヘキ外國貨物ヲ手入材料トシテ使用スルコトヲ許可セ

ラルルヤ各關ノ取扱方承リタシ

ロ、 前項ノ場合之ヲ許可スルトキハ手入材料カ庫入ノ際檢査ヲ受ケタル貨物ナルトキ

ハ保稅倉庫法第三條第一項但書ノ解釋上庫出ノ際課稅スヘシト雖課稅ノ客體ナキ

カ如何ニ取扱フヘキヤ或ハ此ノ場合材料貨物ハ同條第二項稅關ノ承認ヲ得テ滅却

セラレタル貨物ト看做シテ輸入稅ヲ徵セサルコトニ取扱フヘキヤ又手入材料カ庫

入ノ際検査ヲ受ケサル貨物ニシテ本體貨物カ庫入ノ際検査ヲ受ケタルモノナルトキハ材料貨物ハ保税倉庫法施行規則第三十三條第二項ニ依リ税關ノ承認ヲ受ケ減却シタルモノト看做シ處理スヘキヤ

ハ、庫入ノ際検査ヲ受ケサル外國貨物ヲ手入材料トシテ使用ヲ許可スヘキヤ各關ノ取扱方承リタシ

ニ、前項ノ場合之ヲ許可スルトセハ

(一) 本體貨物庫入ノ際検査ヲ受ケサリシ外國貨物ナルトキハ保税倉庫法第三條第一項本文ノ規定ニ依リ本體貨物ノミ課税スヘキヤ

(二) 本體貨物庫入ノ際検査ヲ受ケタル外國貨物若ハ内國貨物タルトキハ便宜手入前材料貨物ノ検査ヲ爲シ庫出ニ際シ右検査成績ニ依リ課税スヘキヤ

決議 イ號 輸入手續ヲ履行セシメタル上使用セシムルコト

一二、内外貨物ヲ混用セル手入貨物ノ庫出ニ關シテハ手入ニ使用セル外國貨物ニ對シ輸入積戻、運送又ハ庫移等ノ申告ヲ爲サシメ之ニ伴フ内國貨物ノ庫出、輸出、運送又ハ庫移等ノ申告ハ便宜前記申告書ニ併記セシムルコトニ取扱ヒタシ(門司)

(理由) 保税倉庫法施行規則第十條ノ規定ニ依リ其ノ使用セル材料別ニ通關申告ヲ爲サシムルハ取扱上不便尠カラズ

決議 参考(併記セシムルヲ可トスルモ形式ヲ一定スルノ要アルヘシ)

一三、小規模ノ私設保税工場ニ於テハ相當ノ期間ヲ限り特ニ特許手数料ヲ免除スルノ途ヲ講スルコト(門司)

(理由) 經營者ノ負擔ヲ輕減シ生産費ノ低下ヲ圖リ以テ保税工場ノ利用ヲ助成シ輸出貿易振興ノ一助ヲラシメンカ爲ナリ

決議 参考

四 税關貨物取扱人法ニ關スル事項

一四、明治三十四年四月法律第十八號税關貨物取扱人法及同年五月大藏省令第八號同法施行細則ヲ改正セラレタキコト(大阪)

(理由) 税關貨物取扱人法ハ其ノ制定以來年ヲ關スルコト久シク其ノ間改正ヲ見タルコトナキヲ以テ此ノ際相當改正ヲ加ヘ取締上ニモ實效アラシムルト共ニ斯業ノ健全ナル發達ヲ圖ラレムコトヲ望ム

決議 参考

五 貿易統計ニ關スル事項

一五、貿易統計輸出品目表單位ハ先般改正セラレタルモ左記品目ニ付テハ實施困難ナルヲ以テ之カ單位ヲ打ニ改ムルコトニ考慮セラレタシ(門司)

輸出品目番號	品名	單位
自五九號	飲食物罐詰及罐詰	容器共斤
至六八號		

一〇一號	化粧用クリーム	同
一〇二號	香水及香油	容器共斤及打
一一三號	齒磨粉	容器共斤
一二四號	白粉	同
一二五號	其ノ他ノ調製薰香類	同

(理由) イ、是等物品ハ容器共ノ重量ニ依リ商取引ヲ爲スモノニアラサルヲ以テ當業者ト雖之ヲ知ラサルヲ普通トス、仍テ右ノ如キ單位ヲ申告セシムルコトハ困難ナリ

ロ、是等物品ノ容器ニハ種類多ク又内容品ニ於テモ價格ニ非常ノ差アルヲ以テ縱令容器共ノ重量ヲ知りタリトシテモ價格ノ高低ヲ推知スルコト困難ナリ

決議 參考

一六、貿易統計輸出品目表中左記品目ニ付テモ改正後實施ノ狀況ニ鑑ミ更ニ左表ノ單位ニ改正方考慮ヲ希望ス(門司)

輸出品目番號	品名	現行單位	改正希望單位
九 九 號	化粧用石鹼	斤 及 打	打
一二七 號	賣藥	斤	筒
一三〇 號	繻	斤	千哥

二九六 號	封筒	斤及千個	千枚
自一八七 號	其ノ他ノ綿布	斤及方碼	方碼

(理由) 前項ト同理由殊ニ化粧石鹼、賣藥、加工綿布ノ如キハ包裝ノ關係上正味斤ノ算出不可能ナルカ故ニ推定ノモノ多キヲ以テナリ

決議 參考

一七、輸出品貿易統計第五類油脂蠟及同製品中礦油ハ其重ニ依リ分類統計スルコトヲセスシテ油ノ品質用途ニ依ルコトトシタシ(門司)

(理由) 現行礦油貿易統計品目ハ

九 八 號	揮發油比重	〇・七三〇ヲ超エサル礦油
九 九 號	石油 同	〇・八七六ニヲ超エサル礦油
一〇〇 號	機械油甲同	〇・九二一八ヲ超エサル礦油
一〇一 號	同 乙	其ノ他ノ礦油

トナルカ故ニ當關輸入ノ石油ハ僅ニ「スタングード」會社上松印、虎印、「ライジングサン」會社白油、貝石油ノ四品ノミナルニ拘ラス尙左記輸入ノ揮發油、機械油、其ノ他ノ礦油ノ如キモノ迄石油トシテ計上セラルルコトトナリ實際ニ合致セサルモノトナルヲ以テナリ

品名	比重	用途	備考
ヘビトベンジン	〇・七七六位	自動車用	

黒貝印一號 ○七四二位
 同 二號 ○七五〇位
 パワイオイユ ○八五〇位
 ロ、スタンダード會社輸入品
 自動軍用 (ライトベンジンス比重〇七三〇以下)へビーベンジンスヲ保稅工場ニテ混油後輸入スルモノ
 發動機用

品名	比重	用途
イソグリスピンドル圓錠	〇八七〇位	機械潤滑用油
ホワイト、ロース、スピンドル	〇八七六位	機械潤滑用油
ホワイト、スピンドル	〇八七〇位	機械潤滑用油
トランスフオートマー、Z	〇八三〇	變壓器用
ベトロラ、M、H、〇號	〇八七五	防錆用
ハ、ヴァキーム會社輸入品		
ヴエロシテ、オイル、ブリーチド	〇八六五位	機械潤滑用
同 E	〇八六〇位	機械潤滑用
トランス、フオートマー、A	〇八七〇位	變壓器用
同 D	〇八六五位	變壓器用
同 E	〇八三五位	變壓器用
フルリツト、オイユ	〇八六五位	リノリユム光澤用
S 一〇二四號	〇八七位	頭髮用
S 一〇二九號	〇八六五位	頭髮用

決議 参考

一八、輸出品ノ統計項目編入方ニ付テハ何等ノ取扱ナキヲ以テ各關ノ取扱ニ異ナルモノアルカ如シ、例へハ蒟蒻芋ヲ甲稅關ハ其ノ他ノ野菜ノ項目ニ、乙稅關ハ其ノ他ノ雜品中ニ入ルル等取扱區ヤナルモノ多ヤアルカ如キヲ以テ之ヲ統一スル爲輸出品ノ統計項目類別表ヲ編纂スルコト、尙統計ニ關スル類別通信ヲ開始スルコトトシタシ、右ハ大正五年稅關長會議ニ一應提出セラレシコトアルモ未タ實現セサルヲ以テ可成速ニ實行セラレタシ(門司)尙輸出類別表ヲ作成スルトセハ可成各關檢査課ニ於テ草案ヲ作成シタル上本省ニ提出シ本省ニ於テハ其ノ材料ニ據リ整理編纂スルコトトセラレタシ

決議 統一方考慮スルコト

一九、本省ニ電報報告ヲ爲ス旬報ハ免許ノ日附ニ據ルコトトナレルモ輸出品ニ付テハ船積完了ノモノノミヲ報告スルコトト改正相成タシ(門司)
 (理由) 不積ノ場合ノ整理頗ル繁雜ニシテ就中當港輸出「セメント」計表下附ノ場合ノ如キハ全ク實際ト合致セサル爲當業者ノ苦情多シ

決議 否決

二〇、貿易月表ニ掲記ノ食料粗製品及製造品、原料品、原料用製品、全製品、其ノ他ニ類別スル方法ハ輸入ト輸出トニ於テ左記ノ例ノ如ク異レルヲ以テ之ヲ何レカ一方ニ類別スルコトニ致シタシ(門司)

品名	輸出	輸入
金屬類ノ屑及故	原料品	原料用製品
レール	全製品	原料用製品
金屬類ノ線索	原料用製品	全製品

撤回

二二、小包郵便物ノ輸入貿易統計ハ有税品ニ在リテハ税關ノ課税通知ニ基キテ納税済ノモノヲ掲上シ無税品ニ在リテハ郵便局ノ通知ニ係ル全體ノ價額ヨリ前記有税品價額ヲ引キ去リタル残リヲ掲上スルコトナレルヲ次ノ通改正シタリ(門司)

イ、検査課ニ於テ小包検査終了後有税品ハ小包郵便物検査書用紙ニ、無税品(免稅品)ヲ合ムルハ別紙一、二號書式ニ夫々關係事項ヲ記載シ統計係ニ送附スルコト
 ロ、統計係ハ右書類ニ依リ左ノ通彙帳ニ登記スルコト

(一) 開稅統計ノ相當品目ニ編入スヘキモノニ在リテハ從來ノ通

(二) 其ノ他ハ贅澤稅品該當ノモノト其ノ他トニ區別シ國別ニ依リ價額(有税品ハ稅額ヲ併記スルコト)ヲ検査當日毎ニ集計スルコト

(理由) 左記ノ如キ事由ニ因リ統計ノ正確ヲ期シ難キヲ以テナリ

イ、郵便局ハ一箇月毎ニ取經メ翌月十日迄ニ税關ニ報告ス

ロ、價額ハ有税、無税品ノ合算ナルモ郵便局ノ當務者カ小包ノ全個數ニ適宜ノ

記

單價ヲ乘シテ其ノ額ヲ通知スルモノノ如シ

ハ、有税品ハ納稅済ノモノヲ郵便局ニテ整理シ十數枚取經メタル後税關ニ送付シ來ル爲又ハ名宛人ノ都合等ニ依リ數個月ニ跨ルモノ多キアリ

決議 趣旨可決 各關ニ於テ郵便局ニ交渉ノ上實行スルコト

(六) 輸出入植物取締法ニ關スル事項

二二、植物隔離苗圃ヲ設置セラレタシ(横濱)

(理由) 植物類ノ病害ニハ入港時ニ於ケル一回ノ検査ヲ以テ罹病ノ有無ヲ確實ニ決定シ難キ場合少カラス玻璃室ノ隔離苗圃ヲ設ケ罹病ノ疑アル植物ヲ其ノ中ニ假

植シテ長期ニ互リ検査ヲ行ヒ其ノ確實ヲ期セムコトヲ望ム

決議 參考

二三、輪移入植物ノ隔離停留場ヲ新設セラレタシ(神戸)

(理由) 從來學術研究等ノ用ニ供スル爲輪移入スル植物類ト雖病菌害虫附著シ又ハ附著ノ惧アルモノハ之ニ對スル保管ノ設備アラサルヲ以テ直ニ燒棄シ居レリ斯テハ學術ノ進歩發達ヲ妨クルノ甚シキニ因リ各關ニ隔離圃及隔離室ヲ設ケ病菌害虫附著ノ惧アルモノノミニ限り一箇年停留セシメ健全ナルモノニ對シ其ノ輪移入ヲ許可セントス

決議 參考

(七) 官規官制及會計經理ニ關スル事項

二四、職員待遇改善ニ關スル件(門司)

- イ、税關鑑査官ノ最高官等ヲ高等官三等トシ俸給モ一號表トスルコト
- ロ、監吏ノ平均俸給ヲ普通判任官ノ平均俸給ニ引上クルコト

決議 參考

二五、判任官進級ニ關スル件(橫濱)

(理由) 官吏ノ病氣危篤等ノ場合多年ノ勤勞成績ニ依リ増俸ノ必要アリト認ムルトキ高等官ニ在リテハ高等官等俸給令ニ於テ之ニ別段ノ制限ヲ設ケラレサルモ獨リ判任官ニ對シテハ判任官俸給令ニ於テ級俸ニ依リ之等ノ場合ニモ制限ヲ設ケラレ進級ノ途ヲ有セサルカ如キハ彼此均衡ヲ得サルノ嫌アルニ付是等同一ナル待遇ヲ附與シ得ラルル様御講究アラムコトヲ望ム

決議 參考

二六、待遇職員ノ死亡賜金ニ關スル件(橫濱)

(理由) 待遇職員ハ退職ノ場合ニハ恩給法ニ依リ官吏同一ノ恩給ヲ受クルモ在職中死亡ノ場合ニハ官吏ハ俸給令ニ依リ其ノ遺族ニ對シ死亡賜金給與ノ途アルモ獨リ待遇職員ニハ之カ給與ノ規定ヲ存セサルハ彼此均衡ヲ得サルノ嫌アルニ付是等同一ノ待遇ヲ附與シ得ラルル様御講究アラムコトヲ望ム

決議 參考

二七、大藏省雇員俸給支給例ハ軍籍ニ在ル雇傭人カ戰時又ハ演習召集ニ應シタル場合ニハ俸給ヲ支給セサル規定ナルモ陸海軍ヨリ受クル俸給給料カ現俸給ヨリ少額ナルトキハ其ノ

差額ヲ支給シ得ル様改正スルコト(門司)

(理由) 他省トノ振合ヲ考慮スヘキハ勿論ナルモ現ニ海軍省ニ此ノ規程ヲ設ケアリ又官吏ノ應召ニ際シテハ是等ノ給與規程ヲ有スルニ拘ラス同ク國家ノ公役ニ服スル雇傭人ニ之カ恩典ヲ缺クハ時勢ノ趨向上面白カラス仍テ之カ改正補足ヲ爲サントスル所以ナリ

決議 參考

二八、書籍及「フ井ルム」ニ對シ嚴密ナル檢閲ヲ爲ス爲臨時職員ヲ設クルコト(神戸)

(理由) 過般ノ共產黨事件ニ鑑ミ外國ヨリ輸入スル書籍類及「フ井ルム」ニ對シテハ今後其ノ内容ニ就キ嚴密ナル檢閲ヲ要スヘキヲ以テ其ノ處置ニ遺漏ナキヲ期スル爲各關ニ之カ事務ニ從事スヘキ臨時職員ヲ設ケントスルモノナリ

臨時職員設置方手配中

二九、防疫員常設ニ關スル件(橫濱)

(理由) 税關構内ニ集散スル内外貨物ノ内ニハ傳染病流行地ヲ經過シ既ニ病毒ニ汚染シタルモノ無之ヲ保シ難キニ付之カ媒介ヲ爲ス鼠族昆虫類ノ驅除、汚物ノ掃除、塵芥ノ焼却等ヲ施行スル爲税關内ニ相當人員ノ防疫員ヲ常置セラレタキ

ニ付右御講究アラムコトヲ望ム

一九八

決議 參考

三〇、醫官及檢疫醫ニ自宅開業ヲ許容スルコト(神戸)

(理由) 醫官及檢疫醫ハ多ク衛生學的又ハ細菌學的研究ニ没頭シ實際臨床ニ遠カルノ傾向アルヲ以テ自然之ニ對スル技能ノ衰退ヲ來スニ至リ單リ本人ノ修養上面白カラサル影響アルノミナラス斯ノ如キハ惹テ税關醫員ニ人材ヲ得ルノ途ニアラサルヲ以テ檢疫事務執行上支障ナキ限リ自宅診療ニ從事スルヲ得シメ以テ如上ノ缺陷ヲ補ハントスルモノナリ

撤回

三一、服制統一並現品貸與方ノ件(横濱)

(理由) 服制ヲ統一シ税關被服費ノ給與制ヲ廢シ港務部職員ノ如ク總テ之ヲ現品貸與制ニ改メ月俸五拾圓ヲ超ユル監視及戶外勤務ノ事務官補、鑑査官補、植物檢査官補ニモ之ヲ及ホサレンコトニ付テハ既ニ前年會議ノ決議ヲ經タル所タリ而シテ右服制統一ノ場合ニハ現行正装ノ外ニ禮裝(警察部長、警視、警部ノ如キ)ニ關シテモ御講究ノ上制定アラムコトヲ望ム

決議 參考

三二、制服ヲ統一シテ其ノ給與ヲ一定スルコト(門司)

決議 參考

(八) 雜

三三、税關棧橋及繫船岸壁使用規則改正ニ關スル件(横濱)

(理由) 現行ノ使用規則ハ其ノ使用ノ場合事前許可ヲ受クルコトトナリ居レルモ料金ヲ徴收スルニ方リ使用時間ノ延長又ハ短縮ノ場合ニ於テ是等ノ追徴頗ル繁雜ニシテ且誤謬ヲ生スルノ虞アルニ付使用料ハ使用後一定期間内ニ之ヲ納付スルコトニ改メラレムコトヲ望ム

撤回

三四、開港内ノ水面ヲ専用スル漁業權ヲ與ヘムトスル場合ニ於テハ豫メ税關ニ協議スル様農林省ニ交渉セラレタシ(横濱)

決議 可決

三五、關稅定率法上ノ輸入禁制品並麻藥類及銃砲火藥類等ノ取締並之ニ關スル地方廳トノ連絡方等ニ關シ本省主催ノ下ニ各税關ノ協議會ヲ開催セラレタシ(大阪)

(理由) 關稅定率法上ノ輸入禁制品殊ニ公安ヲ害スヘキ書籍其ノ他ノ物品並麻藥類及銃砲火藥類等ニ關シテハ最も有效適實ナル取締ヲ爲スヲ必要トス、之ニ就テハ各税關ノ協力及地方廳トノ連絡ヲ必要トスヘキヲ以テ之ニ關スル具體的措置等ニ付充分ナル協議ヲ遂クル様配慮セラレムコトヲ望ム

一九九

關係省打合事項

農林省關係

宮本農林事務官

- 燃料用礦油(關稅定率法第七條四ノ二)輸入ノ件ニ關シ左記取扱方御配慮アリ度シ
- 一、稅關ニ於テ輸入許可後通關數量、使用量等商工省ニ通報アリ度シ
 - 二、輸入ノ際相當數量許可シタル場合ニ分括通關ヲ認メラレ度シ
 - 三、輸入許可後長期間引取ラサルモノ及使途不明ナルモノニ對シ許可ヲ取消ス様致度シ

横濱稅關長

開港港界内ニ漁業權ヲ行使スルモノアリ取締上支障多キニ因リ將來ハ成ル可ク許可セサル様、又已ムヲ得サル場合ハ稅關ニ協議アリ度シ

橋本農林事務官

右ニ付テハ先般遞信省ヨリモ開港港則施行區域内ニ於テハ漁業權ヲ認メサル様希望申出ノ次第モアリ農林當局ニ於テモ相當重視シ居レルモ漁業ニ付テハ長年月之ニ從事スルモノ多

シ從ツテ今日之ヲ禁止若ハ制限スルトキハ直ニ生活上死活問題ヲ惹起スヘク又之ヲ補償スルトスルモ莫大ノ費用ヲ要スヘキニ因リ從來ノ漁業權ヲ有スルモノハ其ノ儘トシ今後ハ之ヲ許可セサル方針ヲ執リ度シ

主税局長

更新ノ場合如何

橋本農林技師

原則トシテ之ヲ許可シ居レリ

大阪税關長

地方廳限リ漁業ヲ許可シ得ルモノニ對シテハ其ノ都度税關ニ協議スル様農林省ヨリ通牒ヲ發セラレ度シ

橋本農林技師

考慮スヘシ

内務省關係

六月七日内務省關係打合會議ヲ開催ス、各税關長、主税局係官及同省ヨリ潮次官、山田衛生局長、内野防疫課長其他係官臨席ス、席上内務次官ヨリ海港檢疫勵行方及銃砲火藥類輸出入竝對支兵器彈藥類輸出取締方等ニ關シ希望條項ヲ具シ挨拶アリ、次テ衛生局長、防疫課長ヨリ右條項ヲ敷衍シ説明スル所アリタリ

内務次官指示事項及挨拶左ノ如シ

(指示)

御大禮ニ關スル檢疫施設ニ關スル件

今秋京都ニ於テ行ハセラルヘキ御大禮ニ關スル衛生上ノ施設事項中海外ヨリ來ル傳染病ニ對スル豫防ニ付テハ特ニ注意セサルヘカラサルトコロニ屬ス、各位克ク部下ヲ督勵シ過般通達シタル事項ヲ勵行シ檢疫豫防ノ效果ヲ全フセムコトヲ望ム

傳染病情報利用ニ關スル件

近時國際聯盟其ノ他ノ機關ニ依リ海外ニ於ケル傳染病發生ノ狀況カ迅速且比較的正確ニ之ヲ知り得ルコトトナリタルヲ以テ檢疫施行上ニ於テモ充分ニ留意シ尙又船舶等ニ於テハ常時之ニ注意スルコトニ依ツテ其ノ自衛上ニ於テモ多大ノ便益ヲ得ルコトアルヘキニ依リ之カ周知ト利用トニ關シ適當ノ注意ヲ與ヘ以テ防疫上遺憾ナキ様取計ハレムコトヲ望ム

潮内務次官挨拶

二〇六

茲ニ各位御會同ノ機會ニ於テ一言内務省ノ希望スル所ヲ述ベ併セテ二三ノ點ニ付御考慮ヲ煩ハシ度イト存ジマス。

今秋行ハセラルル御大禮ノ御滞リナク御終了アラセラルルコトハ舉國官民ノ衷心ヨリ祈ツテ已マス所デアアルコトハ茲ニ中ス迄モナイコトデアリマス。内務省ニ於キマシテモ銳意各種ノ施設ヲ進メ殊ニ衛生ニ關シマシテハ萬遺漏ナキヲ期シ各方面ニ互リテ豫防警戒ニ努メ之ガ對策ヲ講ジツツアルノデアリマスガ海外ヨリ襲來スル「コレラ」(ペスト)等ノ防止ニ付キマシテハ特ニ深甚ノ注意ヲ要スルコトト考ヘルノデアリマス。此ノ場合ニ於テ各位ノ管掌セラルル海港檢疫ノコトハ對外防疫ノ第一線トシテ最も重要ナル意義ヲ持ツモノデアリマスカラ幸ニ各位特別ノ御盡力ニ依ツテ外來傳染病ノ防遏上充分ナル效果ヲ擧グルコトヲ切望シテ已マヌ次第デアリマス。其ノ具體的方法ニ關シマシテハ既ニ夫々通達ノ次第モアリマスカラ之ガ實行上ニ付遺漏ナキヲ期セラルル様茲ニ重ねテ希望致シテ置キマス。

海港檢疫ノ事務ハ前申シマス如ク一面ニ於テ海外ヨリ輸入スル病毒ニ對シテ第一ノ遮斷線デアリマスカラ最も嚴重周密デアラネバナラヌコトハ勿論デアリマスガ一面ニ於テ日二月ニ繁劇ヲ加ヘツツアル交通其ノ他ニ對スル一ツノ關門トナルノデアリマスカラ之ガ執行ハ最も敏速ヲ旨トシ檢疫ノ爲ニ甚シク交通ヲ阻害スル如キコトナキ様充分ノ注意ヲ拂ハネバナラヌ

コトト存ズルノデアリマス。而シテ之ト同時ニ檢疫事務ハ常ニ合理的且適切ニシテ其ノ處置ニ對シテハ何人モ納得スル様充分ノ注意研究ヲ爲スノ必要ガアルト思ヒマス。

近年ニ於キマシテハ海外情報機關モ著シク改良セラレ進歩致シマシテ刻々ニ船舶ノ發航地寄港地ノ傳染病ノ狀況モ分明致シテ居ルノミナラズ無線電信ノ發達普及ハ來航スル船舶ノ狀況モ或程度迄之ヲ豫知スルコトガ出來ルノデアリマスカラ出來得ル丈ケ之ガ利用ニ努メテ事務ノ簡捷ト交通上ノ便宜トヲ計ル様ニ心懸ケネバナラヌコトト思フノデアリマス。

檢疫ノ施行ハ多クハ海上ニ於テ行ハルルノデアリマスカラ従事員ノ勞苦ノ大ナルコトハ重々諒察シテ居ルトコロデアリマスガ其ノ接スル相手方ハ永ラク航海ノ無聊ニ苦ミ一刻モ早ク上陸ヲ希望シテ居ル者デアリ又事情ニ馴レザル外國人モ多數アルコトデアリマスカラ其ノ之ニ接スルニハ親切丁寧ヲ旨トシ徒ラニ感情ヲ害スルガ如キコトナキ様注意スルコトハ最も必要ナルコトデアルト思フノデアリマス。次ニ銃砲火藥類ノ輸出入ノ件ニ付キマシテ各位ノ御留意ヲ煩シ度イト思ヒマス。此ノ銃砲火藥類ノ輸出入ハ物ノ性質上國內ノ治安維持並國交ノ親善保持ニ關係スルコトノ多イノハ更メテ中ス迄モ無イコトデアリマス。從テ法令ヲ以テ嚴重ナル制限ヲ設ケ又特ニ絶對ニ之ヲ禁止スル場合ヲモ生ズル譯デアリマスガ法令取締リノ愈々密ナラムトスルト共ニ之ヲ潜ラムトスルノ手段モ亦益々巧緻ヲ極メ密輸出入事犯ノ今尙全ク其ノ跡ヲ絶タナイノハ各位ト共ニ甚ダ遺憾ニ存ズル次第デアリマス。

隣邦支那ニ於ケル和平促進ノ爲英米佛伊等ノ所謂聯合諸國ト協議ノ上支那全土ヲ通シテ

二〇七

其ノ權力ノ確立ヲ認メラルル政府ノ成立スルニ至ル迄ハ是等諸國及帝國カラ支那ヘ兵器彈藥ノ輸出ヲ嚴禁スルノ申合ヲ爲シテ居ルノデアリマス。從テ萬一ニモ支那ノ動亂ニ乘ジテ殺上禁制品ノ密輸出ヲ圖ル様ナ者ガアリマシタラバ獨リ聯合諸國ニ對シテ帝國ノ信義ヲ失墜スル許リデナク隣邦ノ和平促進ノ爲ニモ非常ニ憂フベキコトデアリマスカラ克ク之ヲ制壓シテ彼等ニ乘ズルノ機會ヲ與ヘヌ様致スコトガ又極メテ必要デアルト考ヘルノデアリマス。從テ之ガ取締ニ付テハ將來特ニ各位ニ對シテ一段ノ御助力ヲ希望スル次第デアリマス尙地方警察官憲ニ對シテモ別ニ稅關官憲トノ連絡共助ニ關シ指示ヲ發スル筈デアリマスカラ其ノ連絡方法等ニ關シ地方官憲ト十分ノ御協議ヲ願ヒ度イノデアリマス。

以上ハ海港檢疫事務並銃砲火藥類ノ出入取締ニ關シテ各位ノ御留意ヲ願ツタ次第デアリマス何卒諸方面ニ跨リ萬遺憾ナキヲ期セラルル様希望シテ止マナイ次第デアリマス。

主稅局長注意事項

六月七日會議閉會ニ際シ藤井主稅局長ヨリ左記事項ニ關シ指示セラレタリ

一、稅關ト本省トノ連絡

執務上經伺ヲ要シ或ハ各關ノ連絡ヲ保ツヘキモノハ必要ニ應シ可成速ニ經伺ヲ爲シ又ハ協議ヲ遂ケ適當ノ處置ヲ講シ日常執務上ニ遲滯ナキヲ期スルコト

例ヘハ稅率ノ適用方等ニ關スル問題ノ如キハ最モ速ニ決定ヲ爲スニ非サレハ到底正確且統一アル稅法ノ施行ヲ庶幾シ難シ鑑査官會議ノ議題トナルモノ例年多數ニ上レルカ如キモ之等ハ類別通信等ノ方法ニ依リ可成速ニ疑問ヲ解決スルヲ適當トスヘシ

二、出勤時間ノ勵行

稅關事務ハ特ニ敏活ヲ尙フ現業的事務ニシテ其ノ内容モ概ネ時間的ニ多數ノ事務ノ處理ヲ要スヘキモノナリト思惟ス

故ニ事務ノ進捗ヲ圖ラムカ爲ニハ執務時間ノ正確ヲ期スルコト最肝要ナリ

現在各關ニ於テハ大體開廳定時間以上ニ涉リ執務セラルル様ナルモ登廳時間ニ至リテハ尙遺憾ナキニアラサルカ如シ故ニ此ノ點ニ付一層勵行ヲ期セラレタシ之カ爲ニハ稅關長ヲ始メ各部課長等幹部諸君カ率先シテ時間勵行ヲ範示シ以テ能率ノ増進ヲ圖ラレ度シ

三、税關内部部課間殊ニ港務部ト税關固有ノ部課トノ吏員ノ入レ替ヘ

税關ノ執務振ヲ見ルニ餘リニ分業的ニ流ルルカ如キ向モアル様見受ケラレ動モスレハ機械的執務ニ陥リ事務ノ全般ニ互リ通曉セサルノ憾ナシトセス斯クテハ事務練達ナル職員ヲ得難ク惹テ事務ノ刷新改善ヲ庶幾スルコト困難ナルヘキニ因リ關内ニ於テ吏員ノ更迭ヲ行ヒ各部課ノ事務ヲ習熟セシムルト共ニ志氣ノ緊張ヲ圖ルコト

四、營繕ニ關スル經費

營繕ニ關スル經費ハ從來必要ナルモノノミヲ要求セラレ居ルコトハ勿論ナルヘキモ往々往ニシテ其ノ要求膨大ニシテ年々僅々其ノ一小部分ヲ認メラルルニ過キサル現状ナリ故ニ將來ハ主トシテ緊急止ムヲ得サルモノヲ要求スルコトトシ且其ノ提出期限(三月十五日迄)ヲ嚴守スルコト

秘

昭和四年税関長會議議事要録

0000 0971